

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	5
		2年			
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	6
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	7
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	8	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	9	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	10	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	11	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	12
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	13
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	19
		1年			
	自己管理論 山本 浩二	2学期	1	2	20
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博 他	1学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	22
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	23	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	24	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	25	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	26	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	27
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	28
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	29
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	30
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	31
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	32
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	33
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	34
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	35
	黒田 次郎	1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	36	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	37	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	38	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	39	
磯貝 浩久	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
鯨 吉夫	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	41
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	42
	徳永 政夫	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	43
	伊野 憲治 他	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	44
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	45
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	46
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	47
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	48
	廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	49
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	50
	伊原木 大祐	1年			
教養基礎演習I	1学期	1	2	51	
高西 敏正	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	52	
伊野 憲治 他	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	53	
眞鍋 和博 他	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	54	
日高 京子	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	55	
小林 道彦	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	56
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	57
		1年			
	教養基礎演習II 稲月 正	2学期	1	2	58
		1年			
	教養基礎演習II 廣川 祐司	2学期	1	2	59
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	62
		1年			
	教養演習AI 高西 敏正	1学期	2	2	63
		2年			
	教養演習AI 伊野 憲治 他	1学期	2	2	64
		2年			
	教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	65
		2年			
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	66	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	67	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	68	
	2年				
教養演習AI 伊原木 大祐	1学期	2	2	69	
	2年				
教養演習AII 伊野 憲治 他	2学期	2	2	70	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII	2学期	2	2	71
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	72
	二宮 正人	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	73
	日高 京子	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	74
	小林 道彦	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	75
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習AII (防衛セミナー)	1学期	2	2	76
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	77
	稲月 正	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	78
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習BI	1学期	3	2	79
	伊野 憲治 他	3年			
教養演習BI	1学期	3	2	80	
徳永 政夫 他	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	81	
日高 京子	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	82	
小林 道彦	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	83	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BI (防衛セミナー)	1学期	3	2	84	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	85	
伊原木 大祐	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	86
		3年			
	教養演習BII 伊野 憲治 他	2学期	3	2	87
		3年			
	教養演習BII 二宮 正人	2学期	3	2	88
		3年			
	教養演習BII 日高 京子	2学期	3	2	89
		3年			
	教養演習BII 小林 道彦	2学期	3	2	90
		3年			
	教養演習BII 神原 ゆうこ	2学期	3	2	91
		3年			
	教養演習BII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	92
		3年			
教養演習BII 稲月 正	2学期	3	2	93	
	3年				
教養演習BII 伊原木 大祐	2学期	3	2	94	
	3年				
プロジェクト演習I 見館 好隆	1学期	2	2	95	
	2年				
プロジェクト演習II 見館 好隆	2学期	3	2	96	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	97
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	98
		1年			
地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	99	
	1年				
自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	100	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	101
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2	102
		1年			
	数のたのしみ 閉講	集中	1	2	
		1年			
	私たちと宗教 関 一敏	2学期	1	2	103
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	104
		1年			
	ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	105
		1年			
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	106
		1年			
芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	107	
	1年				
文学を読む 福島 勲 他	2学期	1	2	108	
	1年				
戦争と人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	109	
	1年				
民主主義とは何か 大澤 津 他	1学期	1	2	110	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	111	
	1年				
ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2	112	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	113
		1年			
	共生の作法 二宮 正人 他	1学期	1	2	114
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	115
		1年			
	市民活動論 休講	2学期	1	2	
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	116
		1年			
	つながりの人間学 坂本 毅啓	1学期	1	2	117
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	118
		1年			
	現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ	1学期	1	2	119
		1年			
	現代の国際情勢 山本 直 他	1学期	1	2	120
		1年			
	国際社会論 稲月 正	2学期	1	2	121
		1年			
国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	122	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	123	
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	124	
	1年				
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	125	
	1年				
テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	126	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本 金 鳳珍	2学期	1	2	127
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	128
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	129
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	130
		1年			
	戦後の日本経済 土井 徹平	2学期	1	2	131
		1年			
	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	132
		1年			
教養特講I 休講		1	2		
	1年				
教養特講II (セクシュアル・ライツ) 河嶋 静代	2学期	1	2	133	
	1年				
教養特講II (ホスピタリティ論) 西澤 健次 他	2学期	1	2	134	
	1年				
教養特講III (まなびと講座A) 眞鍋 和博	1学期	1	2	135	
	1年				
教養特講IV (まなびと講座B) 眞鍋 和博	2学期	1	2	136	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	137
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	138
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	139
		1年			
	社会学 堤 圭史郎	1学期	1	2	140
		1年			
	人文地理学 外戸保 大介	2学期	1	2	141
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	142
		1年			
地誌学 外戸保 大介	1学期	1	2	143	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	144	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	145	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	146
		1年			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	147
		済1-1.再履			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	148
		済1-3.再履			
	データ処理 佐藤 貴之	1学期	1	2	149
		済1-2.再履			
	データ処理 浅羽 修丈	2学期	1	2	150
		1学期未修得者再履			
情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	151	
	2年				
情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	152	
	2年				
情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	153	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	プログラミング基礎	2学期	2	2	154
	浅羽 修丈	2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (済 1 - A)	1学期	1	1	155
	下條 かおり	済 1 - A			
	英語I (済 1 - B)	1学期	1	1	156
	船方 浩子	済 1 - B			
	英語I (済 1 - C)	1学期	1	1	157
	木梨 安子	済 1 - C			
	英語I (済 1 - D)	1学期	1	1	158
	安丸 雅子	済 1 - D			
	英語I (済 1 - E)	1学期	1	1	159
	渡邊 晶子	済 1 - E			
	英語II (済 1 - A)	2学期	1	1	160
	ホセ・クルーズ	済 1 - A			
	英語II (済 1 - B)	2学期	1	1	161
	船方 浩子	済 1 - B			
	英語II (済 1 - C)	2学期	1	1	162
	木梨 安子	済 1 - C			
	英語II (済 1 - D)	2学期	1	1	163
	下條 かおり	済 1 - D			
	英語II (済 1 - E)	2学期	1	1	164
	渡邊 晶子	済 1 - E			
英語III (済 1 - A)	1学期	1	1	165	
ダニー・ミン	済 1 - A				
英語III (済 1 - B)	1学期	1	1	166	
アルバート・オスカー・モウ	済 1 - B				
英語III (済 1 - C)	1学期	1	1	167	
ジャマール・ミラー	済 1 - C				
英語III (済 1 - D)	1学期	1	1	168	
デビッド・アンソニー・コフリン	済 1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (済 1-E) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	169
		済 1 - E			
	英語IV (済 1-A) ダニー・ミン	2学期	1	1	170
		済 1 - A			
	英語IV (済 1-B) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	171
		済 1 - B			
	英語IV (済 1-C) ジャマール・ミラー	2学期	1	1	172
		済 1 - C			
	英語IV (済 1-D) デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	173
		済 1 - D			
	英語IV (済 1-E) 吉田 禎子	2学期	1	1	174
		済 1 - E			
	英語V (済 2-A) デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	175
		済 2 - A			
	英語V (済 2-B) 永末 康介	1学期	2	1	176
		済 2 - B			
	英語V (済 2-C) 葛西 宏信	1学期	2	1	177
		済 2 - C			
	英語V (済 2-D) 村田 希巳子	1学期	2	1	178
		済 2 - D			
英語V (済 2-E) 大塚 由美子	1学期	2	1	179	
	済 2 - E				
英語VI (済 2-A) 永末 康介	2学期	2	1	180	
	済 2 - A				
英語VI (済 2-B) 葛西 宏信	2学期	2	1	181	
	済 2 - B				
英語VI (済 2-C) 吉田 禎子	2学期	2	1	182	
	済 2 - C				
英語VI (済 2-D) 村田 希巳子	2学期	2	1	183	
	済 2 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI (済 2 - E) 大塚 由美子	2学期	2	1	184
	済 2 - E				
	英語VII (済 2 - A) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	185
	済 2 - A				
	英語VII (済 2 - B) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	186
	済 2 - B				
	英語VII (済 2 - C) ジャマール・ミラー	1学期	2	1	187
	済 2 - C				
	英語VII (済 2 - D) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	188
	済 2 - D				
	英語VII (済 2 - E) 十時 康	1学期	2	1	189
	済 2 - E				
	英語VIII (済 2 - A) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	190
	済 2 - A				
	英語VIII (済 2 - B) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	191
	済 2 - B				
英語VIII (済 2 - C) ジャマール・ミラー	2学期	2	1	192	
済 2 - C					
英語VIII (済 2 - D) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	193	
済 2 - D					
英語VIII (済 2 - E) マーニー・セイティ	2学期	2	1	194	
済 2 - E					
英語IX (済 営 律 政 3 年) 伊藤 晃	1学期	3	1	195	
済 営 律 政 3 年					
英語X (済 営 律 政 3 年) 杉山 智子	2学期	3	1	196	
済 営 律 政 3 年					
英語XI (済 営 律 政 3 年) ダニー・ミン	1学期	3	1	197	
済 営 律 政 3 年					
英語XII (済 営 律 政 3 年) ダニー・ミン	2学期	3	1	198	
済 営 律 政 3 年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	199
		済営1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	200
		済営1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	201
		済営1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	202
		済営1年			
	中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	203
		済営人律政群2年			
	中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	204
		済営人律政群2年			
	中国語VII 蘇 小楠	1学期	2	1	205
		済営人律政群2年			
	中国語VIII 蘇 小楠	2学期	2	1	206
		済営人律政群2年			
	上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	207
		英国済営比人3年			
	上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	208
		英国済営比人3年			
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	209	
	英国済営比人3年				
上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	210	
	英国済営比人3年				
朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	211	
	済営群1年				
朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	212	
	済営群1年				
朝鮮語III チャン ユンヒャン	1学期	1	1	213	
	済営群1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	214
		済営群 1年			
	朝鮮語Ⅴ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	215
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅵ チャン ユンヒャン	2学期	2	1	216
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅶ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	217
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅷ 金 京姫	2学期	2	1	218
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	3	1	219
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	3	1	220
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅲ 金 貞愛	1学期	3	1	221
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅳ チャン ユンヒャン	2学期	3	1	222
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語Ⅰ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	223
		済営比人 1年			
ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	224	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅲ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	225	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	226	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅴ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	227	
	済営比人律政 2年				
ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	228	
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VII ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	229
		済営比人律政2年			
	ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	230
		済営比人律政2年			
	ドイツ語I 古賀 正之	1学期	1	1	231
		済営人1年			
	ドイツ語II 古賀 正之	2学期	1	1	232
		済営人1年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	233
		済営人1年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	234
		済営人1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	235
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	236
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	237
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	238
		済営比人律政2年			
フランス語I 中川 裕二	1学期	1	1	239	
	済営人1年				
フランス語II 中川 裕二	2学期	1	1	240	
	済営人1年				
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	241	
	済営人1年				
フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	242	
	済営人1年				
フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	243	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	244
		済営比人律政 2年			
	フランス語VII ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	245
		済営比人律政 2年			
	フランス語VIII ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	246
		済営比人律政 2年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	247
		済営 1年			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	248
		済営 1年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	249
		済営 1年			
スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	250	
	済営 1年				
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	251	
	済営比人律政 2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	252	
	済営比人律政 2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	253	
	済営比人律政 2年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	254	
	済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明 金曜 2限 (火曜 2限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	255
		留学生 1年			
	日本語 A 小林 浩明 金曜 3限 (火曜 3限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	256
		留学生 1年			
	日本語 A 清水 順子 火曜 2限 (金曜 2限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	257
		留学生 1年			
	日本語 A 清水 順子 火曜 3限 (金曜 3限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	258
		留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 B	1学期 (ペア)	1	2	259
	徐 暁輝 水曜 2限 (木曜 2限とペア)	留学生 1年			
	日本語 B	1学期 (ペア)	1	2	260
	徐 暁輝 水曜 3限 (木曜 3限とペア)	留学生 1年			
	日本語 B	1学期 (ペア)	1	2	261
	清水 順子 木曜 3限 (水曜 3限とペア)	留学生 1年			
	日本語 B	1学期 (ペア)	1	2	262
	清水 順子 木曜 2限 (水曜 2限とペア)	留学生 1年			
	日本語 C	2学期 (ペア)	1	2	263
	小林 浩明 金曜 3限 (火曜 3限とペア)	留学生 1年			
	日本語 C	2学期 (ペア)	1	2	264
	小林 浩明 金曜 2限 (火曜 2限とペア)	留学生 1年			
	日本語 C	2学期 (ペア)	1	2	265
	則松 智子 火曜 3限 (金曜 3限とペア)	留学生 1年			
	日本語 C	2学期 (ペア)	1	2	266
	則松 智子 火曜 2限 (金曜 2限とペア)	留学生 1年			
	日本語 D	2学期 (ペア)	1	2	267
	徐 暁輝 水曜 2限 (木曜 2限とペア)	留学生 1年			
	日本語 D	2学期 (ペア)	1	2	268
	徐 暁輝 水曜 3限 (木曜 3限とペア)	留学生 1年			
日本語 D	2学期 (ペア)	1	2	269	
清水 順子 木曜 3限 (水曜 3限とペア)	留学生 1年				
日本語 D	2学期 (ペア)	1	2	270	
清水 順子 木曜 2限 (水曜 2限とペア)	留学生 1年				
日本事情 (人文) A	1学期	1	2	271	
則松 智子	留学生 1年				
日本事情 (人文) B	2学期	1	2	272	
清水 順子	留学生 1年				
日本事情 (社会) A	1学期	1	2	273	
山崎 勇治	留学生 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(社会)B 山崎 勇治	2学期	1	2	274
	留学生1年				
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習 藤井 敦	1学期	1	2	275
	1年				
	入門演習 土井 徹平	1学期	1	2	276
	1年				
	入門演習 牛房 義明	1学期	1	2	277
	1年				
	入門演習 後藤 宇生	1学期	1	2	278
	1年				
	入門演習 田村 大樹	1学期	1	2	279
	1年				
	入門演習 田中 淳平	1学期	1	2	280
	1年				
	入門演習 前林 紀孝	1学期	1	2	281
	1年				
	入門演習 畔津 憲司	1学期	1	2	282
	1年				
	基礎演習 後藤 宇生	1学期	2	2	283
	2年				
	基礎演習 魏 芳	2学期	2	2	284
	2年				
	基礎演習 後藤 尚久	1学期	2	2	285
	2年				
	基礎演習 朱 乙文	1学期	2	2	286
	2年				
	基礎演習 田村 大樹	1学期	2	2	287
	2年				
	基礎演習 林田 実	1学期	2	2	288
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	基礎演習	1学期	2	2	289
	前田 淳	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	290
	藤井 敦	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	291
	畔津 憲司	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	292
	牛房 義明	2年			
	演習I	1学期	3	2	293
	牛房 義明	3年			
	演習I	1学期	3	2	294
	城戸 宏史	3年			
	演習I	1学期	3	2	295
	武田 寛	3年			
	演習I	1学期	3	2	296
	後藤 宇生	3年			
	演習I	1学期	3	2	297
	後藤 尚久	3年			
	演習I	1学期	3	2	298
	朱 乙文	3年			
演習I	1学期	3	2	299	
田中 淳平	3年				
演習I	1学期	3	2	300	
田村 大樹	3年				
演習I	1学期	3	2	301	
林田 実	3年				
演習I	1学期	3	2	302	
藤井 敦	3年				
演習I	1学期	3	2	303	
前田 淳	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習I	1学期	3	2	304
	松永 裕己	3年			
	演習I	2学期	3	2	305
	魏 芳	3年			
	演習I	1学期	3	2	306
	土井 徹平	3年			
	演習I	1学期	3	2	307
	前林 紀孝	3年			
	演習I	1学期	3	2	308
	柳井 雅人	3年			
	演習I	1学期	3	2	309
	畔津 憲司	3年			
	演習II	2学期	3	2	310
	牛房 義明	3年			
	演習II	2学期	3	2	311
	城戸 宏史	3年			
	演習II	2学期	3	2	312
	武田 寛	3年			
演習II	2学期	3	2	313	
後藤 宇生	3年				
演習II	2学期	3	2	314	
後藤 尚久	3年				
演習II	2学期	3	2	315	
朱 乙文	3年				
演習II	2学期	3	2	316	
田中 淳平	3年				
演習II	2学期	3	2	317	
田村 大樹	3年				
演習II	2学期	3	2	318	
林田 実	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習II	2学期	3	2	319
	藤井 敦	3年			
	演習II	2学期	3	2	320
	前田 淳	3年			
	演習II	2学期	3	2	321
	松永 裕己	3年			
	演習II	2学期	3	2	322
	魏 芳	3年			
	演習II	2学期	3	2	323
	土井 徹平	3年			
	演習II	2学期	3	2	324
	前林 紀孝	3年			
	演習II	2学期	3	2	325
	柳井 雅人	3年			
	演習II	2学期	3	2	326
	畔津 憲司	3年			
	演習III	1学期	4	2	327
	牛房 義明	4年			
	演習III	1学期	4	2	328
	城戸 宏史	4年			
演習III	1学期	4	2	329	
後藤 宇生	4年				
演習III	1学期	4	2	330	
後藤 尚久	4年				
演習III	1学期	4	2	331	
朱 乙文	4年				
演習III	1学期	4	2	332	
田中 淳平	4年				
演習III	1学期	4	2	333	
田村 大樹	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習III	1学期	4	2	334
	林田 実	4年			
	演習III	1学期	4	2	335
	藤井 敦	4年			
	演習III	1学期	4	2	336
	前田 淳	4年			
	演習III	1学期	4	2	337
	松永 裕己	4年			
	演習III	2学期	4	2	338
	魏 芳	4年			
	演習III	1学期	4	2	339
	柳井 雅人	4年			
	演習III	1学期	4	2	340
	畔津 憲司	4年			
	演習IV	2学期	4	2	341
	牛房 義明	4年			
	演習IV	2学期	4	2	342
	城戸 宏史	4年			
	演習IV	2学期	4	2	343
	後藤 宇生	4年			
演習IV	2学期	4	2	344	
後藤 尚久	4年				
演習IV	2学期	4	2	345	
朱 乙文	4年				
演習IV	2学期	4	2	346	
田中 淳平	4年				
演習IV	2学期	4	2	347	
田村 大樹	4年				
演習IV	2学期	4	2	348	
林田 実	4年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習Ⅳ	藤井 敦	2学期	4	2	349
			4年			
	演習Ⅳ	前田 淳	2学期	4	2	350
			4年			
	演習Ⅳ	松永 裕己	2学期	4	2	351
			4年			
	演習Ⅳ	魏 芳	2学期	4	2	352
			4年			
	演習Ⅳ	柳井 雅人	2学期	4	2	353
			4年			
	演習Ⅳ	畔津 憲司	2学期	4	2	354
			4年			
	ミクロ経済学Ⅰ	朱 乙文	2学期	1	2	355
			1年			
	マクロ経済学Ⅰ	田中 淳平	2学期	1	2	356
			1年			
	ミクロ経済学Ⅱ	朱 乙文	1学期	2	2	357
			2年			
	マクロ経済学Ⅱ	田中 淳平	1学期	2	2	358
			2年			
経済学入門 A	藤井 敦	1学期	1	2	359	
		1年 A'クル-7'				
経済学入門 A	後藤 宇生	1学期	1	2	360	
		1年 B'クル-7'				
経済学入門 B	畔津 憲司	1学期	1	2	361	
		1年 A'クル-7'				
経済学入門 B	前林 紀孝	1学期	1	2	362	
		1年 B'クル-7'				
数学	吉田 友紀	1学期	1	2	363	
		1年 A'クル-7'				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	数学	1学期	1	2	364
	吉田 友紀	1年Bグループ			
	簿記論I	1学期	1	2	365
	白石 和孝	1年Aグループ			
	簿記論I	1学期	1	2	366
	岡部 勝成	1年Bグループ			
	簿記論II	2学期	1	2	367
	白石 和孝	1年Aグループ			
	簿記論II	2学期	1	2	368
	岡部 勝成	1年Bグループ			
	現代日本経済入門A	1学期	1	2	369
	柳井 雅人	1年			
	現代日本経済入門B	2学期	1	2	370
	前田 淳	1年			
	計量経済学I	1学期	2	2	371
	藤井 敦	2年			
	計量経済学II	2学期	2	2	372
	藤井 敦	2年			
日本経済史I	1学期	2	2	373	
土井 徹平	2年				
日本経済史II	2学期	2	2	374	
土井 徹平	2年				
プログラミング	2学期	2	2	375	
中山 仁	2年				
経済学史I	1学期	3	2	376	
川脇 慎也	3年				
経済学史II	2学期	3	2	377	
川脇 慎也	3年				
業界研究I	1学期	3	2	378	
小田 浩史 他	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	業界研究II 福井 直人	集中	3	2	379
			3年		
	ビジネス英語A (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	380
			3年選抜クラス		
	ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	381
			3年		
	ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	382
			3年		
	ビジネス英語A 林 裕二	1学期	3	2	383
			3年		
	ビジネス英語B (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	384
			3年選抜クラス		
	ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	385
			3年		
ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	386	
		3年			
ビジネス英語B 林 裕二	2学期	3	2	387	
		3年			
外書講読 山崎 好裕	2学期	3	2	388	
		3年			
国際比較経済史I 休講	1学期	3	2		
		3年			
国際比較経済史II 休講	2学期	3	2		
		3年			
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I 後藤 尚久	1学期	2	2	389
			2年		
	金融論II 後藤 尚久	2学期	2	2	390
		2年			
産業組織論I 後藤 宇生	1学期	2	2	391	
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	産業組織論II 後藤 宇生	2学期	2	2	392
		2年			
	国際経済論I 末永 勝昭	1学期	2	2	393
		2年			
	国際経済論II 末永 勝昭	2学期	2	2	394
		2年			
	財政学I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	ファイナンス論 武田 寛	2学期	3	2	395
		3年			
	公共経済学 牛房 義明	1学期	3	2	396
		3年			
	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	397
		3年			
	国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	3	2	398
		3年			
	国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	3	2	399
		3年			
国際金融論I 前田 淳	1学期	3	2	400	
	3年				
国際金融論II 前田 淳	2学期	3	2	401	
	3年				
国際マクロ経済学I 休講	1学期	3	2		
	3年				
国際マクロ経済学II 休講	2学期	3	2		
	3年				
■地域経済学系	経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	402
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	経済地理学II 柳井 雅人	2学期	2	2	403
	2年				
	地域経済I 杉浦 勝章	1学期	2	2	404
	2年				
	地域経済II 杉浦 勝章	2学期	2	2	405
	2年				
	北九州経済分析I 城戸 宏史	1学期	2	2	406
	2年				
	北九州経済分析II 城戸 宏史	2学期	2	2	407
	2年				
	地域政策 休講	2学期	2	2	
	2年				
	中国経済 休講	1学期	3	2	
	3年				
	地域金融分析 閉講	2学期	3	2	
	3年				
都市財政I 難波 利光	1学期	3	2	408	
3年					
都市財政II 難波 利光	2学期	3	2	409	
3年					
東アジア経済論 尹 明憲	1学期	3	2	410	
3年					
アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	3	2	411	
3年					
■選択科目B	経営学入門 福井 直人	1学期	1	2	412
	1年Aグループ				
	経営学入門 福井 直人	1学期	1	2	413
1年Bグループ					
民法総則 矢澤 久純	1学期(ペア)	1	4	414	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	法学総論 山口 亮介	1学期	1	2	415
		1年			
	コンピュータシステム 武藤 直彦	1学期	1	2	416
		1年			
	企業論基礎 松本 守	2学期	1	2	417
		1年			
	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	418
		1年Aグループ			
	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	419
		1年Bグループ			
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	420
		1年			
	都市経済論 難波 利光	2学期	1	2	421
		1年			
	データ構造 隈本 寛	2学期	2	2	422
		2年			
	データベース 池田 欽一	2学期	2	2	423
		2年			
	マーケティングI 別府 俊行	1学期	2	2	424
		2年			
マーケティングII 別府 俊行	2学期	2	2	425	
	2年				
原価計算論I 梅澤 俊浩	1学期	2	2	426	
	2年				
原価計算論II 梅澤 俊浩	2学期	2	2	427	
	2年				
財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	428	
	2年				
財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	429	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	簿記論III 白石 和孝 他	2学期	2	2	430
		2年			
	工業簿記 大崎 美泉	集中	2	2	431
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	432
		2年			
	社会福祉原論 小賀 久	2学期	2	2	433
		2年			
	国際協力論I 大平 剛	1学期	2	2	434
		2年			
	国際協力論II 大平 剛	2学期	2	2	435
		2年			
	公共政策論 楢原 真二	1学期	2	2	436
		2年			
	雇用関係法 石田 信平	1学期	2	2	437
		2年			
	労使関係法 石田 信平	1学期	2	2	438
		2年			
	政治学 濱本 真輔	1学期	2	2	439
		2年			
途上国開発論 三宅 博之	1学期	2	2	440	
	2年				
国際法I 休講		2	2		
	2年				
国際法II 休講		2	2		
	2年				
政治過程論 濱本 真輔	2学期	2	2	441	
	2年				
企業活動と法 今泉 恵子	2学期	2	2	442	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	自治体政策研究	2学期	2	2	443
	檀原 真二	2年			
	地方行政改革論	2学期	2	2	444
	森 裕亮	2年			
	社会サービス法	2学期	2	2	445
	津田 小百合	2年			
	経済学特殊講義A	1学期	3	2	446
	畔津 憲司	3年			
	経済学特殊講義B	2学期	3	2	447
	畔津 憲司	3年			
	企業ファイナンスI	1学期	3	2	448
	松本 守	3年			
	企業ファイナンスII	2学期	3	2	449
	松本 守	3年			
	証券市場論	1学期	3	2	450
	山岡 敏秀	3年			
	国際経営A	1学期	3	2	451
	王 効平	3年			
	国際経営B	2学期	3	2	452
王 効平	3年				
オペレーションズ・リサーチ	1学期	3	2	453	
齋藤 朗宏	3年				
情報ネットワーク	1学期	3	2	454	
隈本 覚	3年				
経営学特殊講義A	1学期	3	2	455	
高橋 秀直	3年				
経営学特殊講義B	1学期	3	2	456	
吉村 英俊	3年				
コーポレートガバナンス	2学期	3	2	457	
内田 交謹	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	地域企業分析	2学期	3	2	
	休講	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	458
	別府 俊行	3年			
	地方自治法	1学期(ペア)	3	4	459
	村上 英明	3年			
	環境法	集中	3	2	460
	生野 正剛	3年			
	独占禁止法	1学期	3	2	461
	高場 俊光	3年			
	アジア地域統合論	2学期	3	2	462
	篠崎 香織	3年			
	会社法I	1学期	3	2	463
	高橋 衛	3年			
	会社法II	2学期	3	2	464
	高橋 衛	3年			
	都市政策論	2学期	3	2	465
	古賀 哲矢	3年			
	環境政策論	2学期	3	2	466
	申 東愛	3年			
情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	467	
岡本 博志	3年				
Advanced Reading and Discussion	2学期	3	2	468	
マーク・ドルトン・フェニック	3年				
ビジネス英語研究	2学期	3	2	469	
松田 智	3年				
上級英語I	1学期	3	2	470	
スコット・ビュー	3年				
上級英語II	2学期	3	2	471	
スコット・ビュー	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	職業指導A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	職業指導B	2学期	2	2	
	休講	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	472
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	473
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	474
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	475
	見玉 弥生	3年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	商業科教育法 A	1学期	2	2	476
	綾部 眞道	2年			
	商業科教育法 B	2学期	2	2	477
	綾部 眞道	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	478
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	479
	黒田 耕司	2年			
教育工学	2学期	2	2	480	
大塚 一徳	2年				
教育実習 1	2学期	3	2	481	
黒田 耕司 他	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	482	
恒吉 紀寿 他	4年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	483
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	484
		2年			
	教職実践演習(中・高) 休講	2学期	4	2	
		4年			
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	485
		2年			
	教育実習3 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	486
		4年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	487
		3年			
	障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育社会学 作田 誠一郎	集中	2	2	488
		2年			
■教科または教職に関する科目	道徳教育の研究 黒田 耕司	2学期	2	2	489
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	490
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	491
	1年				
	家族を問う 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	492
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	493
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	494
	1年				
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
	家族の再生 閉講		2	2	
	2年				
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
	言語と認知 (昼のみ開講)		2	2	
2年					
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	495	
1年					
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	496
1年					

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	497
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 山本 浩二	1学期	1	2	498
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	キャリア・デザイン (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	コミュニケーションと思考法 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	大学論・学問論 閉講		1	2	
	1年				
法律の読み方 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
統計を読む・統計をつくる 閉講		1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	499	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	500
		1年			
	教養基礎演習II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	3年
	教養演習BⅡ (昼のみ開講)		3	2	3年
	プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2	2年
	プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2	3年
■テーマ科目	自然学のまなざし (昼のみ開講)		1	2	1年
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	1年
	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	1年
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	1年
	くらしと化学 (昼のみ開講)		1	2	1年
現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	1年	501
数のたのしみ 閉講		1	2	1年	
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2	1年	
思想と現代 休講	1学期	1	2	1年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	閉講	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	2学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	502
	重松 博之	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	
	休講	1年			
	人権論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	
	休講	1年			
障がい学	2学期	1	2	503	
伊野 憲治 他	1年				
共生の作法		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
市民活動論	2学期	1	2	504	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)		1	2	505
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	505
		1年			
	現代社会の諸問題 (昼のみ開講)		1	2	505
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	505
		1年			
	国際社会論 稲月 正	2学期	1	2	506
		1年			
	国際紛争と国連 休講	2学期	1	2	506
		1年			
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講)		1	2	506
		1年			
	開発と統治 休講	2学期	1	2	506
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	507
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	507
		1年			
国際社会と日本 金 鳳 珍	2学期	1	2	508	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	509	
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	2学期	1	2	510	
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2	510	
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2	510	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	ものと人間の歴史		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	人物と時代の歴史	1学期	1	2	511
	山崎 勇治 他	1年			
	教養特講I		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講II		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講III		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講IV		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	512
	内山 一幸	1年			
	西洋史	1学期	1	2	513
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	514
	藤野 月子	1年			
	社会学	1学期	1	2	515
	堤 圭史郎	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	516
	外护保 大介	1年			
	土地地理学	1学期	1	2	517
	野井 英明	1年			
	地誌学	1学期	1	2	518
	外护保 大介	1年			
日本国憲法	1学期	1	2	519	
植木 淳	1年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 (昼のみ開講)	2学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	520
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	2学期	1	2	521
		1学期末修得者再履・夜間主コース			
	データ処理 廣渡 栄寿	1学期	1	2	522
		群・再履・夜間主コース			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	523
		2年			
	プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (済営夜1年) 杉山 智子	1学期	1	1	524
		済営夜1年			
	英語II (済営夜1年) 杉山 智子	2学期	1	1	525
		済営夜1年			
	英語III (済営夜1年) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	526
		済営夜1年			
	英語IV (済営夜1年) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	527
		済営夜1年			
	英語V (済営夜2年) 伊藤 晃	1学期	2	1	528
		済営夜2年			
英語VI (済営夜2年) 伊藤 晃	2学期	2	1	529	
	済営夜2年				
英語VII (済営夜2年) ダニー・ミン	1学期	2	1	530	
	済営夜2年				
英語VIII (済営夜2年) ダニー・ミン	2学期	2	1	531	
	済営夜2年				
■第二外国語	中国語I 一木 達彦	1学期	1	1	532
		済営律政夜1年			

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II	一木 達彦	2学期	1	1	533
				済営律政夜 1年		
	中国語III	王 占華	1学期	1	1	534
				済営律政夜 1年		
	中国語IV	王 占華	2学期	1	1	535
				済営律政夜 1年		
	朝鮮語I	金 貞愛	1学期	1	1	536
				済営律政夜 1年		
	朝鮮語II	金 光子	2学期	1	1	537
				済営律政夜 1年		
	朝鮮語III	金 貞愛	1学期	1	1	538
				済営律政夜 1年		
	朝鮮語IV	金 京姫	2学期	1	1	539
				済営律政夜 1年		
	ロシア語I	ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	540
				済営律政夜 1年		
	ロシア語II	芳之内 雄二	2学期	1	1	541
				済営律政夜 1年		
	ロシア語III	ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	542
				済営律政夜 1年		
ロシア語IV	芳之内 雄二	2学期	1	1	543	
			済営律政夜 1年			
ドイツ語I	山下 哲雄	1学期	1	1	544	
			済営律政夜 1年			
ドイツ語II	山下 哲雄	2学期	1	1	545	
			済営律政夜 1年			
ドイツ語III	山下 哲雄	1学期	1	1	546	
			済営律政夜 1年			
ドイツ語IV	山下 哲雄	2学期	1	1	547	
			済営律政夜 1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語I	1学期	1	1	548
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	フランス語II	2学期	1	1	549
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	フランス語III	1学期	1	1	550
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	フランス語IV	2学期	1	1	551
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	スペイン語I	1学期	1	1	552
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語II	2学期	1	1	553
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語III	1学期	1	1	554
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語IV	2学期	1	1	555
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習	1学期	1	2	
	休講	1年			
	基礎演習	1学期	2	2	
	閉講	2年			
	演習I	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	演習II	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	演習III	1学期	4	2	556
	後藤 尚久	4年			
演習IV	2学期	4	2	557	
後藤 尚久	4年				
統計学I	1学期	1	2	558	
林田 実	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	統計学II 林田 実	2学期	1	2	559
		1年			
	ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	560
		1年			
	マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	561
		1年			
	ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	562
		2年			
	マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	563
		2年			
	経済学入門A 牛房 義明	1学期	1	2	564
		1年			
	経済学入門B 後藤 尚久	1学期	1	2	565
		1年			
	数学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	簿記論I 池口 慶一	1学期	1	2	566
		1年			
	簿記論II 池口 慶一	2学期	1	2	567
		1年			
現代日本経済入門A 休講 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
現代日本経済入門B 休講 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
計量経済学I 休講	1学期	2	2		
	2年				
計量経済学II 休講	2学期	2	2		
	2年				
日本経済史I 休講	1学期	2	2		
	2年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	日本経済史II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	プログラミング	2学期	2	2	568
	泉 英明	2年			
	経済学史I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	経済学史II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	業界研究I		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	業界研究II		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	ビジネス英語A	1学期	3	2	569
	林 裕二	3年			
ビジネス英語B	2学期	3	2	570	
林 裕二	3年				
国際比較経済史I	1学期	3	2	571	
山崎 勇治	3年				
国際比較経済史II	2学期	3	2	572	
山崎 勇治	3年				
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	金融論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	産業組織論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	産業組織論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	
	休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際経済論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	財政学I	1学期	3	2	573
	前林 紀孝	3年			
	財政学II	2学期	3	2	574
	前林 紀孝	3年			
	ファイナンス論	2学期	3	2	
	休講	3年			
	公共経済学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	環境経済学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	575
	山口 実	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	576
	山口 実	3年			
国際金融論I	1学期	3	2		
休講	3年				
国際金融論II	2学期	3	2		
休講	3年				
国際マクロ経済学I	1学期	3	2	577	
末永 勝昭	3年				
国際マクロ経済学II	2学期	3	2	578	
末永 勝昭	3年				
■地域経済学系	経済地理学I	1学期	2	2	579
	杉浦 勝章	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	580
	杉浦 勝章	2年			
地域経済I	1学期	2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	地域経済II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	北九州経済分析I		2	2	
	休講(昼のみ開講)	2年			
	北九州経済分析II		2	2	
	休講(昼のみ開講)	2年			
	地域政策	2学期	2	2	581
	松永 裕己	2年			
	中国経済	1学期	3	2	582
	園 康寿	3年			
	地域金融分析	2学期	3	2	
	閉講	3年			
都市財政I		3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
都市財政II		3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
東アジア経済論		3	2		
休講	3年				
アメリカ経済	2学期	3	2		
休講	3年				
■選択科目B	経営学入門	1学期	1	2	583
	浦野 恭平	1年			
	民法総則		1	4	
	休講	1年			
	法学総論	1学期	1	2	
	休講	1年			
コンピュータシステム	1学期	1	2	584	
泉 英明	1年				
企業論基礎	2学期	1	2	585	
中間 信博	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	マネジメント論基礎 遠藤 雄二	2学期	1	2	586
		1年			
	福祉国家論 休講		1	2	
		1年			
	都市経済論 休講		1	2	
		1年			
	データ構造 隈本 覚	2学期	2	2	587
		2年			
	データベース 池田 欽一	2学期	2	2	588
		2年			
	マーケティングI 別府 俊行	1学期	2	2	589
		2年			
	マーケティングII 休講(昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	原価計算論I 梅澤 俊浩	1学期	2	2	590
		2年			
	原価計算論II 休講(昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	591
		2年			
財務会計論II 休講(昼のみ開講)		2	2		
	2年				
簿記論III 休講(昼のみ開講)		2	2		
	2年				
工業簿記 休講(昼のみ開講)		2	2		
	2年				
地方自治論 休講	1学期	2	2		
	2年				
社会福祉原論 坂本 毅啓	2学期	2	2	592	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	国際協力論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	国際協力論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	公共政策論	1学期	2	2	593
	榎原 真二	2年			
	雇用関係法		2	2	
	休講	2年			
	労使関係法		2	2	
	休講	2年			
	政治学		2	2	
	休講	2年			
	途上国開発論		2	2	
	休講	2年			
	国際法I	1学期	2	2	594
	二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	595
	二宮 正人	2年			
	政治過程論		2	2	
	休講	2年			
企業活動と法		2	2		
休講	2年				
自治体政策研究		2	2		
休講	2年				
地方行政改革論		2	2		
休講	2年				
社会サービス法		2	2		
休講	2年				
経済学特殊講義A		3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	経済学特殊講義B		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	企業ファイナンスI	1学期	3	2	
	休講	3年			
	企業ファイナンスII	2学期	3	2	
	休講	3年			
	証券市場論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際経営A	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際経営B	2学期	3	2	
	休講	3年			
	オペレーションズ・リサーチ		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	596
	限本 覚	3年			
	経営学特殊講義A		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	経営学特殊講義B		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
コーポレートガバナンス	2学期	3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
地域企業分析		3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
中小企業論	1学期	3	2		
休講	3年				
地方自治法		3	4		
休講	3年				
環境法		3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	独占禁止法		3	2	
	休講	3年			
	アジア地域統合論		3	2	
	休講	3年			
	会社法I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	会社法II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	都市政策論		3	2	
	休講	3年			
	環境政策論		3	2	
	休講	3年			
	情報公開・個人情報保護法		3	2	
	休講(昼のみ開講)	3年			
Advanced Reading and Discussion		3	2		
休講	3年				
ビジネス英語研究		3	2		
休講	3年				
上級英語I		3	2		
休講	3年				
上級英語II		3	2		
休講	3年				
■自由科目	職業指導A	1学期	2	2	597
	綾部 眞道	2年			
■自由科目	職業指導B	2学期	2	2	598
	綾部 眞道	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	599
	黒田 耕司	1年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	2学期	1	2	600
	見玉 弥生	1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	発達心理学	1学期	2	2	601
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	602
	見玉 弥生	3年			
	公民科教育法A	1学期	2	2	603
	下地 貴樹	2年			
	公民科教育法B	2学期	2	2	604
	吉村 義則	2年			
	商業科教育法A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	商業科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	605
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	606
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	607
	大塚 一徳	2年			
	教育実習1	2学期	3	2	608
黒田 耕司	3年				
教育実習2	1学期	4	2	609	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談	1学期	2	2	610	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	611	
楠 凡之	2年				
教職実践演習(中・高)	2学期	4	2	612	
楠 凡之 他	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	
	休講	2年			

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育実習 3	1学期	4	2	613
	恒吉 紀寿	4年			
	教育法規	2学期	3	2	
	休講	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	614
	村上 太郎	2年			
教育社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
■教科または教職に関する科目	道徳教育の研究	2学期	2	2	615
	黒田 耕司	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	616
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第1部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間試験の講評 / 政教分離
- 第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが)。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われますが、本当にそうなのでしょうか？安易なイフの設定はたしかに禁物ですが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるでしょう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】【日英同盟】
- 4回 伊藤博文が暗殺されなかったら？ - 韓国併合回避の可能性はあったか - 【山県有朋】
- 5回 明治天皇がもっと長生きしていたら？ - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】【大正政変】
- 6回 日本が第一次世界大戦に参戦しなかったら【ニカ条要求】
- 7回 原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 張作霖爆殺 - その真の目的はなにか - 【護憲三派内閣】
- 9回 若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 2・26事件が未然に防げたら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？【ヒトラー】
- 12回 日独伊ソ四国協力が成立していたら？【独ソ戦】
- 13回 日米英戦争は不可避だったのか？【日独伊三国軍事同盟】
- 14回 鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？【本土決戦】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。
相当量の板書をするので、ノートはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかりとる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？
- 第3回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第4回 植民地主義と文化
- 第5回 ナショナリズムと文化
- 第6回 先住民・少数民族の文化に関して
- 第7回 多文化主義の可能性と限界
- 第8回 分類の不明瞭さ：国籍・人種
- 第9回 中立・公平は可能か？
- 第10回 中間テスト

- 第II部 他者の内側
- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 中間テストの講評
- 第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体
- 第15回 癒しの多様性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%
そのほか講義中に課した提出物なども平常点として評価に加える。受講人数によっては試験をレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

文化と政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何ともありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘記すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦争概論
- 第3回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第4回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第5回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第6回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第7回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化
- 第8回 両大戦の特徴(3)全面化
- 第9回 日本と原爆(1)原爆の開発過程
- 第10回 日本と原爆(2)原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が以前よりも総合的に理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2【シユレーバー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5【『1984年』】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となるので、（当たり前のことだが）休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
- 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
- 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
- 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
- 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
- 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
- 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
- 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ -】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーリーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフト理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
 実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか、被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事柄として紹介する。
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
15. 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験（選択、記述）、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・60% 小試験・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目の総論で「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④欠席した場合には、自己管理論用欠席届を提出する。
- ⑤最終回の「自己管理IVまとめ」では、小試験をするため必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
林 洋子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※木曜日に開講される科目については、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、以下5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

- ・ 自分を知る (アイデンティティの獲得)
- ・ 働くことを知る (業界や企業、働き方など)
- ・ 初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる (多様な人々と協働する力を身に付けるために)
- ・ 社会人マナーを身につける (社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限のマナーや倫理感)
- ・ 学生生活の過ごし方を知る (将来の進路に向けて)

なお、授業の最終目標 (4つのミッション) は以下です。

- ・ いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
- ・ 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
- ・ 外へ出て視野を広げる
- ・ 失敗を恐れずとりあえず実践して、振り返る

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を体験した先輩とのディスカッション) ※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー① (傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー② (アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 社会人としての倫理やマナー③ (ダイアログ、ワールドカフェ)
- 11回 社会人としての倫理やマナー④ (グループディスカッション、リーダーシップ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション) ※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポートおよび授業への取り組み、宿題・・・90%
最終回のレポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。なお、火曜日2限のみ永田公彦先生にご担当頂きます。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。

※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私が、真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。

※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)と合わせて全9コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。

また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要 (現在および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員が就く仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
(入社後貴社で活躍している人は、大学時代にどんな活動をしていたのかを、登壇者自身もしくは見本にしたい社員の学生時代を紐解きながら説明する)
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製菓所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート・・・90%
 最終レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。
- ※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会にはさまざまな「できごと」、すなわち社会現象が起こっている。社会現象は人々の「考え」や「行為」から構成されている。たとえば、「結婚しない」人が増えれば晩婚化や非婚化といった社会現象は生じる。だが、そうした「考え」や「行為」は人々を取り巻く経済、政治、文化、社会関係によっても影響を受けている。たとえば、晩婚化や非婚化は「結婚できない」から生じているのかもしれない。社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「そうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。
 そのためには、(1)意味のある「問い」をたてること、(2)その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3)論証戦略に基づいてデータを集めること、(4)データを統計的に処理すること、(5)結果に基づき解釈すること（最初に立てた「問い」に対して「答え」を導くこと）、が重要である。
 この授業では、このうち(1)～(4)、とりわけ(2)と(3)に力点をおいて考えていきたい。
 社会調査とは、単に「データを集計すること」ではない。繰り返しになるが、大切なことは「解釈」である。そして、その「解釈」を導くためには、きちんとした論証戦略に基づく調査の設計、調査票の作成、調査技法・データ分析手法の習得が必要である。それらを、演習を交えながら、学習・習得することを目指す。
 なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成(1)
- 第6回 ワーディングと調査票の作成(2)
- 第7回 ワーディングと調査票の作成(3)
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成(1)
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成(2)
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...40% 期末レポート...60%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読んでくること。
 課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「授業の概要」にも書いた通り、社会調査とはデータを集めることにとどまるものではありません。きちんとした論証戦略に基づく、きちんとしたデータを集めること、そしてそれに基づいて社会を解釈することです。授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

社会調査【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、検定、クロス表、相関、関連

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。
 小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、テキスト『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』の批判的読解を試みることを通して、レジユメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

竹信三恵子2013『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』岩波新書

タイトルだけでは、ジェンダーに関する本のようにみえますが、貧困、福祉、市場経済の社会の矛盾などさまざまな問題を提起してくれます。一人暮らしをすると（実家暮らしでも）、避けられない家事について考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジユメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第8・9回 テーマのを見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・第1回の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当: 高西) と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出てても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2014年度入学生、2013年度入学生(新1年生、新2年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。ただし、時間割の関係で「日本の防衛」が受講できない場合、「教養基礎演習II」(戸蒔)とセットで履修すること。また、新2年生で、既に「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回(ガイダンス)時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。仮に2年生以上が本基礎演習に登録していたとしても、第1回の授業を欠席した場合には登録を抹消するつもりである。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については7月頭に提示する予定)。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 野外活動とは?
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習(1)
- 13回 キャンプ実習(2)
- 14回 キャンプ実習(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習Ⅰ(担当:徳永)と同時期に実施をします。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回にスーツを着用しての受講となります。
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 演習運営方針に関する話し合い。
 2～14回 各自の研究報告。
 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
 なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。
本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい(評価される)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

(1) 「複眼思考」を身につける。

- ・「常識」にとらわれず、「別の考え方」を模索する。
- ・誤った因果関係を見破る。
- ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
- ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。

(2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける

- ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
- ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
- ・調査倫理について理解する。

(3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。

- ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
- ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
- ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。

「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ￥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%
専門的基礎知識の理解度 30%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで受講すること。

【注意②】新1年生および新2年生(2014年度・2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」(もしくは「演習AI」)を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト(924円)を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内から離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人との協調や、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 スキー実習についての講義 (1) (場所の選定)
- 1 3回 スキー実習についての講義 (2) (スキーの安全面)
- 1 4回 スキー実習についての講義 (3) (スキー技術)
- 1 1回 スキー実習についての講義 (4) (スキー実習について)
- 1 2回 スキー実習 (1)
- 1 3回 スキー実習 (2)
- 1 4回 スキー実習 (3)
- 1 5回 スキー実習 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み (スキー実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II (担当：徳永) と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画（4）野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画（5）テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画（6）グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画（7）ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施（1）
- 13回 キャンプ実習の実施（2）
- 14回 キャンプ実習の実施（3）
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I（担当：徳永、高西）と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョンI異文化理解の基礎（人間と文化）で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新2年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。すでに「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。「日本の防衛」を未履修であるが、時間割の関係上、履修が出来ない者は、戸蒔の「教養基礎演習II」もしくは「教養演習AII」とセットで履修すること。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回(ガイダンス)時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については7月頭に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習・企画
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
 スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
①社会科教育法AまたはC、もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD、もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。
小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。
AIIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックスシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】新2年生(2013年度入学生)で「日本の防衛」の単位を未履修かつ今期の履修が不可能な者で、「防衛セミナー」の履修を希望する者は、この科目を履修しなければならない。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

(1) 「複眼思考」を身につける。

- ・「常識」とはならず、「別の考え方」を模索する。
- ・誤った因果関係を見破る。
- ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
- ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。

(2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける

- ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
- ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
- ・調査倫理について理解する。

(3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。

- ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
- ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
- ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

複眼思考法と調査法（たとえばインタビュー）の習得は、ゼミ論、卒論を書く際に役に立つだけでなく、よき市民の作法としても必要です。

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト(924円)を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。
 小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョンI異文化理解の基礎（人間と文化）で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「教養演習AII」、もしくは「教養演習BII(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回(ガイダンス)時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については7月頭に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務) ... 80% レポート ... 20%
 スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
 スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
①教育実習1を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 40% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 40%、課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
 第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。
 小林担当の「教養演習AⅠ・AⅡ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
 以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックスシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「防衛セミナー」(「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」)のいずれかとセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「防衛セミナー」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

(1) 「複眼思考」を身につける。

- ・「常識」にとらわれず、「別の考え方」を模索する。
- ・誤った因果関係を見破る。
- ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
- ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。

(2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける

- ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
- ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
- ・調査倫理について理解する。

(3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。

- ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
- ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
- ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

複眼思考法と調査法（たとえばインタビュー）の習得は、ゼミ論、卒論を書く際に役に立つだけでなく、よき市民の作法としても必要です。

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト(924円)を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりまますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 江戸時代の旅と自然
 - 第10講 山と人の自然学1【山村と故郷論】
 - 第11講 山と人の自然学2【自然観と森林観】
 - 第12講 山と人の自然学3【竹と産業】
 - 第13講 山と人の自然学4【竹と文化】
 - 第14講 木竹資源利用の国際比較
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然学のまなざし【昼】

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ, 地球史, 生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 自然史博物館見学（1）～博物館を楽しもう
- 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 5回 アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【進化】【古生態】
- 6回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【生物多様性】
- 7回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 8回 アラビアの砂漠に棲む生き物たち（山根）【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 9回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石】【生命史】【絶滅】
- 10回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 11回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）【深海】
- 12回 昆虫の多様性と進化（葦島）【分類】【学名】
- 13回 森の移り変わりを考える（真鍋）【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 14回 化石が語る魚類の進化（藪本）【魚類化石】
- 15回 自然史博物館見学（2）～課題研究

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。
授業への積極的な参加（授業中の課題など）40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1回目の博物館見学は10月5日（日）、2回目は12月～1月のいずれかの日曜日を予定しています（変更の場合は掲示します）。
授業スケジュールについての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識を学習します。次に化学的知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析/理解能力を高めることがこの授業のねらいである。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、自然界の現象で重要な物性である物質三態（気・液・固）を学習します。化学物質と身近な問題との関わりを、生活に必要な生体物質・食品・薬、環境に重要な放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

教科書 /Textbooks

大場好弘著：「身のまわりの化学 - 物質・環境・生命 - 」：化学同人：2012/4/15：¥1800+税：ISBN978-7598-1480-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 第1章 物質科学の基礎：元素、原子・分子、
- 2 第1章 物質科学の基礎：周期律、原子の性質、単体の性質
- 3 第2章 2.1-2.4 生活の中の無機化学
- 4 第2章 2.5 電池
- 5 第2章 2.2 有機化合物
- 6 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・コロイド
- 7 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・洗剤（補足資料）
- 8 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・医薬品（補足資料）
- 9 第2章 2.7 日常の中の高分子
- 10 第3章 3.0 炭水化物、脂質（補足資料）
- 11 第3章 3.1 タンパク質
- 12 第3章 3.2 核酸
- 13 第4章 地球環境と化学（4.1節，4.2節，）
- 14 第4章 地球環境と化学 4.3 エネルギーの化学
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートなど20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくことと良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまなを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 動物の自己意識
動物は自己像をどのように理解するのかを考える。【自己像認知】【マークテスト】
- 第9回 「自己」の発見
ヒトの自己意識の芽生えについて考える。【自己意識】【自己概念】
- 第10回 身体感覚のメカニズム
自分の身体を自分のモノとして感じるメカニズムについて考える。【身体保持感】【ラバーハンド錯覚】
- 第11回 「他者」への気づき
他者をどのように認識するのか、他者の情報をどのように検出するのかについて考える。【生物らしさ】【バイオリジカルモーション】
- 第12回 「他者」の心を読む
他者に共感する、推測する能力の発達について考える。【共感】【心の理論】
- 第13回 ロボットに心は宿るか
他者に心を見出すメカニズムについて考える。【メンタライジング】【ロボット】
- 第14回 心を読むことの難しさ
自閉症児の心の理解について考える。【マインドブラインドネス仮説】【誤信念課題】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所のやぐわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されるところである。

にもかかわらず、日本にあつてわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なるもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年とはピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、塔と洪水
4. あの世(日本) 極楽浄土、六道輪廻
5. あの世(世界) 地獄と天国、煉獄と金、
6. 苦と悪 悪霊、神義論、四苦八苦
7. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
8. 聖者と菩薩 列聖、慈悲
9. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼
10. 祭りと儀礼 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、病治し、祈りと念仏
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習よりも、復習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。

講義をよく聴く。

配布資料をよく読む。

資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

私たちと宗教 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

なお講義一回ごとに大切なことをあらたにひとつ学べば、半期で最低10の知識を学習できる。そのようにして四年間を着実に過ごすならば、知らないうちに成長していることがあとになってわかるだろう。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。
- 伊原木大祐『レヴィナス 犠牲の身体』創文社、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴールの大衆批判】
- 4回 実存の思想(3)【キルケゴールの実存的宗教論】
- 5回 実存の思想(4)【ハイデガー】
- 6回 実存の思想(5)【サルトル】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 中間総括(確認テスト)
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クイア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、たとえ全回出席してプリントを入手したとしても、ノートを取っていない、もしくは授業を聴いていないのであれば、単位の取得可能性は限りなくゼロに近いものとなるだろう。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【開国】【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【表象分析事始め】 比較分析の有効性について
- 11回 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として④【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として⑤まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品のコンテクスト
- 3回 芸術作品に見るジェンダー1：国内の事例
- 4回 芸術作品に見るジェンダー2：海外の事例
- 5回 カワイイ文化と社会
- 6回 メイクと社会
- 7回 サブカルチャーと社会
- 8回 芸術とリアリティ
- 9回 引き算の美・足し算の美
- 10回 芸術と生活
- 11回 芸術のカ×権力×暴力
- 12回 芸術と教育
- 13回 芸術と宗教
- 14回 北九州アートシーン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展示会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko Tabei / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2014年のテーマ：「文学と青春」

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度の「文学を読む」では、青春を扱った文学、もしくは、青春に読んでおく文学作品について、そんな出会いを体験してしまった、かつての文学少年、文学少女たちが学部を越えて熱く語ります。青春の只中を現在進行形で生きている皆さんにとって、人生を変える一冊との出会いとなる、忘れえぬ授業となることでしょう。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・文学と「青春」(福島 文学部比較文化学科)
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 馬場(文学部比較文化学科)
- 4回 田部井(文学部比較文化学科)
- 5回 渡瀬(文学部比較文化学科)
- 6回 五月女(文学部比較文化学科)
- 7回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 8回 木原(外国語学部英米学科)
- 9回 齊藤(外国語学部国際関係学科)
- 10回 漆原(基盤教育センター)
- 11回 神原(基盤教育センター)
- 12回 田村(経済学部経済学科)
- 13回 永田(グローバル人材育成推進室)
- 14回 特別講師
- 15回 特別講師

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本・・100%。(三分の二以上の出席がなければ評価対象外となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文学を読む【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回到現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名
/Instructor

大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちに民主主義が当たり前のルールになっているかもしれません。しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 古代ギリシアの民主制
- 第3回 近代デモクラシーの基礎① 【ホブズ】【ロック】
- 第4回 近代デモクラシーの基礎② 【ルソー】【トクヴィル】
- 第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【福澤諭吉】【中江兆民】
- 第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】【ラディカル・デモクラシー】
- 第7回 現代日本の民主主義理論① 【境界線の政治学】
- 第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】
- 第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】【権威主義体制】【全体主義体制】
- 第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】【対立理論】【ポピュリストモデル】
- 第11回 民主主義と有権者① 【政治参加】【直接民主主義】【間接民主主義】
- 第12回 民主主義と有権者② 【エリート民主主義】【参加民主主義】
- 第13回 民主主義と選挙 【ダウンスモデル】【メディアン定理】
- 第14回 民主主義と政党、議会 【代表 / 代理】【二院制】
- 第15回 2つの民主主義 【多極共存型民主主義】【多数主義型民主主義】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

私語は厳禁

出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになる。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ジェンダー論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人の関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞，ガイダンス（二宮）
- 第2回 法と道徳について（重松）
- 第3回 障害のある人の権利～ 日本国憲法から（植木）
- 第4回 民主主義の限界 - 立憲主義との関係で（中村）
- 第5回 行政は「個人の権利」をもつか（福重）
- 第6回 規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第7回 犯罪とは何か ～ 国家刑罰権をどのように制約するか（大杉）
- 第8回 契約について（契約の意義，種類，契約自由の原則等）（矢沢）
- 第9回 家族とは何か（小野）
- 第10回 商法とは何か（今泉）
- 第11回 企業形態と法（高橋）
- 第12回 民事訴訟とは何か（小池）
- 第13回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう（津田）
- 第14回 雇用とは何か（雇用関係の成立，雇用関係の展開，雇用関係の終了）（石田）
- 第15回 国際社会と日本，まとめ（二宮）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%，④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設(環境ミュージアム、エコタウンなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2012年 945円
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学1～エコタウン
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 10・11回 環境関連施設見学2～環境ミュージアム
- 12回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 13回 環境首都検定に向けて・小テスト(日高)
- 14回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 15回 社会が求める環境人材とは(外部講師)

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。
環境首都検定の成績(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(20%)、授業への参加・授業中の課題など(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

平成26年度の環境首都検定は12月14日(日)の予定。
エコタウン見学は11月5日(水)、環境ミュージアム見学は11月30日(日)を予定しているが、変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。
定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という感覚）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女/彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある。）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家的生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としながらいかに振る舞うことが可能なだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』（○）
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』（○）・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』（岩波書店、2012）』（○）、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）』（○）、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらないのか？」
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【利潤】【公表利益】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会の脆弱性【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰の新自由主義の台頭【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【ブラック企業】
【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習: 基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点) + 期末レポート試験(50点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

つながりの人間学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスマーケティング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)、昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方々の講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に担当者が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション/新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースの価値付け/見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目/取材現場で感じたこと (編集委員)
- 第4回 地域とともに/分権時代と地域紙 (編集企画委員)
- 第5回 災害報道の実際/東日本大震災から3年 (社会部記者)
- 第6回 アジアと九州を考える/国際報道の現場から (編集委員)
- 第7回 読者参加型の新聞づくり/地元「遺産」を取材して (編集委員)
- 第8回 デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (q b i z 編集長)
- 第9回 キャンペーン報道の力/消防団と防災 (社会部デスク)
- 第10回 九州経済をどう見るか/経済記者の視点(経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界/運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第12回 報道写真の力/カメラマンの心得とは(写真部記者)
- 第13回 北九州の現場から/半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)
- 第14回 地域文化を見つめて/文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第15回 新聞をデザインする/ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、多メディア時代の新聞の役割について、少しでも理解を深めてくれればうれしいです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代東アジアの国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

第1回オリエンテーション

第2回山本 アジアとヨーロッパ(1) 【近代国家、EU】

第3回 " アジアとヨーロッパ(2) 【共同体、贈与】

第4回下野 グローバル化の中の中国 【改革開放、北京コンセンサス】

第5回 " "

第6回堀地 北京と世界遺産【北京、世界遺産】

第7回白石 中国の持続的発展の可能性 【経済成長、SNA、投資】

第8回横山 東アジアの安全保障 【日中の領土問題】

第9回鄧紅 日中関係の過去と現在 【魏志倭人伝、漢字、日清戦争、満州事変、国交回復】

第10回尹 日本の経済交流パートナーとしての東アジア 【東アジア地域の特徴、日本と東アジア地域との経済関係】

第11回 " 日本(九州)の東アジア戦略 【日本の経済連携の取り組み、環黄海地域での経済交流】

第12回大平 変容するアジア情勢と日本のODA【政府開発援助(OA)、米国のリバランス戦略、巡視船供与、第1・第2列島線】

第13回 " "

第14回篠崎 東南アジア：「周縁」で形成される文明の新たなかたち(1) 【華人、中華世界】

第15回 " 東南アジア：「周縁」で形成される文明の新たなかたち(2) 【イスラム教】

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。

レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。

平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第5回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第6回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第7回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第8回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第9回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第10回 Case Study①：湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第11回 Case Study②：ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第12回 Case Study③：リビア問題と国連【保護する責任】
- 第13回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第14回 Case Study④：アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦【スカーフ問題】【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義【ライシテ】【共和国憲法】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るっぼ】【サラダ・ポウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフアーマティブ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】 担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスに関するグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor
 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは
- 2回 自由貿易 【比較優位】【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】【金融市場】【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】【新産業】【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワーキング】
- 12回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】【乗数】
- 15回 まとめと総復習-グローバル化の光と影

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方や関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』(知の攻略 思想読本4)、作品社、2003(第3刷)、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第ⅠⅤ部の総論 姜尚中論文
- 5回 第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】 【帝国】
- 7回 第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
- 9回 第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第ⅠⅠ部の「国家」 響田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本~3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

1. この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
2. この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
3. この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

歴史の読み方I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン(小林)
 - 第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ビルマの民主化運動】
 - 第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国(下野)【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

"皆さんは、「Japan as No1」と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、私たち自身の価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、「Japan as No1」と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たちが生きる現代を理解することでもあります。本講義では、過去をもとに現代の社会・経済状況を理解することを目的として、第二次世界大戦後から現代に至る日本経済の推移と、その結果としての日本社会の変化についてお話しします。"

教科書 /Textbooks

毎週配布するレジュメに基づいて授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 ①敗戦と復興
- 第3回 ②「Japan as No1」と言われた時代 - 1950年代から70年代 -
1. 高度経済成長の経緯
- 第4回 2. 高度経済成長を可能とした諸要因
- 第5回 3. 戦後日本の産業構造の変化
- 第6回 ③高度経済成長と日本社会
1. 人口の変化と「人口問題」
- 第7回 2. 高度経済成長と生活様式の変化
- 第8回 3. 社会生活と企業 - 「企業社会」の発展 -
- 第9回 4. 高度経済成長がもたらした「歪(ひず)み」
- 第10回 ④「ロスジェネレーション」 - 1980年代以降の日本経済 -
1. 低成長時代から「バブル」の時代へ
- 第11回 2. 「バブル崩壊」と長期不況
- 第12回 3. 「痛みを伴う改革」がもたらしたもの
- 第13回 4. 「失われた世代」の就業環境 - 「非正規雇用」の歴史と現状 -
- 第14回 ⑤「豊かさ」と「貧しさ」の現在形
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について「考える」社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

高度経済成長 人口問題 企業社会 ロストジェネレーション バブル経済 非正規雇用

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
 次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
 最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
 本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
 具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
 本学教員と外部講師によるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 3回 トランスジェンダー 【性同一性障害】
- 4回 性的自立とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 5回 メディアとジェンダー 【ジェンダー・バイアス】 【メディア・リテラシー】
- 6回 家族を持つ権利と生殖医療・法律 【養子】 【不妊治療】
- 7回 ケア役割とジェンダー 【ケアの女性化】
- 8回 セクシュアル・ハラスメントとデートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力被害とトラウマ 【性暴力裁判】 【強姦神話】 【フェミニスト・カウンセリング】
- 10回 日本における売春防止法と「婦人保護」 【公娼制度】 【売春の歴史】
- 11回 日本と諸外国の売買春をめぐる動向 【セックスワーカー】 【売春の合法化】
- 12回 戦争と性暴力 【軍事化】 【性支配】
- 13回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 14回 子どもの性被害 【児童ポルノ禁止法】 【児童虐待防止法】
- 15回 これまでの振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった「関係性」を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティの歴史と文化 【ホスピタリティとは何か】 【西洋のホスピタリティ文化】
- 3回 ホスピタリティとおもてなし 【東洋のホスピタリティ文化】 【茶道】 【仁】 【おもてなし】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】 【サービス】
- 5回 ホスピタリティ産業の現状(その1) 【近年の航空事業の動向】 【接客現場】 【国際線業務】
- 6回 ホスピタリティと心理1 【EQ】
- 7回 ホスピタリティと心理2 【交流分析】
- 8回 ホスピタリティとコミュニケーション1 【ラポール】 【言語非言語】 【空間管理】 【スマイル】
- 9回 ホスピタリティとコミュニケーション2 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【敬意表現】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状(その2) 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】 【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】 【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み ①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出 50%

期末試験の成績 50%

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回目には、シラスを持参のこと。

ホスピタリティを理解し、実践していくことを目的にしています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知 コミュニケーション能力

教養特講Ⅲ (まなびと講座A) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD (持続可能な発展のための教育) に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。

また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。

この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ESDとは何か？ (オリエンテーション) 【北九州市立大学】
- 第2回：まなびとESDステーション活動と地域協働① 【北九州まなびとESDステーション特任教員】
- 第3回：まなびとESDステーション活動と地域協働② 【北九州まなびとESDステーション特任教員】
- 第4回～第6回：ESDと地球環境～科学的視点から考える地球の自然～ 【九州女子大学】
- 第7回～第9回：生活の再考～ESDの視点から身近な生活を見つめ直す～ 【西南女学院大学】
- 第10回～第12回：ESDと福祉 ～社会的弱者に対するケアの技法～ 【九州栄養福祉大学】
- 第13回：学習成果報告会に向けたワークショップ 【北九州市立大学】
- 第14回・第15回：学習成果報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：10%
- ・ 小レポート×4回：40%
- ・ 学習成果報告会でのプレゼンテーション：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」にて開講される。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD (持続可能な発展のための教育) に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ESDとは何か？ (オリエンテーション) 【北九州市立大学】
- 第2回～第4回：地域社会をデザインする～ESDの視点からみた地域活性化の技法～
【西日本工業大学・九州工業大学・北九州市立大学】
- 第5回～第7回：ESDと国際理解～グローバル時代の国際協力～【九州国際大学】
- 第8回～第10回：ビオトープで考える生物多様性とESD【九州共立大学】
- 第11回～第12回：健康はお口から～口腔ケアから考えるESDの可能性～【九州歯科大学】
- 第13回：学習成果報告会に向けたワークショップ【北九州市立大学】
- 第14回・第15回：学習成果報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：10%
- ・ 小レポート×4回：40%
- ・ 学習成果報告会でのプレゼンテーション：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」にて開講される。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育 (子供) ・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未満の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養う事を旨とする。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのようなかかわりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみにとどまる事なく、東アジアという包括的な視座に置き、北アジア・西アジア・東南アジアの諸地域をも含みつつ、各時代の政治・経済・外交・文化・思想等の多角的な方面から理解する事を掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 隋唐と朝鮮・日本 - 中国の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...30%・定期試験...70%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
平常の受講態度を見るため、授業中に予告なく小テストを実施する事も有り得る。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。
出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修している事が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与える事が確実な中国の歴史について学ぶ事は、必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 北アジア 西アジア 東南アジア 中国 朝鮮 日本 政治 経済 外交 文化 思想

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 堤 圭史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、国内外の地域社会で生きる人々が抱える諸問題を社会的に解読していく力を身につけることにある。社会学とは、我々が生活している世界の中から、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2)その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3)なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4)その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえて、よりよいシステムを構想してゆく科学である。この授業では、まず、社会学に特徴的な社会現象の捉え方について社会学の古典的著作を例にとりあげながら紹介していく。ついで、「組織」、「家族」、「農山村」、「都市」、「階層」、「逸脱」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会学がわかる事典』(森下伸也、日本実業出版社)
- 『社会学をつかむ』(西澤晃彦・渋谷望著、有斐閣)
- 『畏怖する近代』(左古輝人著、法政大学出版局)
- 『社会学』(長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志著、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のテーマ、内容、構成の紹介
- 第2回：社会と個人、個人と社会(1)【E. デュルケム】
- 第3回：社会と個人、個人と社会(2)【M. ウェーバー】
- 第4回：集団と組織(1)【集団の諸類型、社会集団の構造と機能】
- 第5回：集団と組織(2)【官僚制と民主主義】
- 第6回：家族(1)【社会変動と家族】
- 第7回：家族(2)【家族問題と社会問題】
- 第8回：階層と社会移動(1)【階級・階層の捉え方】
- 第9回：階層と社会移動(2)【社会移動と教育】
- 第10回：都市と農村(1)【都市化とコミュニティ】
- 第11回：都市と農村(2)【社会変動と都市問題】
- 第12回：逸脱と統制(1)【正常と異常 / 同調と逸脱】
- 第13回：逸脱と統制(2)【逸脱の捉え方】
- 第14回：グローバル化とエスニシティ
- 第15回：まとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小レポート30%。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を中心に学びます。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法を学ぶとともに、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 海岸砂丘の環境と土地利用を読む
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 歴史景観を読む
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける地誌の諸相をテーマとする。世界地誌、日本地誌、身近な地域の地誌を通じて、それぞれの地域の知識を得るとともに、地誌学に様々な表現方法があることを習得してもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 世界地誌(1) 世界の自然・人文環境
- 第3回 世界地誌(2) 東アジア
- 第4回 世界地誌(3) 東南アジア
- 第5回 世界地誌(4) 南アジア・西アジア
- 第6回 世界地誌(5) アフリカ
- 第7回 世界地誌(6) ヨーロッパ
- 第8回 世界地誌(7) アングロアメリカ
- 第9回 世界地誌(8) ラテンアメリカ
- 第10回 世界地誌(9) オセアニア
- 第11回 日本地誌(1) 日本の自然環境
- 第12回 日本地誌(2) 日本の人文環境
- 第13回 身近な地域の地誌(1) 北九州地域の地誌
- 第14回 身近な地域の地誌(2) 筑豊地域の地誌
- 第15回 身近な地域の地誌(3) 下関地域の地誌

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権・権力分立)
- 第10回 統治機構②(日本の政治制度)
- 第11回 統治機構③(日本の選挙制度)
- 第12回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第13回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第14回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第15回 日本憲法史

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスとプラトンの倫理思想 【徳と国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスの倫理思想 【ユダヤ教イエス派】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) パウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
- 第7回 キリスト教の倫理(4) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第8回 近代の倫理思想(1) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(2) スピノザの倫理思想 【ラディカルな啓蒙】
- 第10回 近代の倫理思想(3) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(4) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(5) ヘーゲルの倫理思想 【国家と理性】
- 第13回 近代の倫理思想(6) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想 ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む) 40パーセント
講義で紹介した参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。毎回リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

データ処理【昼】

担当者名 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済1-1.再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済1-3.再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済1 - 2 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによってできている。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指す。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになる。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要がある。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ているといえる。この授業で使用するプログラミング言語は、VBA（Visual Basic for Application）である。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっている。

この授業は、パソコンを利用して授業を行う。具体的には、以下のような項目を身につける：

- コンピュータが行っている情報処理の流れ
- 論理的な思考方法の基礎
- VBAを用いたプログラム作成の基礎

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとは何か【VBA】
- 2回 VBAによるプログラミングの方法と簡単なプログラムの作成【Range】【フォント指定】
- 3回 プログラミングの計画について【フローチャート】
- 4回 基礎的なプログラムの作成【Select】【With】【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】【幅と高さ設定】【線種設定】【色設定】
- 6回 メッセージボックスとワークシート操作【MsgBox】【Worksheets】
- 7回 変数と条件分岐構文【変数の宣言】【変数のデータ型】【If文】
- 8回 条件分岐構文と乱数を利用したプログラム【ランダム関数】
- 9回 多重の条件分岐構文【If文のネスト】
- 10回 繰り返し構文1【For文】
- 11回 繰り返し構文2【While文】
- 12回 繰り返し構文の練習1【変数の四則演算】【「=」の意味】
- 13回 繰り返し構文の練習2【永久ループ】【変数のシミュレーション】
- 14回 多方向条件分岐構文【Select Case文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなる。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなる。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説する。

キーワード /Keywords

プログラミング VBA フローチャート

英語I (済 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, and writing skills. The class is designed to meet the needs of economic majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Chris Valvona and Ayano Valvona, Lessons from Leaders, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Friendship
- 第3回 The Future of Gaming
- 第4回 Inner Scorecard
- 第5回 The Definition of Success
- 第6回 Think Week
- 第7回 Better Yourself
- 第8回 The Fast Lane
- 第9回 The Newspaper Test
- 第10回 Make a Difference
- 第11回 Dynastic Fortunes
- 第12回 Expert Opinion
- 第13回 Learn from Your Mistakes
- 第14回 Tax and Responsibility
- 第15回 Lucky Ticket

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (済 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Stepping Stones for the TOEIC Test” 『TOEICテスト 着実にスコアアップ』 (光富省吾共著) 朝日出版社 ¥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1 TOEIC出題形式および傾向と対策
- 3回 Unit 2 Travel & Airports、名詞・代名詞・冠詞
- 4回 Unit 3 Sightseeing & Hotels、形容詞・副詞
- 5回 Unit 4 Dining & Restaurants、時制(1)
- 6回 Unit 5 Sports & Entertainment、時制(2)
- 7回 Unit 6 Fashion & Shopping、助動詞
- 8回 Unit 7 School & Culture、他動詞・自動詞
- 9回 Unit 8 Review Test 1
- 10回 Unit 9 Transportation & Commuting、不定詞・動名詞
- 11回 Unit 10 Family Life & Home、現在分詞・過去分詞・受動態
- 12回 Unit 11 Computers & the Internet、仮定法
- 13回 Unit 12 Offices & Office Supplies、関係詞
- 14回 Unit 13 Jobs & Recruitment、接続詞
- 15回 Unit 14 Business, Accounting & Banking、前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題含む)：30%
ただし最終評価にはTOEIC受験の可否が反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (済 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、基本文法の学習を基盤として、英語運用4技能「聴く・読む・話す・書く」のうち特に「聴く・読む」ことに重点を置いて学習していく。教材はTOEICテスト対策用のテキストを用い、英語運用能力の向上とともに、TOEIC受験の際に日ごろの学習成果を遺憾なく発揮できるよう、テスト対策の対処法も並行して指導していく。(1学期TOEIC取得スコア目標 400点)

教科書 /Textbooks

北尾 泰幸他著 『Step-up Skills for the TOEIC Test いま始めようTOEICテスト』 朝日出版社 ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円

各個人の目標スコアに合わせた解説付きのTOEIC問題集。

(授業の使用テキストに記載されている問題数は少ないので、テキストと併用して各個人の達成目標スコアレベルにあった問題集を購入し、習慣的に練習問題に取り組むことを勧める。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション&英語力確認テスト(必ず出席のこと)

第2回 Unit 1 「動詞」

第3回 Unit 2 「時制」

第4回 Unit 3 「時制」

第5回 Unit 4 「代名詞」

第6回 Unit 5 「不定詞」

第7回 Unit 6 「動名詞」

第8回 Unit 7 「冠詞・名詞」

第9回 復習テスト

第10回 Unit 8 「冠詞・名詞」

第11回 Unit 9 「仮定法」

第12回 Unit 10 「分詞」

第13回 Unit 11 「関係詞」

第14回 Unit 12 「接続詞」

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%

欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (済 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEICで300点を獲得することを目標とします。ここでは、初歩的な英文法を中心に確認していきます。

教科書 /Textbooks

横川綾子、Tony Cook
『TOEIC TEST解答カアツプ徹底トレーニング / Level-Up Trainer for the TOEIC TEST』
(センゲージラーニング、2014年)
ISBN978-4-86312-250-5 (2000円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEICの紹介、英語の構造【品詞】
- 2 回 英語の構造【5文型】
- 3 回 主語と述語(1)【平叙文】
- 4 回 主語と述語(2)【否定文】
- 5 回 主語と述語(3)【疑問文】
- 6 回 主語と述語(4)【命令文】
- 7 回 動詞(1)【be動詞】
- 8 回 動詞(2)【一般動詞】
- 9 回 主語と述語と時間の副詞(1)【現在形】
- 1 0 回 主語と述語と時間の副詞(2)【過去形】
- 1 1 回 主語と述語と時間の副詞(3)【未来形】
- 1 2 回 主語と述語と時間の副詞(4)【進行形】
- 1 3 回 主語と述語と時間の副詞(5)【完了形】
- 1 4 回 主語と述語と目的語【受動態】
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40%、期末試験 60%に出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価します。(正当な理由なく、4 回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておく役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語II (済 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Not applicable

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Welcome to the TOEIC Test” 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社 ￥1,800+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1、動詞と時制(1)
- 3回 Unit 2、動詞と時制(2)
- 4回 Unit 3、動詞と時制(3)
- 5回 Unit 4、仮定法
- 6回 Unit 5、準動詞(1)
- 7回 Unit 6、準動詞(2)
- 8回 Midterm Testおよび解説
- 9回 Unit 7、準動詞(3)
- 10回 Unit 8、準動詞(4)
- 11回 Unit 9、形容詞・副詞と比較
- 12回 Unit 10、不定代名詞
- 13回 Unit 11、関係詞(1)
- 14回 Unit 12、関係詞(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、Midterm Test：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：20%
最終評価にはTOEICのスコアが反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に使用したTOEIC対策テキストの難易度を上げた姉妹テキストを使用し、「聴く」「読む」力のさらなる養成をおこなう。1学期同様、2学期も明確な目標スコアを設定し、1学期に習慣づいた英語学習を継続することで今学期、さらなるスコアアップを目指してもらいたい。(2学期TOEIC取得目標 450~)

教科書 /Textbooks

北尾 泰幸 他著 『More Step-up Skills for the TOEIC Test 一歩上を目指すTOEICテスト』 朝日出版社 ￥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

2学期取得目標レベルに合わせたTOEIC対策問題集 (解説付き)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 復習テスト
- 10回 Office Work
- 11回 Business
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席2回まで。遅刻2回につき欠席1回とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of economic majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon, Inspire 2, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Food
- 第3回 Festivals
- 第4回 Review 1 The Big Picture 1
- 第5回 Cities
- 第6回 Jobs
- 第7回 Review 2 The Big Picture 2
- 第8回 Music
- 第9回 Journeys
- 第10回 Review 3 The Big Picture 3
- 第11回 Family
- 第12回 Nature
- 第13回 Review 4 The Big Picture 4
- 第14回 Happiness
- 第15回 Conservation

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEICで350点を獲得することを目標とします。ここではTOEICで高得点を目指すため、その練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

横川綾子、Tony Cook
『TOEIC TEST解答カアップ徹底トレーニング / Level-Up Trainer for the TOEIC TEST』
(センゲージラーニング、2014年)
ISBN978-4-86312-250-5 (2000円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 主語と述語と目的語と補語【文型】
- 3回 品詞の働き【名詞】【動詞】【形容詞】【副詞】
- 4回 述語に意味を加える表現【助動詞】
- 5回 さまざまな名詞(1)【冠詞】
- 6回 さまざまな名詞(2)【代名詞】
- 7回 名詞を修飾するもの【形容詞】
- 8回 動詞・形容詞・文全体を修飾するもの【副詞】
- 9回 形容詞と副詞【比較】
- 10回 名詞・形容詞・副詞の働きをする動詞【不定詞】
- 11回 分詞の形容詞的用法【現在分詞】【過去分詞】
- 12回 分詞の副詞的用法【現在分詞】【過去分詞】
- 13回 名詞の前に置くことば【前置詞】
- 14回 節をつなぐもの【接続詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40%、期末試験 60%に出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。(正当な理由なく、4回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。) また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校入試レベルの文法書を準備しておく役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語III (済 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無し

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (済 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of economics majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

Kristin Johannsen and Rebecca Tarver Chase, World English 2, Heinle Cengage Learning (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Food from the earth, Personal Routines
- 第2回 Comparisons, Regional Foods, Traditional Dishes, Video Journal: Forbidden Fruits
- 第3回 (Unit 1 Quiz) Intercultural Communication, Small Talk
- 第4回 Breaking the Ice, Video Journal: Orangutan Language
- 第5回 (Unit 2 Quiz) Cities, Describing a Place
- 第6回 Discussing an Action Plan, Megacities!, Video Journal: FES
- 第7回 Write 200 words about what your city will be like in 2030.
- 第8回 (Unit 3 Quiz) The Body, Discuss ways to stay healthy, Talk about lifestyles
- 第9回 Natural Remedies, Understand how germs affect the body, Video Journal: The Human Body
- 第10回 (Unit 4 Quiz) Challenges, Talk about Facing Challenges, Reflect on Past accomplishments
- 第11回 Simple Past and Past Continuous, Personal Challenges, Video Journal: Megatransect Project
- 第12回 Write 200 words about your biggest challenge.
- 第13回 (Unit 5 Quiz) Simple Past Tense and Past Perfect Tense, Talk about the Best Age to Do Something in Your Life
- 第14回 Questions to Get More Information, Important Transitions, Video Journal: Nubian Wedding
- 第15回 (Unit 6 Quiz) Review Materials from the Previous Weeks

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework. Students will learn their textbook conversations and repeat them with their books closed.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (済 1 - C) 【昼】

担当者名
/Instructor

ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済 1 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book 2 by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The king and his wives
11. Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

NA

英語III (済 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will practice the four main language skills, and read about English speaking cultures. The main focus of this course will be on speaking and hearing

教科書 /Textbooks

Gear Up by Gershon & Mares publisher - MACMILLAN

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Student Information Cards & Getting Acquainted
- 2回 Text 8,9,10,11 Prepare Dialog p.8 for Dialog Quiz next class
- 3回 Text 12,13,14,15 Prepare Dialog p.12 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 4回 Text 16,17,18,19 Prepare Dialog p.16 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 5回 Written Grammar Test units 1~6 Cumulative Dialog Test
- 6回 Writing Assignment - Introduction to Outlining "My Life"
- 7回 Speeches from last week's outlines
- 8回 Text 22,23,24,25 Prepare Dialog p.22 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 9回 Text 26,27,28,29 Prepare Dialog p.26 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 10回 Text 30,31,32,33 Prepare Dialog p.26 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 11回 Written Grammar Test units 1~6 Cumulative Dialog Test
- 12回 Writing Assignment - Outlining "My Trip"
- 13回 Speeches from last week's outlines
- 14回 Make-up Day
- 15回 Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Student evaluations will be based on an average of evaluations for all activities, for example, speeches, writing, and weekly dialog Quizzes, main tests, 70% and final examination 30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be told weekly how to prepare for each class.
Cooperation between you and the teacher and the other students will make this class fun. Never be afraid to ask the teacher questions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's work together to make this an interesting semester.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』 (2008) Rost, M., Pearson Education, 3500 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Talking about apartments and houses
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of economics majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

Kristin Johannsen and Rebecca Tarver Chase, World English 2, Heinle Cengage Learning (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Explain how we get luxuries and talk about needs and wants
- 第2回 Discuss what makes people's lives better, Video Journal: Coober Pedy Opals
- 第3回 (Unit 7 Quiz) Use conditionals to talk about real situations and future situations
- 第4回 Describe what animals do, Video Journal: Happy Elephants
- 第5回 (Unit 8 Quiz) Discuss life in the past and talk about your grandparent's daily lives
- 第6回 Compare past and present ways of getting things done, Video Journal: Columbus
- 第7回 (Unit 9 Quiz) Write 200 words about how you get things done.
- 第8回 Talk about preparations for a trip and about different kinds of vacations
- 第9回 Use English at the airport, Video Journal: Adventure Capital of the World
- 第10回 (Unit 10 Quiz) Discuss career choices and ask and answer job-related questions
- 第11回 Talk about career planning, Video Journal: Trinidad Bird Man
- 第12回 (Unit 11 Quiz) Write 200 words about the job you want in the future.
- 第13回 Describe a festival and compare holidays in different countries
- 第14回 Talk about personal celebrations, Video Journal: Young Riders of Mongolia
- 第15回 (Unit 12 Quiz) Review Materials from the Previous Weeks

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework. Students will learn their textbook conversations and repeat them with their books closed.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Textbook by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
- 10.Topic: The Great Kings
- 11.Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

NA

英語Ⅳ (済 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will practice the four main language skills, and read about about English speaking cultures. The main focus of this course will be on speaking and hearing.

教科書 /Textbooks

Gear Up by Gershon & Mares publisher - MACMILLAN

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Discussion about Vacation
- 2回 Text 36,37,38,39 Prepare Dialog p.36 for Dialog Quiz next class
- 3回 Text 40,41,42,43 Prepare Dialog p.40 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 4回 Text 44,45,46,47 Prepare Dialog p.44 for Dialog Quiz next class. Dialog Quiz
- 5回 Written Grammar Test, Units 1,2, & 3. Cumulative Dialog Test with Elements of Units 7~9
- 6回 Writing assignment - Outlining "My Favorite Trip"
- 7回 Speeches from last week's outlines
- 8回 Text 50,51,52, 53 Prepare Dialog p.50 for Dialog Quiz next class.
- 9回 Text 54,55,56,57 Prepare Dialog p.54 Quiz next class
- 10回 Text 58,59,60,61 Prepare Cumulative Dialog 2 for test next week.
- 11回 Written Grammar Test units 10~12 Cumulative Dialog Test with Elements of Units 10~12
- 12回 Writing assignment - Outlining "My Best Friend"
- 13回 Speeches from last week's outlines
- 14回 Make-up Day
- 15回 Individual Evaluations of Whole Course

成績評価の方法 /Assessment Method

Student evaluations will be based on an average for all activities, for example, speeches, writing, and weekly dialog Quizzes, main tests, 70% and final examination 30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be told weekly how to prepare for the next class.
Every student is required to do all of the assignments and tests. Absence is not an excuse for not doing the work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you want this course to be fun, you must listen carefully to with the teacher says, and cooperate with the teacher and other students.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 1 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いた国際的なコミュニケーションの必要性が年々増加している現在、コミュニケーションに主眼を置いたTOEICテストは特にビジネスの世界を中心に、英語力を測る物指しとして用いられている。TOEICは世界の約150ヶ国で実施され、年間、日本では約230万余の人々が受験し、TOEICスコアは多くの会社の就職時、就職後に求められているのが現状です。
本授業では、TOEICテストに準拠した問題を解きながら、語彙の練習、英語表現の解説及び文法説明等を通して、英語の聴解力・文法力・読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test 『一歩上を目指すTOEICテスト』 C D 付き ISBN978-4-255-15553-1
北野泰幸著 Asahi Press 朝日出版社 1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 Unit 8 Daily Life : 日常生活 受動態 (1)
第2回 Unit 8 Daily Life : 日常生活 受動態 (2)
第3回 Unit 9 Office Work : オフィスワーク 代名詞 (1)
第4回 Unit 9 Office Work : オフィスワーク 代名詞 (2)
第5回 Unit 10 Business : ビジネス 数量詞 (1)
第6回 Unit 10 Business : ビジネス 数量詞 (2)
第7回 Unit 11 Traffic : 交通 接続詞 (1)
第8回 Unit 11 Traffic : 交通 接続詞 (2)
第9回 Unit 12 Finance and Banking : 金融と銀行業務 前置詞 (1)
第10回 Unit 12 Finance and Banking : 金融と銀行業務 前置詞 (2)
第11回 Unit 13 Media : マスメディア 語彙 (1)
第13回 Unit 13 Media : マスメディア 語彙 (2)
第14回 Unit 14 Health and Welfare : 健康と福祉
第15回 Unit 14 Health and Welfare : 健康と福祉

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20% 定期考査・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を携帯しましょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習用のプリントを各ユニット毎に配布するので、必ずこれを使って自宅で予習をしてから授業に臨みます。
授業はこの予習プリントの採点から始まるので、予習プリントを使った自宅学習は必須です。

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC skills 「試験対策」

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC: Listening and Reading Test (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Unit 1 & 2: Using the photo to predict and understanding factual questions
- 第 3 回: Unit 3: Skimming to predict the content before listening 1
- 第 4 回: Unit 4: Skimming to predict the content before listening 2
- 第 5 回: Unit 8 & 9: Listening for verbs and answering direct questions
- 第 6 回: Unit 10: Awareness of 'same-word' and 'same-sound' distractor items
- 第 7 回: Unit 11: Different kinds of "what" questions
- 第 8 回: Unit 15: Listening carefully for details - parts of speech
- 第 9 回: Unit 16: Time and location indicators
- 第 10 回: Unit 17: Using phrase patterns to infer meaning
- 第 11 回: Unit 18: Questions involving numbers and quantities
- 第 12 回: Unit 22: Listening for details - prepositions
- 第 13 回: Unit 23: Offers, requests, and opinions
- 第 14 回: Unit 24: Polite ways of saying "no"
- 第 15 回: Unit 25: Re-statements involving "how" and "why" questions

成績評価の方法 /Assessment Method

End of semester test

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As directed by teacher

必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You can increase your TOEIC score with this course

キーワード /Keywords

Examination success / TOEIC

英語V (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
 上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
 初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (4回) ... 85% 日常の授業への取り組み ... 15%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST 基本レッスン』 by 今村洋美 野田恵剛 西村智 柳朋宏 鶴見書店
Wicked and Shuddering Tales by Yoko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Lesson 1 Trips and Transportation
- 3回 Lesson 2 Eating Out
- 4回 Lesson 3 Purchasing
- 5回 Lesson 4 Entertainment and Media
- 6回 Lesson 5 Climate and Health
- 7回 Lesson 6 Housing and Corporate Property
- 8回 Lesson 7 E-mail, Letters and Phoning
- 9回 Lesson 8 Personal Affairs
- 10回 Lesson 9 Meetings and Conferances
- 11回 Lesson 10 Finance and Budgeting
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales"The Canterville Ghost"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 30% 試験 ... 70%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本でいま起きている問題を海外に紹介するNHK衛星放送の番組を教材に、英語ニュースを聴いて理解します。英語ニュースの内容を理解するのに必要な構文力や語彙力など、読解力の向上を図ります。シャドーイングやオーバーラッピングなどを通して、英語のリズムやイントネーションに慣れるようにします。社会の出来事に対して考察力をつけ、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“What's on Japan 8 : NHK English News Stories” 山崎達朗/ Stella M. Yamazaki 編著
金星堂 2014年 ISBN978-4-7647-3973-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction (授業の進め方)
Unit 1 Ramen Revolution (1)
- 2回 Unit 1 Ramen Revolution (2)
- 3回 Unit 2 Top Twitter
- 4回 Unit 2 Top Twitter
- 5回 Unit 3 Hope for the Future
- 6回 Unit 3 Hope for the Future
- 7回 Unit 4 How to Beat the Heat
- 8回 Unit 4 How to Beat the Heat
- 9回 Unit 5 Party, Brazilian-style
- 10回 Unit 5 Party, Brazilian-style
- 11回 Unit 6 Smart Phones, Smart Kidsnner Vision
- 12回 Unit 6 Smart Phones, Smart Kidsnner Vision
- 13回 Unit 7 Frozen Frontier
- 14回 Unit 7 Frozen Frontier
- 15回 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・30% 期末試験・・・70%

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①テキスト付属のDVDを活用し、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。
- ③やむを得ず欠席する場合は、連絡をすること。

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
 上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
 初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (4回) ... 85% 日常の授業への取り組み... 15%

上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いた国際的なコミュニケーションの必要性が年々増加している現在、コミュニケーションに主眼を置いたTOEICテストは特にビジネスの世界を中心に、英語力を測る物指しとして用いられている。TOEICは世界の約150ヶ国で実施され、年間、日本では約230万余の人々が受験し、TOEICスコアは多くの会社の就職時、就職後に求められているのが現状です。本授業では、TOEICテストに準拠した問題を解きながら、語彙の練習、英語表現の解説及び文法説明等を通して、英語の聴解力・文法力・読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test 『一歩上を目指すTOEICテスト』 C D 付き ISBN978-4-255-15553-1
北野泰幸著 Asahi Press 朝日出版社 1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unit 8 Daily Life : 日常生活・受動態 (1)
- 第2回 Unit 8 Daily Life : 日常生活・受動態 (2)
- 第3回 Unit 9 Office Work : オフィスワーク・代名詞 (1)
- 第4回 Unit 9 Office Work : オフィスワーク・代名詞 (2)
- 第5回 Unit 10 Business : ビジネス・数量詞 (1)
- 第6回 Unit 10 Business : ビジネス・数量詞 (2)
- 第7回 Unit 11 Traffic : 交通・接続詞 (1)
- 第8回 Unit 11 Traffic : 交通・接続詞 (2)
- 第9回 Unit 12 Finance and Banking : 金融と銀行業務・前置詞 (1)
- 第10回 Unit 12 Finance and Banking : 金融と銀行業務・前置詞 (2)
- 第11回 Unit 13 Media : マスメディア・語彙 (1)
- 第13回 Unit 13 Media : マスメディア・語彙 (2)
- 第14回 Unit 14 Health and Welfare : 健康と福祉
- 第15回 Unit 14 Health and Welfare : 健康と福祉

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20% 定期考査・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を携帯しましょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習用のプリントを各ユニット毎に配布するので、必ずこれを使って自宅で予習をしてから授業に臨みます。授業はこの予習プリントの答え合わせから始まるので、予習プリントを使った自宅学習は必須です。

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST 基本レッスン』 by 今村洋美 野田恵剛 西村智 柳朋宏 鶴見書店
Wicked and Shuddering Tales by Yoko Hosokawa 関文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 模擬テスト Part 1 Part 2
- 3回 模擬テスト Part 3
- 4回 模擬テスト Part 3
- 5回 模擬テスト Part 4
- 6回 模擬テスト Part 4
- 7回 模擬テスト Part 5
- 8回 模擬テスト Part 6
- 9回 模擬テスト Part 7
- 10回 模擬テスト Part 7
- 11回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "A Pair of Hands"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales "A Pair of Hands"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 試験 75%
4回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前期に続いて、日本でいま起きている問題を海外に紹介するNHK衛星放送の番組を教材に、英語ニュースを聴いて理解します。英語ニュースの内容を理解するのに必要な構文力や語彙力など、読解力の向上を図ります。シャドーイングやオーバーラッピングなどを通して、英語のリズムやイントネーションに慣れるようにします。社会の出来事に対して考察力をつけ、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“What's on Japan 8 : NHK English News Stories” 山崎達朗/ Stella M. Yamazaki 編著
金星堂 2014年 ISBN978-4-7647-3973-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 8 Top Skills on Display
- 2回 Unit 8 Top Skills on Display
- 3回 Unit 9 Reality Check
- 4回 Unit 9 Reality Check
- 5回 Unit 10 Saving the Rain Dance
- 6回 Unit 10 Saving the Rain Dance
- 7回 Unit 11 Building a Better Ball
- 8回 Unit 11 Building a Better Ball
- 9回 Unit 12 Clean-up Relay
- 10回 Unit 12 Clean-up Relay
- 11回 Unit 13 Music for a Silent World
- 12回 Unit 13 Music for a Silent World
- 13回 Unit 15 Sleeping Business
- 14回 Unit 15 Sleeping Business
- 15回 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・ 30% 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①テキスト付属のDVDを活用し、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。
- ③やむを得ず欠席する場合は、連絡をすること。

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Level 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: course introduction
week 2 and week 3: unit 1, vocabulary support, listening and discussion
week 4 and week 5: unit 2, DVD and reading
week 6 and week 7: unit 3, vocabulary support, listening and discussion, review of units 1-3
week 8 and week 9: unit 4, DVD and reading
week 10 and week 11: unit 5, vocabulary support, listening and discussion
week 12 and week 13: unit 6, DVD and reading, review of units 4-6
week 14: discussion and summary, prepare for the exam
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Do your best

キーワード /Keywords

communication, internationalization, development

英語VII (済2-B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book 3 by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The king and his wives
11. Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

NA

英語VII (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed each week before class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 このコースではVOAの放送内容で構成されたテキストを用いて世界規模の環境や健康にまつわるニュースレポートを学習します。VOA Special Englishの学習によって、数少ない語彙数でも高度な内容を表現することができるようになることが目標です。この授業は「英語の勉強」ではなく、「英語のトレーニング」です。厳しく、でも楽しくトレーニングをしていきましょう。

教科書 /Textbooks
 安浪誠祐 / Richard S. Lavin 『Closer to the World: VOA's Health & Environment Reports』 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 高校時代に使用した文法の参考書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション : 授業の進め方、成績評価の方法、グループ編成。必ず出席すること。
- 2 . chapter 1
- 3 . chapter 2
- 4 . chapter 3
- 5 . chapter 4
- 6 . chapter 5
- 7 . chapter 6
- 8 . chapter 7
- 9 . chapter 8
- 1 0 . chapter 9
- 1 1 . chapter 10
- 1 2 . chapter 11
- 1 3 . chapter 12
- 1 4 . chapter 13
- 1 5 . まとめa

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常点 (提出物、発言回数、予習状況など) : 20%
 毎回の単語テスト : 30%
 定期試験 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Series 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: How was your summer holiday?
Week 2 and Week 3: Unit 7, listening and discussion (conceptualization)
Week 4 and 5: Unit 8, DVD and reading (simplification)
Week 6 and Week 7: Unit 9, listening and discussion, review of units 7-9 (communication)
Week 8 and Week 9: Unit 10, DVD and reading (modification)
Week 10 and Week 11: Unit 11, listening and discussion (debate)
Week 12 and Week 13: Unit 12, DVD and reading, review of units 10-12 (generalization)
Week 14: discussion and summary
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

communication, understanding, knowledge

英語VIII (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus: Past Participles
3. Topic: The Environment / Grammar Focus: Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus: Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus: Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus: Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus: Contractions
10. Topic: The Great Kings
11. Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IX (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』(2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 3年次 /Year: 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 2学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class: 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 3/American English Student Access』 (2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Making plans, and accepting and declining invitations
- 4回 Telling people news or gossip and responding
- 5回 Proposing ideas and responding, and convincing people to accept ideas
- 6回 Confirming that you know someone and responding
- 7回 Giving orders and making requests
- 8回 Talking about possibilities
- 9回 Keeping a conversation going and asking follow-up questions
- 10回 Expressing certainty and uncertainty
- 11回 Asking, giving, and denying permission and offering help
- 12回 Asking for and giving opinions
- 13回 Expressing and asking questions about necessity
- 14回 Requesting clarification and responding
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

担当者名 /Instructor 蘇 小楠 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 蘇 小楠 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
中国政府公認のビジネス中国語試験（BCTテスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期
第1回 第1課 単語練習、聴解練習
第2回 第1課 会話、作文練習
第3回 第1課 場面の体験
第4回 第2課 単語練習、聴解練習
第5回 第2課 会話、作文練習
第6回 第2課 場面の体験
第7回 第3課 単語練習、聴解練習
第8回 第3課 会話、作文練習
第9回 第3課 場面の体験
第10回 第4課 単語練習、聴解練習
第11回 第4課 会話、作文練習
第12回 第4課 場面の体験
第13回 第5課 単語練習、聴解練習
第14回 第5課 会話、作文練習
第15回 第5課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。
就職に有利になるビジネス中国語の中国政府公認試験BCTに挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 ビジネス文章

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認のビジネス中国語試験（BCTテスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期

- 第1回 第6課 単語、聴解練習
- 第2回 第6課 会話、作文練習
- 第3回 第6課 場面の体験
- 第4回 第7課 単語、聴解練習
- 第5回 第7課 会話、作文練習
- 第6回 第7課 場面の体験
- 第7回 第8課 単語、聴解練習
- 第8回 第8課 会話、作文練習
- 第9回 第8課 場面の体験
- 第10回 第9課 単語、聴解練習
- 第11回 第9課 会話、作文練習
- 第12回 第9課 場面の体験
- 第13回 第10課 単語、聴解練習
- 第14回 第10課 会話、作文練習
- 第15回 第10課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になるビジネス中国語の中国政府公認試験（BCT基礎）に挑戦してほしい

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』 (改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

嚴基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち表現】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ヘアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。
韓国語で発表をする形で会話テストがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks
楽しくできる韓国語初級II、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人律政群
/Class 2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄹ不規則活用
- 3回 第9課 ㄹ不規則活用
- 4回 第10課 ㅎ不規則活用
- 5回 第10課 ㅎ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか(小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、シラバス紹介
2. インタビューする
3. インタビューする
4. 自己紹介する
5. 自己紹介する
6. 自己紹介する
7. 決まりを言う
8. 決まりを言う
9. 約束をする
10. 約束をする
11. 約束をする
12. 道案内をする
13. 道案内をする
14. 道案内をする
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回体の具合を言う
- 10回体の具合を言う
- 11回体の具合を言う
- 12回勉強の仕方を話す
- 13回勉強の仕方を話す
- 14回勉強の仕方を話す
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を基本としながら、適宜プリントを配布する予定。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み... 40% 期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を基本としながら、適宜プリントなどを配布する予定。

- 1回 ガイダンス
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み... 40% 期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語V 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

2学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス /Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業で取り上げるドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』 熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにしたいと考えています。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく過程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればと思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ラ・トゥールー フランス語初級文法と会話ー (CD付)、山口俊洋 他著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 フランス語の挨拶 (名詞の性と数、冠詞)
- 3回 自己紹介 (主語人称代名詞、動詞être、形容詞〈1〉、否定文)
- 4回 年齢、趣味 (動詞avoir、疑問文、疑問形容詞)
- 5回 質問〈1〉 (第一群規則動詞、疑問代名詞)
- 6回 質問〈2〉 (疑問副詞、人称代名詞強勢形)
- 7回 ものや人の説明〈1〉 (形容詞〈2〉、指示形容詞)
- 8回 ものや人の説明〈2〉 (所有形容詞)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞)
- 10回 予定 (前置詞と定冠詞の縮約形、近接未来と近接過去)
- 11回 報告〈1〉 (第二群規則動詞、複合過去〈1〉)
- 12回 報告〈2〉 (複合過去〈2〉)
- 13回 時間と天候 (非人称構文)
- 14回 依頼 (命令法)
- 15回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%) を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また6月の実用フランス語技能検定試験5級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができます (最低合格点Cを保証)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語であることは間違いのないと思います。

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期よりも高いレベルで基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を1学期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、それまでの学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ラ・トゥール ーフランス語初級文法と会話ー (CD付き)、 山口俊洋 他 著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 贈り物〈1〉(補語人称代名詞)
- 第2回 贈り物〈2〉(中性代名詞)
- 第3回 日常の行動〈1〉(代名動詞)
- 第4回 日常の行動〈2〉(代名動詞の複合過去)
- 第5回 旅行(関係代名詞)
- 第6回 過去〈1〉(半過去)
- 第7回 過去〈2〉(複合過去と半過去、大過去)
- 第8回 復習と確認(フランス映画鑑賞)
- 第9回 未来の計画〈1〉(単純未来と前未来)
- 第10回 未来の計画〈2〉(比較級)
- 第11回 未来の計画〈3〉(最上級)
- 第12回 街中(現在分詞とジェロンデフ)
- 第13回 夢(条件法現在と過去)
- 第14回 感情表現(接続法現在と過去)
- 第15回 復習と確認(フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題(50%)、学期末試験の結果を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また11月の実用フランス語技能検定4級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができます(最低点Cを保証します)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語であることは間違いのないと思います。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2520）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課ずつ進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

なお、1年生の1学期中に実用フランス語検定試験5級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。ただし申請を希望する者は、以下の三点について注意すること。

- 1 検定の合格は単位認定の最低点を保証するものであり、成績はあくまでも日常の授業への取り組みならびに期末試験の結果による。
- 2 検定に合格した場合も必ず期末試験を受験すること。期末試験を受験しない場合、単位認定はできない。
- 3 検定合格の通知(コピー可)を必ず期末試験日(当日を含む)までに提示すること、期末試験当日に成績を出すため、以後の連絡には応じない。なお、期末試験の日時が検定の合格通知に先行する場合は、最終講義日までにその旨を申し出ること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2520）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞・数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去形の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来形の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

なお、1年生の2学期中に実用フランス語検定試験4級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。ただし申請を希望する者は、以下の三点について注意すること。

- 1 検定の合格は単位認定の最低点を保証するものであり、成績はあくまでも日常の授業への取り組みならびに期末試験の結果による。
- 2 検定に合格した場合も必ず期末試験を受験すること。期末試験を受験しない場合、単位認定はできない。
- 3 検定合格の通知(コピー可)を必ず期末試験日(当日を含む)までに提示すること、期末試験当日に成績を出すため、以後の連絡には応じない。なお、期末試験の日時が合格通知に先行する場合は、最終講義日までにその旨を申し出ること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。

教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級で習得した基礎知識をもとに、さらに詳しく文法を学びフランス語らしい表現力アップを目標とします。

教科書 /Textbooks

高橋信良 他著 『フランス語ブルー2 トリコロール文法編』 朝日出版社 2014年 1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目	1課	関係代名詞と中性代名詞
2回目	2課	補語人称代名詞
3回目	3課	非人称構文
4回目	4課	現在分詞とジェロンディフ
5回目	5課	知覚動詞
6回目	5課	使役動詞
7回目	6課	直説法大過去
8回目	7課	直説法単純未来
9回目	8課	関係代名詞 lequel
10回目	9課	条件法現在
11回目	9課	条件法過去
12回目	10課	間接話法
13回目	10課	感嘆文
14回目	11課	接続法 形と用法1
15回目	12課	接続法の用法2

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20% なお6月に実施される実用フランス語技能検定試験3級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することが出来る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動詞 単文と複文 法

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に学習した事項をもとに作文の練習をして、よりフランス語らしい表現力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

星笠守之 他著 『フランス語プラン2 トリコロール 作文編』 朝日出版 1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞 qui que
- 2回目 1課 関係代名詞 ce qui ce que
- 3回目 2課 関係代名詞 ou dont
- 4回目 2課 前置詞がつく関係代名詞
- 5回目 3課 現在分詞
- 6回目 3課 ジェロンドンディフ
- 7回目 4課 知覚構文
- 8回目 5課 使役文
- 9回目 6課 無生物主語
- 10回目 7課 強調構文
- 11回目 8課 非人称構文
- 12回目 9課 さまざまな接続詞 並列文
- 13回目 10課さまざまな接続詞 複文
- 14回目 11課 間接話法
- 15回目 12課 直説法か接続法か

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

単文と複文 日本語とフランス語の同異

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名
/Instructor

ドゥラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政 2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française.

Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II".

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base.

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。

語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。

フランス語の習得だけでなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。

指定の教科書を主に使い授業を進めます。

毎週、語彙の小テストを行います。

最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代, Brigitte Moser Hori) 三修社 2900 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト (8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

なお、該当期間中に実用フランス語技能検定試験の3級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française.

Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II".

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base.

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけでなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代, Brigitte Moser Hori) 三修社 2900 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活 : 家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活 : 家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活 : 週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活 : 週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト (8回)
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 定期試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですが、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（第2版）
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和和辞典：
 和和辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和和辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超過している場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気の表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IIIの復習
- 2回 ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
- 3回 「スペイン語を勉強するつもりです。」
- 4回 天候表現「今日はいい天気ですね。」
- 5回 時間表現「何時ですか？」
- 6回 gustar構文「私はバルサが好きです。」
- 7回 gustar型動詞「頭がいたいのか？」
- 8回 再帰動詞「私はマリといます。」
- 9回 「もう行っちゃうの」
- 10回 比較級「フアのほうが背が高い。」
- 11回 「フアはクラスで一番絵が上手だ。」
- 12回 現在完了「楽しかった！」
- 13回 現在分詞「今掃除中です。」
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』第2版、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度と同じテキストを使用します。(『コミュニケーションのためのスペイン語 三訂版』坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、2版(三訂版)
他、プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 自己紹介、その他不規則動詞
- 3回 現在分詞、不定語と否定語「スペイン語を勉強しています。」
- 4回 過去分詞、現在完了「どうしましたか？」
- 5回 ser・estarの受身「泥棒は警察に逮捕された」
- 6回 接続法現在の活用
- 7回 接続法、名詞節「できたらこの本を送ってほしい」
- 8回 点過去「昨日パエージャを食べた」
- 9回 se受身、se 無人称「アパート貸します」
- 10回 線過去「昨日食事をしていたとき・・・」
- 11回 命令「口をあけて」
- 12回 比較「マリアは私より背が高い」
- 13回 相対・絶対最上級「高すぎる！」
- 14回 DVDなど視聴覚教材
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIと同じテキスト『スペイン語でコミュニケーション 三訂版』(坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、三訂版2版)をそのまま使用します。
他、プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語VIIに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 関係詞「今朝来た人はなんていう名前？」
- 3回 関係副詞「バレンシアはよく米を食べる地域です」
- 4回 接続法の用法(形容詞節・副詞節)
- 5回 直説法未来「今度新しい車を買うだろう」
- 6回 直説法過去未来「昨日、今度新しい車を買うと言った」
- 7回 接続法過去「飛行機で旅行するよう勧めた」
- 8回 条件文「お金があったらもう一軒別荘を買うのに」
- 9回 短編教材と聞き取り
- 10回 短編教材と会話練習
- 11回 「自分の好きな有名人」
- 11回 「スペイン語圏で私が興味あること」
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
 - 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
 - 4回 大学生生活(3)【大学教員・職員との付き合い方】
 - 5回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
 - 6回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】
 - 7回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】
 - 8回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】
 - 9回 大学生生活(8)【大学の定期試験】
 - 10回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・リストアップする】
 - 11回 論理的思考力(2)【マッピングする・キーワードを繋げる】
 - 12回 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
 - 13回 論理的思考力(4)【定義をする】
 - 14回 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・時間軸に沿って考える】
 - 15回 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・論理的に考えて表現する】
- 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力 論理的思考

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
 - 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
 - 4回 大学生生活(3)【大学教員・職員との付き合い方】
 - 5回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
 - 6回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】
 - 7回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】
 - 8回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】
 - 9回 大学生生活(8)【大学の定期試験】
 - 10回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・リストアップする】
 - 11回 論理的思考力(2)【マッピングする・キーワードを繋げる】
 - 12回 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
 - 13回 論理的思考力(4)【定義をする】
 - 14回 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・時間軸に沿って考える】
 - 15回 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・論理的に考えて表現する】
- 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力 論理的思考

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期 (ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方
- 3回 価値の一様性
- 4回 言葉の起源をもとめて
- 5回 経済学とは何か
- 6回 思いやり
- 7回 住まい方の思想
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査
- 10回 改訂 介護概論
- 11回 ことばの構造、文化の構造
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方
- 3回 価値の一様性
- 4回 言葉の起源をもとめて
- 5回 経済学とは何か
- 6回 思いやり
- 7回 住まい方の思想
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査
- 10回 改訂 介護概論
- 11回 ことばの構造、文化の構造
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、留学生が主体的に日本語の学習に取り組めるようにチュートリアルを行う。留学生が大学を卒業するためには、ある程度決まったレベルの高い日本語力が求められるが、それを獲得する道筋は人それぞれである。個別のニーズに応じた授業を提供して他の授業と相補関係を作ることで、より大きな教育効果を狙っている。

教科書 /Textbooks

『アカデミック・ジャパニーズ・ポートフォリオ(試作版)』を配布予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【チュートリアルの意義】
- 第2回 学習計画を立てる(1)知る【大学生に必要な日本語能力】【パフォーマンス・チェック】【学習評価】
- 第3回 学習計画を立てる(2)意識する【学習目標】【理想の自分】
- 第4回 学習計画を立てる(3)計画する【学習方法】【学習リソース】【評価方法】
- 第5回 実践する(1)試してみる【実践を評価する】
- 第6回 実践する(2)修正する【学習計画の修正】
- 第7回 チュートリアル(1)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第8回 チュートリアル(2)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第9回 チュートリアル(3)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第10回 振り返る(1)【自己評価】【学習計画の修正】
- 第11回 チュートリアル(4)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第12回 チュートリアル(5)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第13回 チュートリアル(6)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第14回 チュートリアル(7)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第15回 振り返る(2)総括【全体の振り返り】【評価表】【自己評価】【ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

教師の観察による評価...30% 評価表に基づく評価...70%(自己評価...40% ピア評価...30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語IVは、日本語Vと日本語VIと授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チュートリアル 学習者オートノミー 理想の自分 学習計画 自己評価

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、留学生が主体的に日本語の学習に取り組めるようにチュートリアルを行う。留学生が大学を卒業するためには、ある程度決まったレベルの高い日本語力が求められるが、それを獲得する道筋は人それぞれである。個別のニーズに応じた授業を提供して他の授業と相補関係を作ることで、より大きな教育効果を狙っている。

教科書 /Textbooks

『アカデミック・ジャパニーズ・ポートフォリオ(試作版)』を配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『自律を目指すことばの学習 : さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【チュートリアルの意義】
- 第2回 学習計画を立てる(1)知る【大学生に必要な日本語能力】【パフォーマンス・チェック】【学習評価】
- 第3回 学習計画を立てる(2)意識する【学習目標】【理想の自分】
- 第4回 学習計画を立てる(3)計画する【学習方法】【学習リソース】【評価方法】
- 第5回 実践する(1)試してみる【実践を評価する】
- 第6回 実践する(2)修正する【学習計画の修正】
- 第7回 チュートリアル(1)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第8回 チュートリアル(2)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第9回 チュートリアル(3)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第10回 振り返る(1)【自己評価】【学習計画の修正】
- 第11回 チュートリアル(4)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第12回 チュートリアル(5)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第13回 チュートリアル(6)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第14回 チュートリアル(7)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第15回 振り返る(2)総括【全体の振り返り】【評価表】【自己評価】【ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

教師の観察による評価...30% 評価表に基づく評価...70%(自己評価...40% ピア評価...30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語IVは、日本語Vと日本語VIと授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チュートリアル 学習者オートノミー 理想の自分 学習計画 自己評価

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語読解力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語読解力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語読解力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語読解力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 留学生1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 授業外学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。
授業外学生との作文交換活動を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歴史【江戸の町と町民文化】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序】
- 8回 歌舞伎(3)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵三段目】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学期終了後ではあるが、2月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題をとりあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ

- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジューリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジューリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジューリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①自ら、社会に関する問題を設定できる。
- ②調査内容を明瞭に表現し、口頭で説明できる。
- ③グループ内の作業を協力・分担し、高度なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、2年次までに習得した経済学に関する知識を改めて修得してもらい、ゼミ論文、卒業論文作成における土台を築いていきます。演習では、講義のように教員の話をお聴きだけでなく、自分の意見を発言できる機会があり、間違っただけを発言したからといって、責められることはなく、失敗したことから多くのことを学べる機会があると思います。そのため受講生には積極的・主体的な参加が求められます。

教科書 /Textbooks

未定。履修者の関心、習熟度などを考慮して、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 文献精読について
- 4～5回 伝える技術の習得
- 6～9回 文献輪読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 10～11回 文献輪読と論文の書き方
- 12～15回 文献輪読と調査・研究の方法

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いながら、準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

企業だけではなく地域経済を担う組織は、NPOや商店街なども含めて事業を遂行するために、ビジネスモデルを構築し、安定的な経営を目指している。そこで、本演習では経営戦略のフレームワークについて学んだうえで、実際にグループで具体的な組織や地域の戦略について調査研究を行って、プレゼンテーションできるアウトプットを作成する。
なお、調査研究の成果を外部へプレゼンテーションすることと知見を広げるためのフィールドワークを兼ねたゼミ合宿を夏休みに実施する。

教科書 /Textbooks

- 遠藤功『経営戦略の教科書』光文社新書（2011年7月）
- 新雅史『商店街はなぜ滅びるのか』光文社新書（2012年5月）
- 古川久敬『チームマネジメント』日経文庫（2004年3月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 原田勉『実践力を鍛える戦略ノート [マーケティング編]』東洋経済新報社（2006年4月）
- 原田勉『実践力を鍛える戦略ノート [戦略立案編]』東洋経済新報社（2010年4月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 組織の目的は何か？【顧客の創造】、【ミッション】、【マネジメント】
- 2回 地域活性化とは何か？【産業】、【雇用】、【新規事業創造】
- 3回 戦略とは何か【企業戦略】、【地域戦略】、【競争優位】
- 4回～8回 フレームワークの習得【3C】、【SWOT分析】、【4P】、【AIDMA】、【STP】
- 9回 調査研究の対象の検討【調査対象】、【調査方法】、【段取り】
- 10回 調査研究の計画の検討【調査計画】、【文献調査】
- 11回 調査研究成果のアウトプットのノウハウについて【プレゼンテーション】
- 12回～14回 調査研究の中間報告
- 15回 調査研究のプレゼンテーション
- 夏休み ゼミ合宿

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50 % 調査研究の成果への貢献 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

グループで調査研究を実施するので、好奇心を持って積極的に取り組む姿勢を示して欲しい。また、日頃から企業の経営の比較分析やビジネスモデルについて関心を持って欲しい。さらには、本やレポートを読んだ時に、その内容や感想を人に伝えることを心がけて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
ファイナンスについて学ぶ。

教科書 /Textbooks
適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method
総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論の学習を通じて戦略的思考を学ぶ。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディキジット・ネイルバフ 『戦略的思考をどう実践するか?』 阪急コミュニケーションズ 2010.
エアーズ 『その数学が戦略を決める』 文藝春秋 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。
1回から15回：各章担当を決めて、レジユメを作成して、報告するという形式でゼミを進める

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本の金融制度や金融政策について、現実に行っている事象を高度に理解・分析する基礎を身につける

教科書 /Textbooks

毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 グループ発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料を熟読しておく

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここではさらに、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

未定。演習生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 西村和雄『ミクロ経済学入門(第2版)』岩波書店(○)
- ・ 武隈慎一『ミクロ経済学(増補版)』新世社(○)
- ・ 岩田規久男『ゼミナールミクロ経済学入門』日本経済新聞社(○)
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 現実の経済との関係についての理解を高めるために、適時課題を出す。1学期の演習の結果として、2学期の演習において興味をもって研究できるテーマの大まかなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：演習目標、方法、計画作成
- 2回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(1)
- 3回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(2)
- 4回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(3)
- 5回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(4)
- 6回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(5)
- 7回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(6)
- 8回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(7)
- 9回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(8)
- 10回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(9)
- 11回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(10)
- 12回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(11)
- 13回 特殊な経済行動研究入門(1)
- 14回 特殊な経済行動研究入門(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。
ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

常に現実のミクロ経済に関心を持つこと。

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習I【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1年間じっくり時間をかけて中級レベルの経済理論書を勉強することを通じて、自分の頭で物事を考える訓練をする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者はもちろん、報告を割り当てられなかった参加者に対しても、入念な予習を要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会的な出来事に対する関心を引き起こしたい。その際、他人の意見を参考として自分の意見を持ち、さらにそれを説得力のあるかたちで表明することを目指す。まずは、比較的容易な時事問題に関する文章の購読からはじめる。具体的には、ゼミ3、4回で新書1冊というのが分量の目安となる。

教科書 /Textbooks

未定（新刊の新書など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 顔合わせ
- 2 回 ~ 1 4 回 学生のレポートを中心として購読を進める
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 1 0 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会に関心があること。
求める人材の詳細については通常のゼミ生募集の際に示す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。経済データベースとして日経二ーズ、コンピュータソフトウェアとしてSAS (統計処理パッケージ言語) を利用する。

教科書 /Textbooks

大屋幸輔『コア・テキスト統計学』新世社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 データの整理
- 第2回 測る
- 第3回 確率
- 第4回 離散確率変数とその分布
- 第5回 連続確率変数とその分布
- 第6回 標本調査・標本分布
- 第7回 推定
- 第8回 仮説検定
- 第9回 回帰分析 (イントロダクション)
- 第10回 回帰分析 (標本相関係数他)
- 第11回 回帰分析 (最小自乗法)
- 第12回 回帰分析 (決定係数)
- 第13回 回帰分析 (σ 自乗の推定、 t 変量)
- 第14回 回帰分析 (検定)
- 第15回 最尤推定法と統計モデル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンに統計ソフトをインストールするので持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計的推定、統計的検定、回帰分析、最尤法

演習I【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

仮のテーマから出発して、演習IIで取り組むテーマを見つけ出すことが目的です。
調べて、まとめて、他人に説明して、他人の意見を聞き、別の視点を得て、次の作業を定める。これの繰り返しです。
その過程で、当たり前を疑うこと、ものごとを説明することに慣れること、他人からの説明を上手に理解してあげること、自分とは違う考え方に出会うこと、自分より詳しい人を探してアポイントメントをとって質問してくることを経験してください。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、参加者以外の人への取材、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

常に担当教員と連絡を取れるようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究のテーマを決めて、参考文献表の作成、参考文献の講読・発表、引用の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 最近の国際金融問題 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
- 2回 卒業研究のテーマの決定(複数の候補について、内容などを説明する)
- 3回 卒業研究のテーマと担当の決定(役割分担などを決める)
- 4回 参考文献表の作成(参考文献リストの表記の仕方などを学ぶ)
- 5回 参考文献表の作成と発表の分担の決定
- 6回～15回 参考文献の内容の発表と引用の仕方の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(議論への参加など)...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表の資料としてのレジユメは必ず作成すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

テーマ：ソーシャルビジネス
ソーシャルビジネスについて勉強します。環境問題を解決するためのしくみや、環境をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、環境活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 基礎力を養う(コミュニケーション力を身につける)
- 3回 基礎力を養う(分析力を身につける)
- 4回 基礎力を養う(ディベート力を身につける)
- 5回 文献輪読とディスカッション
- 6回 文献輪読とディスカッション
- 7回 文献輪読とディスカッション
- 8回 文献輪読とディスカッション
- 9回 文献輪読とディスカッション
- 10回 文献輪読とディスカッション
- 11回 グループによる調査・研究(テーマ設定と事前準備)
- 12回 グループによる調査・研究(実施)
- 13回 グループによる調査・研究(報告およびディスカッション)
- 14回 グループによる調査・研究(ディスカッション)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別な準備は必要ありませんが、日頃から環境問題や経済問題に関心を持つことが重要です。新聞は必ず購読することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：伊藤元重著『ゼミナール 国際経済入門』（日本経済新聞出版社）
阿部・遠藤著『国際経済学』（有斐閣）
Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy
(邦訳：石井菜穂子他訳『国際経済：理論と政策』（新世社）)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関連文献をピックアップし、その都度資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、テキストと担当箇所を決める。
- 2回-15回 輪読形式で報告してもらおう。質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 課題報告 40 % ディスカッションへの貢献度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習は、経済・産業（特に九州の経済・産業）について、その背景となる社会・文化・制度・慣習なども含めて、幅広い視点から考察できる能力を身につけることを目的としています。
 そのうえで、まずここでは、論理的にものごとを考える力と、それに基づくリテラシー能力（与えられた材料から必要な情報を引き出し活用する能力）を養っていただきます。
 具体的には、初学者向けの平易な文献の輪読（数人が一つの本を順番に読んで解釈をし、問題点について論じ合うこと）から始め、その後、個々の興味関心に沿ったテーマに基づきプレゼンテーション（およびディスカッション）を行っていただく予定です。
 適宜、レポートの書き方や文献検索の仕方といったリテラシー能力に関する指導も行います。また北九州の産業遺産を探索するフィールドワークも予定しています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
 第2回～6回 輪読
 第7回 フィールド・ワーク
 第8回～15回は、毎回、報告者が自分の関心に基づくテーマに沿ったプレゼンを中心に演習を進めていきます。途中、経済史における分析の方法やデータの扱い方等について適宜、指導を行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーションの内容、討論の積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンやディスカッションを中心とする授業ですから、積極的に学ぼうという姿勢を持って参加していただく必要があります。また、皆さんと密にコミュニケーションをとりつつ、皆さんとともにより実りあるゼミを作りたいと考えていますので、ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

社会経済史、産業史、九州の経済と産業、産業遺産

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このゼミの前期には今の日本の財政問題について議論していきたいと考えます。皆さんもご存じのとおり2008年9月に始まったリーマンショックのあと、世界中で大きな不況が起こりそれと同時に財政状況も非常に悪くなりました。ヨーロッパでは、ギリシャやキプロスといった小国が財政危機を迎え、本格的に財政再建を行っています。アメリカでも累積債務はGDP比でいうとそれほど高くないですが財政再建に取り掛かっています。しかし、あいまいにしてほとんど手段を講じていないのが日本です。これから世界一の高齢化社会となる日本で社会保障費の増大が進む中、悠長に構えていては、年金システムとともに財政も立ち行かなくなってしま危険性が高まります。ですから現在直面している日本の財政問題とその対策方法についてどのような議論がされているのかを学び、これからの勉強の動機づけをしたいと思えます。

教科書 /Textbooks

「日本の財政をどう立て直すか」土居丈朗[編] 日本経済新聞出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、イントロダクション (財政政策とは)
- 2回 財政政策・ 財政政策の主作用と副作用
- 3回 財政政策の歴史的経緯
- 4回 政府の失敗
- 5回 財政政策をめぐる政府の失敗
- 6回 租税負担と社会保障負担
- 7回 社会保障と財政 (社会保障の経済分析)
- 8回 地方分権
- 9回 政府間関係
- 10回 財政政策の決定過程
- 11回 選挙過程と世代間所得再分配
- 12回 税と社会保障の一体改革
- 13回 瀬戸際の日本財政
- 14回 財政再建化の方策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・ 報告... 50 % 議論への参加... 50 %

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表や報告は義務となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最初に報告者を決めます。報告者はきちんと報告準備をしてきてください。また、担当以外のときでも議論への参加が義務づけられます。みんなが (私も含め) やることをきちんとやって楽しくやりましょう !

キーワード /Keywords

財政政策

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーション、論文作成などの基本スキルについても学習する。

教科書 /Textbooks

テキストについては初回に、数冊のテキストを詳しく紹介し、最も好ましいものを選択することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 基礎的立地理論の習得
- 3回 基礎的立地理論の習得
- 4回 基礎的立地理論の習得
- 5回 基礎的立地理論の習得
- 6回 基礎的立地理論の習得
- 7回 基礎的立地理論の習得
- 8回 基礎的立地理論の習得
- 9回 基礎的立地理論の習得
- 10回 基礎的立地理論の応用
- 11回 基礎的立地理論の応用
- 12回 基礎的立地理論の応用
- 13回 基礎的立地理論の応用
- 14回 基礎的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。
経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では労働者の働き方，企業の雇用政策，労働に関する諸問題，労働政策などを中心に考察し，経済学的思考の習得を目標とする。またレポート執筆・発表・ディスカッションを通じての基礎学力の向上も目標とする。

教科書 /Textbooks

事前には指定しない。最初の演習で輪読する書籍を決めた上で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各自の関心によるが，労働経済学の基礎文献として以下を挙げる。
- ・ 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジャー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
 - ・ 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン（自己紹介，演習内容の説明，輪読・発表の割当など）
第2回～第15回 学生による輪読・発表
* 第1回INTRODUCTIONで輪読する書籍や課題を学生との話し合いで決める。
* グループワークを行うこともある。
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1回目の演習までに自分が何に関心があるのかを説明できるようにしておくこと。
労働経済学の基本を学ぶため，経済特殊講義A（担当：畔津）を同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習IIでは、ゼミ論文、卒業論文のテーマを決め、その準備を行います。各自が関心のあるテーマを取り上げ、それらを調査、検討した成果を報告してもらうことになります。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2～3回	テーマ設定と文献・資料収集
4～5回	文献・資料の整理
6～8回	研究テーマ設定作業
9～12回	研究テーマの中間報告
13～15回	研究テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%
報告にあたって十分な準備をしたか、演習において積極的に発言したかが基準になります。毎回出席したからといって、よい評価がもらえるとは限りません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いながら、準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、グループによる調査研究のさらなる向上を目指すとともに報告書として完成、第三者に対してのプレゼンテーションを実施し、プレゼンテーション能力の向上を目指す。また、教科書や参考書を拠り所しながら現在の組織の在り方、方向性について議論を深める。

教科書 /Textbooks

○P・F・ドラッカー『プロフェショナルの条件』ダイヤモンド社(2000年6月)
稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門』中公新書(2011年11月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョアン・マグレッタ『マイケル・ポーターの競争戦略』早川書房(2012年9月)
○ジェームズ・C・コリンズ『ビジョナリーカンパニー』日経BP(1995年9月)
○ジェームズ・C・コリンズ『ビジョナリーカンパニー2 飛躍の法則』日経BP(2001年12月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレゼンテーション資料に対する修正のためのディスカッションI
- 2回 プレゼンテーション資料に対する修正のためのディスカッションII
- 3回 プレゼンテーション資料に対する修正のためのディスカッションIII
- 4回 第三者に対するプレゼンテーションI
- 5回 第三者に対するプレゼンテーションII
- 6回 第三者に対するプレゼンテーションIII
- 7回 プレゼンテーションに対する反省会
- 8回 現在の組織の在り方・方向性I
- 9回 調査研究報告書の作成のための勉強会I
- 10回 調査研究報告書の作成のための勉強会II
- 11回 調査研究報告書の作成のための勉強会III
- 12~13回 調査研究報告書の作成
- 14回 現在の組織の在り方・方向性II
- 15回 卒業研究の企画書作成

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50 % 調査研究の成果(報告書) 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1つの組織の中の分析から複数の組織の連携に係る事項についての考察を試みるので、広い視野を持って臨んで欲しい。また、グループによる事業研究を少しでも向上できるように日々問題意識を持って欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

演習

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ファイナンスについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成の準備として、統計解析の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Stock, J. and M. Watson. 2010. Introduction to Econometrics, 3rd ed. Addison-Wesley.
Wooldridge, J. 2008. Introductory Econometrics, 4th ed. South-Western College Pub.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：講義と演習と発表

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習Iで習得した知識を基に、日本の金融制度や金融政策について、現実に行っている事象を理論的・実証的に分析する。ポスターセッションに参加できるように準備をする。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 個人またはグループ発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各自の研究内容を発表できる準備をする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社。
- ・ 林 紘一郎『ネットワーキング情報社会の経済学』NTT出版。
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店。
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高めて、4年次の演習において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：演習の目的、計画など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習III、IV案内
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。
常に現実のミクロ経済に興味をもつこと。
ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1年間じっくり時間をかけて中級レベルの経済理論書を勉強することを通じて、自分の頭で物事を考える訓練をする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者はもちろん、報告を割り当てられなかった参加者に対しても、入念な予習を要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

論理性の高い本を読み、報告することで知識を深めてもらう。知識にも広狭深浅があり、それらが絡み合っていることを実感してもらいたい。また、卒業論文の構想を固めることを併せて行う。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 80% 卒論構想の内容 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習はもとより、積極的なゼミ参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。主に、CiNiiに掲載されている和文論文のリーディングを行う。必要に応じて、統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回：ゼミ生は、毎週、事前に読み込んだ論文をA4一枚に要約したものを提出する。その要約を教員が添削する。それとともに、論文に関連する統計的手法の理解に努める。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生は、夏休み期間中に最低10本の論文を集めて準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習Iの成果から出発して、自分で不思議に思ったことを自分で調べ、その結果と過程を他人にもわかる形式で伝えることをします。演習IIIで取り組むテーマ(卒論の仮テーマ)を見つけ出すことが目的です。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当教員と常に連絡を取れるようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究の参考文献の講読・発表と卒業研究の草稿の作成を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～7回 卒業研究の参考文献の発表
8回～15回 卒業研究の各担当部分の発表(引用の仕方、図表の作り方も学ぶ)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表に際しては、レジユメを必ず作成すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

テーマ：ソーシャルビジネス
 ソーシャルビジネスについて勉強します。社会問題を解決するためのしくみや、社会問題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、社会活動や地域活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習Iをふまえての課題発表会
- 2回 文献輪読とディスカッション
- 3回 文献輪読とディスカッション
- 4回 文献輪読とディスカッション
- 5回 文献輪読とディスカッション
- 6回 企業 / NPO 事例研究
- 7回 企業 / NPO 事例研究
- 8回 企業 / NPO 事例研究
- 9回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (各自のプラン模索)
- 10回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン模索)
- 11回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン策定)
- 12回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン発表)
- 13回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 14回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 15回 卒業研究に向けたテーマの発表とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別な準備は必要ありませんが、日頃から社会問題や経済問題に関心を持つことが重要です。新聞は必ず購読することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

演習II【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：伊藤元重著『ゼミナール 国際経済入門』（日本経済新聞社）
阿部・遠藤著『国際経済学』（有斐閣）
Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy
(邦訳：石井菜穂子他訳『国際経済：理論と政策』（新世社）)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関連文献をピックアップし、その都度資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回-12回 前期に続き、輪読形式で報告してもらう。
質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。
- 13回 研究テーマの設定、参考文献の調査
- 14回 研究発表会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 課題報告 40 % ディスカッションへの貢献 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習は、経済・産業（特に九州の経済・産業）について、その背景となる社会・文化・制度・慣習なども含めて、幅広い視点から考察できる能力を身につけることを目的としています。
「演習II」では、個々の興味関心に基づくテーマのプレゼンテーション（およびディスカッション）を中心に行い、さらに共通するテーマに沿った文献の輪読（数人が一つの本を順番に読んで解釈をし、問題点について論じ合うこと）を行います。また、北九州の産業遺産を探索するフィールド・ワーク、そしてフィールド・ワークに基づくプレゼンテーションも予定しています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～6回 毎回、報告者が自分の関心に基づくテーマに沿ったプレゼンを中心に演習を進めていきます。途中、経済史における分析手法やデータの扱い方等について適宜、指導を行います。
第7回～10回 輪読
第11回 フィールド・ワーク
第12回～15回 プレゼンテーション・ディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーションの内容、討論の積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンやディスカッションを中心とする授業ですから、積極的に学ぼうという姿勢を持って参加していただく必要があります。また、皆さんと密にコミュニケーションをとりつつ、皆さんとともにより実りあるゼミを作りたいと考えていますので、ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

社会経済史、産業史、九州の経済と産業、産業遺産

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このゼミでは財政問題を主に議論します。それを議論する際に経済学の考え方、特にマクロ理論をしっかりとマスターしておきましょう。これまでにミクロ経済学やマクロ経済学をまじめに勉強してきた人もあまりそうではなかった人もここでもう一度、王道（ベーシックな理論）をきちんと理解し定着しましょう。もちろんすべての内容は網羅できませんので家計や企業、金融部門の仕組みについてしっかりと理解し、閉鎖経済の長期的一般均衡モデルを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

『マクロ経済学』著者：二神孝一・堀敬一 出版社：有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回イントロダクション
- 2 回マクロ経済学の考え方
- 3 回家計の消費・貯蓄行動：最適化問題
- 4 回家計の消費・貯蓄行動：所得効果・代替効果
- 5 回企業の設備投資行動：設備投資の2期間モデル
- 6 回企業の設備投資行動：経済環境の変化と設備投資
- 7 回資産市場：企業の資金調達手段：家計の資産選択；無最低条件と資産価格の決定
- 8 回金利の基幹構造・名目利率と実質利率
- 9 回貨幣と銀行：貨幣の機能、流動性とは
- 10 回貨幣供給：貨幣供給量、マネタリーベース、貨幣乗数、信用創造
- 11 回公開市場操作、貨幣需要
- 12 回インフレーション、不良債権問題と信用創造をめぐる議論
- 13 回長期のマクロ経済モデル：財・サービス市場と資金市場の均衡メカニズム
- 14 回政府部門
- 15 回貨幣市場の均衡

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・報告... 50% 議論への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告や発表は義務となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

マクロ経済学の王道を理解しましょう。このゼミでは基礎から大学院へ進学したいと思う人にも対応できるような基礎固めをしていきます。頑張れば大きく視野が広がると私は思います。

キーワード /Keywords

財政、マクロ経済学

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習Iを受けて、引き続き日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーション、論文作成などの基本スキルについても深く学習する。

教科書 /Textbooks

授業の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 現代立地理論の習得
- 3回 現代立地理論の習得
- 4回 現代立地理論の習得
- 5回 現代立地理論の習得
- 6回 現代立地理論の習得
- 7回 現代立地理論の習得
- 8回 現代立地理論の習得
- 9回 現代立地理論の習得
- 10回 現代立地理論の応用
- 11回 現代立地理論の応用
- 12回 現代立地理論の応用
- 13回 現代立地理論の応用
- 14回 現代立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習II【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習Iと同様，労働者の働き方，企業の雇用政策，労働に関する諸問題，労働政策などを中心に考察する。各自の関心にもとづき研究テーマを設定し，卒業研究に向けて必要な知識・技術を身につける。

教科書 /Textbooks

事前には指定しない。最初の演習で輪読する書籍を決めた上で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるため，特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (演習内容の説明，輪読・発表の割当など)
- 第2回～第15回 学生による輪読・発表
- * 第1回イントロダクションで輪読する書籍や課題を学生との話し合いで決める。
- * グループワークを行うことがある。
- * 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関心のあるトピックについての書籍を読んでおくこと。
労働経済学の基本を学ぶため，経済特殊講義B (担当：畔津) を同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習IIIでは、演習IIで各自が選択した研究テーマをもとに卒業論文を作成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。また、卒業後の進路についても、ゼミを通じてしっかり考えてもらうために、自己分析、希望する進路について検討します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～12回 研究テーマの設定作業と経過報告
- 13～15回 研究中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告するためにしっかり時間をかけて準備をして下さい。そのためには、文献、資料を集め、しっかりと読み、論点を整理してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成の1つである卒業論文の準備を行うことにより、ゼロから自分の考えをまとめ人に伝えていく術を身につけることを目標とします。また、ケース・スタディを通じて論理的思考法や議論の組み立て方を学習する。

教科書 /Textbooks

伊丹敬之『経営戦略の論理 - 第4版』日本経済新聞出版社(2012年9月)
伊丹敬之『ケースブック 経営戦略の論理 - 全面改訂版』日本経済新聞出版社(2012年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識に合わせて適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業論文のテーマの検討
- 4回 卒業論文の企画について(プレゼンテーション)
- 5回～10回 ケース・スタディ
- 11回～14回 卒業論文に係る参考文献についての報告
- 15回 卒業論文の構想案と今後の計画について(プレゼンテーション)

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50 % 卒業論文の構想案 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業論文のテーマを決定するために、また卒業論文を完成させるために、自らの問題意識に従って参考文献を探索や、新聞・雑誌・インターネットから情報収集を日常的に実施して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にむけ、文献を読み、資料を収集する。

教科書 /Textbooks

各自で研究内容にあった文献を収集する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 既存文献についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究内容を報告する準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習はミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難な状況になっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社
- ・ 林 紘一郎『ネットワーキング情報社会の経済学』NTT出版
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 受講者はそれぞれ、興味のあるミクロ経済現象・問題を見つけ、研究テーマについて報告し、議論を行う。なお、本演習では、最終的に、受講生各自のゼミ論文の基本的テーマを決定する。

- 1回 イントロダクション：演習の目的、計画など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習IV案内
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておく、本演習の成果をより大きなものにする。
常に現実のミクロ経済に興味をもつこと。
ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告に関しては、徹底的な準備を要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

インプットからアウトプットを得るトレーニングを行う。課題の文献を読み、自分の考えを文章にして表現することによって自らの考えを整理してもらいたい。
また、あわせて卒業論文のテーマを確定してもらおう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
必要に応じて卒業論文のテーマについて話し合う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他人の意見を参考にして、自らの考えを作り上げてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks
教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method
平素の成績 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
報告用レジユメを用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習IIIで決めたテーマ(卒論の仮テーマ)について調査・研究します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまで履修した授業や日常生活で疑問を見つけた上で参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、執筆。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の授業から細心の注意を払うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

3年次に続き、ソーシャルビジネスについて学びます。とりわけ、新たなソーシャルビジネスの創出や、地域における社会活動とビジネスのつながりについて、具体的に北九州を舞台に考えていきます。教室以外での実習やフィールドワークなども実施する予定です。また、各自の卒業研究について報告およびディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒業研究の方法と課題
- 3回 卒業研究テーマ報告会
- 4回 文献輪読とディスカッション
- 5回 文献輪読とディスカッション
- 6回 文献輪読とディスカッション
- 7回 ケーススタディから学ぶ(調査)
- 8回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 9回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 10回 ケーススタディから学ぶ(ビジネスモデルの抽出)
- 11回 卒業研究中間報告
- 12回 卒業研究中間報告
- 13回 卒業研究中間報告
- 14回 卒業研究中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別な準備は必要ありませんが、3年次の演習で学んだことを自分の問題関心に当てはめて考える習慣を付けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

演習III 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究論文の執筆に向けて、関連文献の輪読を通じて理解を深め、研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回-1 4回 参考文献の調査、卒論進捗状況報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず事前に予習と準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーションの能力も深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習III 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、演習I・IIで学んだ事をもとにして、卒業研究に着手する。自らの関心に基づき、自らのやるべき研究を設定し、研究のための下調べ、綿密な研究計画が完了することを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション(演習の進め方についての打ち合わせ)
第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業研究テーマについて十分考えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

演習Ⅳでは、演習Ⅲにつづき、各自が定めたテーマを卒業論文としてまとめます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～13回 卒論の中間報告
- 14～15回 卒論の発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、卒業論文に対する取り組み状況および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業論文完成に向け、多くの文献、資料を集め、しっかり読んで、問題点、論点を明確にして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成の1つである卒業論文を完成させます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。(各自の問題意識が多様なため)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

卒論テーマに沿って個人別に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業論文の中間報告(プレゼンテーション)
- 4回～12回 卒業論文に係る参考文献やヒアリング調査等についての報告
- 13回～15回 卒業論文の修正・完成

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本ゼミについては、2万字程度の卒業論文の完成を目指しますので、日頃から文章力の向上や図表による表現力の向上に努めることを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒論提出後にゼミOBなどを招いて報告会を実施します。卒業まで気を抜かないように。

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

各自で卒業論文作成に必要な文献を収集しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業論文の報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業論文の報告を出来るように準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習はミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総合的に把握することはますます困難な状況になっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社
- ・ 林 紘一郎『ネットワーク情報社会の経済学』NTT出版
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高める。具体的に、受講者は、演習Ⅲに続いて、それぞれ興味のあるミクロ経済現象・問題の中から、各自研究テーマを決定し、報告・議論を通じて研究を深める。なお、本演習では、最終的に、各自研究テーマについてゼミ論文をまとめ、提出する。

- 1回 インTRODクシヨN: 演習の目的、計画など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習(Ⅰ~Ⅳ)再考
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。
現実のミクロ経済に興味をもつこと。
ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 4年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 進捗報告
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告に関しては、徹底的な準備を要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

半分は、学生時代の総決算として比較的「堅い」文献の輪読という伝統的なゼミを行う。「じっくり深く読み込む」ために、これまでの学習成果を総動員してもらいたい。
残りの半分は、卒業論文の中間報告会を行う。自分の考えを文章にして表現することは自分自身と向い合う上で最も効果的な方法の一つである、ということを確認してもらいたい

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定、卒業論文のテーマと進捗状況の確認
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
卒業論文の中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ある意味、大学生活の総括であることを自覚してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks
使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method
卒業論文 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
報告用レジユメを用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒論を完成させます。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回卒論内容の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまで履修した授業や日常生活で疑問を見つけた上で参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、発展。パワーポイントによる発表会を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表に際してはレジユメを必ず作成することともに、パワーポイントで時間内に発表できるように、体裁・発言内容などを準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
各自の問題関心に沿って、卒業研究を作成します。中間報告とディスカッションを重ねながら、各人の研究をベースにした相互学習を図ります。

教科書 /Textbooks
使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
使用しない。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 夏休みの課題発表会
 - 2回 卒業論文中間報告
 - 3回 卒業論文中間報告
 - 4回 卒業論文中間報告
 - 5回 卒業論文中間報告
 - 6回 ケーススタディの研究と報告
 - 7回 ケーススタディの研究と報告
 - 8回 ケーススタディの研究と報告
 - 9回 ケーススタディの研究と報告
 - 10回 卒業論文中間報告
 - 11回 卒業論文中間報告
 - 12回 卒業論文中間報告
 - 13回 卒業論文中間報告
 - 14回 報告準備および予備作業
 - 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method
授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
特別な準備は必要ありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業研究論文の執筆に向けて、関連文献の輪読を通じて理解を深め、研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究の進捗状況を確認する
- 2回－14回 卒業研究報告または論文指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず事前に予習と準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼンカ、ディスカッションコミュニケーションの能力も深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Ⅲを履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習Ⅳ【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、卒業研究を完成させることである。演習Ⅲにおける下調べ、研究計画に基づき、調査、分析、論文執筆作業を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション(演習の進め方についての打ち合わせ)
第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組みおよび発表 100%
原則として無断欠席をした学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習Ⅲに引き続き、卒業研究を進めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDP】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長のメカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性(1) 【45度線モデルの復習】
- 3回 財政政策の有効性(2) 【均衡予算乗数】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 財政政策の有効性(3) 【消費・貯蓄決定の合理的選択理論】
- 5回 財政政策の有効性(4) 【リカードの中立命題】
- 6回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 7回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利率】
- 8回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 9回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 12回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長の基礎理論(2) 【新古典派成長理論】
- 14回 経済成長の基礎理論(3) 【収束】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 友紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業では、経済学を学ぶ上で必要な基本的な数学について説明する。基本的な数学の知識を身につけ、経済学を理解できるようになり、経済学の基本的な問題を解けるようになることを目的とする。授業では、数学の説明だけでなく、練習問題を解く演習も行う。経済学で出てくる基本的な計算問題をグラフを用いながら解けるようになることが重要である。さらに、応用問題も解くことができるようになり、経済学をより理解できるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『経済学と数学がイッキにわかる!!』(石川秀樹著) Gakken (学習研究社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 数式アレルギーを癒すPartI【展開、因数分解】
- 3回 数式アレルギーを癒すPartII【関数、指数】
- 4回 経済学はグラフが命【1次関数、グラフの読み方】
- 5回 経済学はグラフが命【1次関数をグラフで表現】
- 6回 売上げを式で表現してみよう【2次関数、平方完成】
- 7回 売上げを式で表現してみよう【利潤最大化】
- 8回 生産量と費用の関係を式で考えよう【3次関数、総費用関数】
- 9回 利潤や効用の最大値を求めよう【1変数関数、微分の計算】
- 10回 利潤や効用の最大値を求めよう【限界概念、最大化】
- 11回 利潤や効用の最大値を求めよう【極大と極小】
- 12回 変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方【多変数関数、偏微分の計算】
- 13回 変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方【限界概念】
- 14回 変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方【多変数関数の最大化、クールノー均衡】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)・・・40%
期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今まで学習してきた数学と重なる部分もありますが、いかにして経済学的思考に結びつくのか説明し演習を行いますので新たな気持ちで臨んでください。

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 友紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業では、経済学を学ぶ上で必要な基本的な数学について説明する。基本的な数学の知識を身につけ、経済学を理解できるようになることを目的とする。また、数学の説明だけでなく練習問題を解く演習も行う。経済学で出てくる基本的な計算問題をグラフを用いながら解けるようになることが重要である。

教科書 /Textbooks

『経済学と数学がイッキにわかる!!』(石川秀樹著) Gakken (学習研究社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 数式アレルギーを癒すPartI【分数、絶対値】
- 3回 数式アレルギーを癒すPartI【展開、因数分解】
- 4回 数式アレルギーを癒すPartII【関数】
- 5回 数式アレルギーを癒すPartII【指数】
- 6回 経済学はグラフが命【1次関数、グラフの読み方】
- 7回 経済学はグラフが命【1次関数をグラフで表現】
- 8回 売上げを式で表現してみよう【2次関数、平方完成】
- 9回 売上げを式で表現してみよう【利潤最大化】
- 10回 生産量と費用の関係を式で考えよう【3次関数、総費用関数】
- 11回 利潤や効用の最大値を求めよう【1変数関数、微分の計算】
- 12回 利潤や効用の最大値を求めよう【限界概念、最大化】
- 13回 変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方【多変数関数、偏微分の計算】
- 14回 変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方【限界概念】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)・・・40%
期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今まで学習してきた数学と重なる部分もありますが、いかにして経済学的思考に結びつくのか説明し演習を行いますので新たな気持ちで臨んでください。

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論(改訂版)』(税務経理協会)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』(税務経理協会)、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』(税務経理協会)、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』(TAC出版)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算(その1)【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算(その1)【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしなが、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしなが、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に、平易に解説していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本経済のトレンド(1)【高度成長への準備】【経済改革】【ドッジライン】
- 2回 日本経済のトレンド(2)【高度成長】【重厚長大産業】【エネルギー革命】
- 3回 日本経済のトレンド(3)【安定成長】【ニクソンショック】【オイルショック】【バブル経済】
- 4回 日本経済のトレンド(4)【構造改革】【IT革命】【グローバリゼーション】
- 5回 日本経済のトレンド(5)【アジア展開】【リーマンショック】【中国市場】
- 6回 まとめと復習
- 7回 日本企業の国際競争力(1)【鉄鋼業】【寡占間競争】
- 8回 日本企業の国際競争力(2)【自動車クラスター】【トヨタイズム】【ジャストインタイム】【企業系列】
- 9回 日本企業の国際競争力(3)【東アジア市場】【電機産業】【産業空洞化】
- 10回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】【世界最適調達】
- 11回 まとめと復習
- 12回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】
- 13回 規制緩和と企業制度改革【日本型企業システム】【構造改革】【持ち株会社】
- 14回 日本経済の転換【世界最適調達】【カンパニー制】【ICT】【フラット化】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題と期末試験を重視して評価する。

課題 ... 10% 学期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞等で、授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる経済記事を、よく読んでおくとう理解がしやすくなる。現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の動向を、時系列的に整理するよう努めてください。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバリゼーション、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重 (2011) 『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

- 1回 日本的システムの形成と崩壊・変容 【メインバンク・システム】【系列】
- 2回 日本的システムの形成と崩壊・変容 【安定株主】
- 3回 少子高齢化に立ち向かう日本 【平均寿命】
- 4回 少子高齢化に立ち向かう日本 【年金・医療制度】
- 5回 財政赤字と政府債務 【基礎的財政収支】
- 6回 財政赤字と政府債務 【デフォルト】【マネタイゼーション】
- 7回 新たなグローバル化の波 【WTO】【FTA】
- 8回 新たなグローバル化の波 【直接投資】【TPP】
- 9回 再生可能エネルギーの経済学 【固定価格買い取り制度】
- 10回 再生可能エネルギーの経済学 【インセンティブ】
- 11回 量的・質的緩和とデフレ克服 【インフレーション・ターゲティング】
- 12回 量的・質的緩和とデフレ克服 【出口戦略】
- 13回 新しい日本経済のあり方とは 【リーマンショック】
- 14回 新しい日本経済の在り方とは 【所得格差】【法人実効税率】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学I【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一端を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

また、これらを真似して、表計算ソフトを使った分析や結果の視覚化をなるべく多く経験していただきます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回講義概要
- 2回表計算ソフトの練習：情報の収集
- 3回表計算ソフトの練習：情報の整理
- 4回表計算ソフトの練習：分析
- 5回表計算ソフトの練習：視覚化
- 6回因果関係をよく考える
- 7回情報の構造を利用する
- 8回万能薬はただ飲めばよいのではない
- 9回量であるものと量でないもの
- 10回好ましい実験
- 11回社会現象と実験
- 12回高齢化は医療費増大の原因か 1：概要
- 13回高齢化は医療費増大の原因か 2：老人医療費
- 14回高齢化は医療費増大の原因か 3：終末期医療
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学II 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

また、簡単な分析を最初から最後まで自分でできるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹田聡, 『Excelによる経済データ分析』, 東京図書, 2001。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要と表計算ソフトの操作
- 2回 検定
- 3回 回帰分析 2 : 実践
- 4回 検定
- 5回 操作変数法
- 6回 データベース
- 7回 パネルデータ
- 8回 標本選別
- 9回 品質と多肢選択 1 : 問題
- 10回 品質と多肢選択 2 : 分析法
- 11回 品質と多肢選択 3 : 実践
- 12回 公営病院への財政援助 1 : 概要
- 13回 公営病院への財政援助 2 : 公平性
- 14回 公営病院への財政援助 3 : 効率性
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近代の経済史は、一面において国際関係史であり、19世紀以降、急速にグローバル化した国際市場に、日本が包摂され統合化していくプロセスでした。また市場のグローバル化は列強間における新たな市場と資源の獲得競争を惹起し、そのことが既存の国際関係の再編も促していくこととなります。

本講義は、このような国際的な力学に注目して近代の経済史を考察することで、国際的な視座から自国の経済について理解を深められる授業としたいと考えています。特にここでは、「産業革命」以降に見られた市場のグローバル化が、日本の政治・経済構造に及ぼした影響に焦点を当て、主に18世紀末から19世紀の歴史を論じます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション - 「歴史」を学ぶということ -
- 2回 1、「産業革命」と市場のグローバル化
 - ① 「革命」の発端 - イギリスにおける繊維産業の発展 -
- 3回 ② 「革命」の波及 - 市場のグローバル化とアジア・オセアニア -
- 4回 2、同時代 (= 江戸時代) の日本経済
 - ① 庄政・貧困の歴史像を超えて - 幕末・明治期に来日した外国人の「日本滞在記」に見る江戸時代の経済生活 -
- 5回 ② もう一つの「革命」 - インダストリアル・レボリューションとインダストリアス・レボリューション -
- 6回 3、「開国」 - 世界経済システムとの接合 -
 - ① 東アジアを巡る攻防 - ベリー来航の歴史的意義 -
- 7回 ② 何故日本は植民地化を免れたのか - 「開国」後の経済実態に見る日本社会のファンダメンタル -
- 8回 4、明治維新の経済史的意義
 - ① 明治維新の財源 - 明治政府のふところ事情 -
- 9回 ② 「究極の規制緩和」としての明治維新
- 10回 5、西洋文明の移植 - 「資本主義」と近代国家形成 -
 - ① 「殖産興業」の本質 - 「黒船」を造った侍たち -
- 11回 ② 「起業家」の創出 - 戦争・癒着・財閥化 -
- 12回 6、金融システムの確立
 - ① 「緊縮財政派」と「積極財政派」 - 「国立銀行」の設立を巡って -
- 13回 ② 「信用ある」通貨の創出 - 「松方財政」の展開 -
- 14回 7、「企業勃興」と日本の「産業革命」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業とともに「日本経済史II」を履修すれば、本講義に対する理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について「考える」社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに「考える」意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 産業革命 明治維新 近代国家 資本主義化

日本経済史II 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

18世紀から20世紀にかけて起こった経済のグローバル化は、列強間における新たな市場と資源の獲得競争を引き起こし、そのことが国際関係の再編も促していくこととなります。明治維新を経てアジア唯一の近代国家に脱皮した日本もまた、こうした潮流に翻弄されながら、その主体として世界の表舞台に乗り出していくこととなります。

本講義はこうした日本経済を取り巻く国際的な環境の変化に注目し、近代の日本経済史を、国内的な視点のみからではなく、国際的な視点から客観的に理解することを目標としています。

なお本講義は、20世紀以降、植民地化の危機を脱した日本が、独自の市場と資源を求め、海外へ進出していくプロセスを論じる予定で、それ以前の時期を対象とする「日本経済史I」に時代的にも内容的にも接続する関係にあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション - 「戦争の世紀」としての20世紀 -
- 2回 1、アジアをめぐる攻防 - 日清・日露戦争 -
 - ① 大陸進出の端緒 - 何故、日本は戦争を選んだのか? -
- 3回 ② 戦争と経済 - 戦費調達から見る日清・日露戦争 -
- 4回 ③ 国際金融市場と「ユダヤ資本」
- 5回 2、「帝国」の拡大と植民地経営 - 早すぎた「帝国化」がもたらしたもの -
- 6回 3、好況と恐慌
 - ① 新時代の戦争と「大戦バブル」
- 7回 ② 「バブル」崩壊と「ロストジェネレーション」
- 8回 ③ ライオン宰相と「痛みを伴う改革」
- 9回 4、資源を巡る争い
 - ① アメリカにおける石油産業の発展
- 10回 ② 日本のエネルギー産業
- 11回 ③ 日本の南方進出と太平洋戦争
- 12回 5、「圓の戦争」
 - ① 人と物の動員
- 13回 ② 戦費捻出のカラクリ
- 14回 「戦前」と「戦後」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「日本経済史II」はあくまで独立した講義ですが、講義の趣旨をより深く理解し、日本経済史に対する国際的視野を養うために、「日本経済史I」もあらかじめ受講しておくことを推奨します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について「考える」社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに「考える」意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 日清・日露戦争 戦争と経済 帝国化

プログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 中山 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータ（パソコン）をより高度に利用するためには、コンピュータが処理すべき問題を分析して適切に手順化しコンピュータに与える、プログラミングという作業が必要となる。授業ではJavaScriptというプログラミング言語の基礎を学び、実際に動作するプログラムを作りながら、プログラミングの基本的な考え方や技術を学んでいく。さらに、より応用的な課題を設定し、それらを解決するために必要なプログラミングの知識について、演習を通じて習得する。

教科書 /Textbooks

大津 真: 3ステップでしっかり学ぶ JavaScript入門、技術評論社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて随時指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コンピュータとプログラミングの基礎
2. HTMLとJavaScriptの基礎
3. 変数と演算
4. 分岐処理(1)【二分岐, 条件式】
5. 分岐処理(2)【多分岐】
6. 繰り返し処理(1)【回数指定の繰り返し】
7. 繰り返し処理(2)【一般的な繰り返し】
8. 関数定義とプログラムの構造化
9. オブジェクトの操作
10. 配列の利用
11. Webブラウザのオブジェクト操作
12. プログラミング応用(1)【ミニゲーム】
13. プログラミング応用(2)【簡易なデータ処理】
14. プログラミング応用(3)【対話的Webページ】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストの成績を70%、演習、提出課題など平常の学習状況を30%として評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

大学のパソコン (Windows) の基本操作に習熟しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 川脇 慎也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、18世紀から20世紀初頭の「経済学の歴史」を、経済全体の「幸福（厚生）」に焦点をあてて学びます。産業革命以降、資本主義経済が展開・発展するにつれて、人々の間には「経済的な格差」が生じてきました。経済学者たちは、経済全体の「幸福（厚生）」を増加させるためにはどうすればよいと考えたのか、その思想と理論を学びます。経済全体の「幸福（厚生）」を増加させるための処方箋は、経済学者によって異なります。これは、経済学者によって「社会経済」についての理解が異なるからに他なりません。彼らが直面した課題には、「自由貿易」と「保護貿易」のどちらを推進するのかといった問題や、「累進課税」と「比例課税」のどちらが望ましいのかという問題がありました。言うまでもなく、これらの問題は今なお論争を巻き起こしています。これらは一例にすぎませんが、彼らが直面し解決しようとした問題は、現代社会の問題にも通じるものがあります。だからこそ、当代随一と言われる経済学者たちの理論や思想は、今なお、光を放ち続けているのです。この授業の目的は、下の授業計画・内容に挙げた著名な経済学者たちの「経済理論」と「経済思想」について学ぶことによって、様々な角度から「社会経済」を見る眼を養い、多様化する「経済問題」について考える力をつけることにあります。

教科書 /Textbooks

小峰敦『福祉の経済思想家たち【増補改訂版】』ナカニシヤ出版・2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大田一廣・高哲男・鈴木信雄・八木紀一郎編『経済思想史—社会認識の諸類型』名古屋大学出版会・2006年。
井上義朗編『コア・テキスト経済学史』（ライブラリ経済学コア・テキスト&最先端8）・2004年。
高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会・2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「重商主義」の時代 【貧困と救済】
- 第3回 スミス 【文明社会における労働貧民の境遇】
- 第4回 マルサス 【救貧法批判と農工依存主義】
- 第5回 リカードウ 【進歩的社会と労働者の状態】
- 第6回 ジェレミー・ベンサム 【安全で幸福な社会の構想】
- 第7回 J. S. ミル 【社会の漸進的改良】
- 第8回 小括 【経済学の成立と貧困の発見】
- 第9回 シジウィック 【アートとしての経済学】
- 第10回 ジェヴォンズ 【功利主義的社会改革思想①】
- 第11回 エッジワース 【功利主義的社会改革思想②】
- 第12回 バジヨット 【民主主義と世論】
- 第13回 ワルラス 【完全自由競争と社会主義】
- 第14回 マーシャル 【労働者階級の向上】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：50% 小テスト：30% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学史Ⅱでは、20世紀以降に活躍した思想家を取り上げます。経済学史を「通史」で学びたい学生には、経済学史ⅠとⅡをセットで受講することをお勧めします。（もちろん、どちらか一方のみを受講しても問題ありません。）
講義ではテキストと合わせて、毎回参考資料を配布します。

キーワード /Keywords

経済学史II【昼】

担当者名 川脇 慎也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、19世紀末から20世紀以降の「経済学の歴史」を、経済全体の「幸福（厚生）」に焦点をあてて学びます。19世紀後半頃から、資本主義経済社会を不況が襲うようになります。その結果、「働きたくても職がない」という人々が増加してきます。このように、19世紀末から20世紀以降に生じた「幸福（厚生）」をめぐる問題は、もはや個人で対応できるレベルではなくなります。その結果として、経済全体の「幸福（厚生）」を増進させる責任を国家が積極的に請け負う「福祉国家」の概念が登場します。しかし、国家が積極的に福祉政策を行うためには、それを賄うために莫大な財源を必要とするなど、解決すべき問題は山積みでした。経済学者たちは、「資本主義の欠陥」を克服し、経済全体の「幸福（厚生）」を増加させるためにはどうすればよいと考えたのか、その思想と理論を学びます。この授業の目的は、下の授業計画・内容に挙げた著名な経済学者たちの「経済理論」と「経済思想」について学ぶことによって、様々な角度から「社会経済」を見る眼を養い、多様化する「経済問題」について考える力をつけることにあります。

教科書 /Textbooks

小峰敦編『福祉の経済思想家たち（増補改訂版）』ナカニシヤ出版。2010年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大田一廣・高哲男・鈴木信雄・八木紀一郎編『経済思想史—社会認識の諸類型』名古屋大学出版会。2006年。
井上義朗編『コア・テキスト経済学史』（ライブラリ経済学コア・テキスト&最先端8）。2004年。
高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会。2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ビグー 【厚生】の経済学】
- 第3回 ホブソン 【異端の経済思想】
- 第4回 ウェップ夫妻 【「国民的効率」とナショナル・ミニマム】
- 第5回 ヴェブレンとコモンス 【制度学派と良き社会論】
- 第6回 ケインズ 【マクロ経済学の確立】
- 第7回 ベヴァリッジ 【福祉国家の合意】
- 第8回 小括 【福祉国家の模索・その誕生】
- 第9回 シュンペーター 【不況の企業家精神】
- 第10回 ポランニー 【社会の自己防衛から福祉国家の哲学へ】
- 第11回 ミュルダール 【北欧福祉国家と福祉世界】
- 第12回 ハイエク 【福祉国家と自由社会】
- 第13回 フリードマン 【"福祉国家アメリカ"の批判者】
- 第14回 エスピ＝アンデルセン 【福祉国家の正当化と類型化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：50% 小テスト：30% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学史Iでは、18世紀から20世紀初頭に活躍した思想家を取り上げます。
経済学史を「通史」で学びたい学生には、経済学史IとIIをセットで受講することをお勧めします。
(もちろん、どちらか一方のみを受講しても問題ありません。)

キーワード /Keywords

業界研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小田 浩史 / Hiroshi Oda / 北方キャンパス 非常勤講師, 土山 勇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

2016年卒業予定で、就職活動を控える3年生対象の授業です。

今年度（2016年卒）から就職活動のスケジュールが大きく変わることはご存知かと思えます。皆さんの就職活動は後期から本格的に動き出すと思えますが、前期の段階で、今の大学生活から、自分の将来を考え、具体的な将来の職業を考える。そのためのキャリアプランニングをすること。そして、プランニングしたことに関して、最終的に実行していただくことを目的とした授業をいたします。

- 「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか。
- 北九大で何をやるのか。
- 北九大生として何を意識するのか。
- 北九大生として何を考え、どう動くのか 等々、

これらのことが将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動」を喚起することを目標といたします。

その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報を学びます。

また、更なるステップアップ『実践の場』として用意されている「業界研究II（インターンシップ）」の準備講座の役割を持っています。

教科書 /Textbooks

テキスト：マイナビ2015オフィシャル就活BOOK
内定獲得のメソッド 「自己分析」 適職へ導く書き込み式ワークシート
岡茂信 著、1,365円（定価）

その他、授業の中で適宜プリントを配布いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

就職情報サイト 「マイナビ」 など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス（オリエンテーション）
- 2回 今年度から大きく変わる『就職活動スケジュール』について
- 3回 社会を知る（社会の仕組みや「会社・企業」の存在意義）
- 4回 自分を知る（自己理解の必要性）基礎編
- 5回 自分を知る（自己理解の必要性）実践編
- 6回 自分と社会との接点（職業興味の発見）
- 7回 業界研究（研究の方法と調べ方）
- 8回 先輩（OB・OG）から社会の話をお聴く
- 9回 業界研究（課題研究・中間報告）
- 10回 業界研究・トピックス（履修者希望の業界を取り上げる①）
- 11回 業界研究・トピックス（履修者希望の業界を取り上げる②）
- 12回 業界研究（将来像を描くための情報収集・働く意味を見つける）
- 13回 現状把握（現役人事担当者から意見とアドバイスを聴く）
- 14回 インターンシップの現状・今後求められる活動
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（出席点） 40%
授業内での小レポート提出（計7回） 35%
最終授業での課題発表・提出 25%
※記入量と内容で評価。欠席、未提出は点数はありません。
※15分以上の遅刻者には、その日の出席点はありません。

業界研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持って臨む姿勢を希望いたします。

また、この講義は「就職テクニック」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。

自らの将来に期待、希望、不安、危機を感じ、何か動かなければならない。と、感じている学生の参加をお待ちしております。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究II【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は学生諸君が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものである。この講義のねらいは、(1)就業体験を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、(2)大学での学習体験を現場で活かし、学問上の学習意欲を高めるとともに、実践的な知識をも習得すること、(3)職業意識を涵養し、進路選択に資すること、(4)就業体験を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上4点である。

昨今、本学に限らず就職活動を取り巻く状況は厳しくなっている。就職活動を成功させるため、あるいはそれだけでなく、やりがいをも見い出せる仕事に就くためには、大学生時代から実際の仕事に触れることが必須である。ぜひともインターンシップの機会を活かして、各自の将来のキャリア展望を明るくものにしていただきたい。

ちなみに、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意されたい。詳細については、「業界研究IIに関するインターンシップ実施要領」を参照すること（「業界研究I」において「業界研究II」の履修に関して説明が行われる予定であるので、注意して説明を聞くこと）。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

インターンシップへ行く前に、自身のキャリアについて考えておくことが望ましいので、さしあたりキャリア関連の入門書として下記を挙げておく。

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習(7月下旬から8月上旬実施、全回の受講が必須)

第5回～12回 インターンシップによる実践的活動(8月～9月)

第13回～15回 活動報告と事後評価(9月下旬に実施、全回の受講が必須)

成績評価の方法 /Assessment Method

就業受け入れ企業(ないし団体・組織)の評価と、学生が提出するインターンシップ報告書、および報告会の発表内容により総合的に評価する。なお、インターンシップ報告書は研修後、1週間以内に提出しなければならない。報告会の報告内容については、経済学部インターンシップ運営委員会が評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となる。なお、インターンシップ実施要領を参照すること。
- (2) 本科目の関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教養科目の「キャリアデザイン論」などが参考になるはずである。
- (3) 本科目は1学期の時点からいくつかの申込が開始されるので、締め切り日には注意すること。また、本科目の履修のためには諸書類を提出してもらう必要がある。例年、この書類不備のために残念ながら履修不可になってしまう学生が後を絶たないので、細心の注意を払ってほしい。申込プロセスやスケジュールについては「業界研究I」のなかで説明する予定である。
- (4) 単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前学習と事後報告会(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)のすべてに出席しなければならない。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は履修申請をしておきながら、事前学習や事後報告会を無断で欠席する学生が散見された。そもそもそのような学生は社会に出る資格はないといえよう。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むこと。

そして、インターンシップに行くからには、社会人としての自覚と基本的素養を今から持ってほしい。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Getting to know people
- 2 回 Brands; Outsourcing
- 3 回 Discussing Promotions; Taking Part in Meetings; Case Study
- 4 回 Business Travel: Needs and Problems
- 5 回 Making Arrangements on the Phone; Case Study
- 6 回 Company Structure; Successful Organisation
- 7 回 Socializing and Networking; Case Study
- 8 回 Change: Managing and Describing
- 9 回 Taking Part in Meetings 2; Case Study
- 10 回 Money; Financial Terms; Raising Capital
- 11 回 Reporting Success; Describing Trends; Case Study
- 12 回 Advertising Media and Methods; Achieving Success; Planning Ad Campaigns
- 13 回 Presentations; Case Study
- 14 回 Cultural Awareness and Advice
- 15 回 Advice, Obligation and Necessity; Case Study

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous week.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Challenge your English. Challenge yourself.

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Presentations
- 9 回 Workplace
- 1 0 回 Describing Location and Direction
- 1 1 回 Money; Business Costs
- 1 2 回 Orders and Invoices
- 1 3 回 Projects: how to succeed
- 1 4 回 Project Analysis
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30% Assignments 40% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Presentations
- 9 回 Workplace
- 1 0 回 Describing Location and Direction
- 1 1 回 Money; Business Costs
- 1 2 回 Orders and Invoices
- 1 3 回 Projects: how to succeed
- 1 4 回 Project Analysis
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30% Assignments 40% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。その第一歩としては、ビジネスレターの書き方から始める。
ねらいとしては、基礎的なビジネスレターを理解でき、声を出して読めることを目指します。また、基礎的な英語力の底上げをするために、資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル」】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、海外貿易とはなじみがないものです。最初に二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語が特殊に見えるからです。習うより慣れるで、慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Employment: Recruiting, Retaining, and Headhunting
- 2 回Managing Meetings; Case Study
- 3 回Free Trade; Fair Trade
- 4 回Working Conditions; Negotiating; Case Study
- 5 回Quality Control; Quality Management
- 6 回Making and Dealing with Complaints; Case Study
- 7 回Ethics; Responsible Business
- 8 回Problem Solving; Case Study
- 9 回Describing Character; Leadership Qualities
- 1 0 回Decision Making; Case Study
- 1 1 回Describing Innovations
- 1 2 回Presentation Techniques; Case Study
- 1 3 回Competitive Edge; Staying Competitive
- 1 4 回Being Diplomatic; Case Study
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous week.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Challenge your English. Challenge yourself.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - review of first semester
- 2 回 Explaining Problems
- 3 回 Describing Solutions
- 4 回 Product Description
- 5 回 Unusual Markets
- 6 回 Presentations
- 7 回 Discussing Competitors
- 8 回 SWOT
- 9 回 Market Share
- 1 0 回 Presentations
- 1 1 回 Discussing Careers
- 1 2 回 Job Interviews
- 1 3 回 Ideas - generating ideas
- 1 4 回 Suggestions and Advice
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30% Assignments 40% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from the previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - review of first semester
- 2 回 Explaining Problems
- 3 回 Describing Solutions
- 4 回 Product Description
- 5 回 Unusual Markets
- 6 回 Presentations
- 7 回 Discussing Competitors
- 8 回 SWOT
- 9 回 Market Share
- 1 0 回 Presentations
- 1 1 回 Discussing Careers
- 1 2 回 Job Interviews
- 1 3 回 Ideas - generating ideas
- 1 4 回 Suggestions and Advice
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30% Assignments 40% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from the previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が急速に進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を維持し、高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。
まず最初は、ビジネスレターの構成を理解して、次に貿易のそれぞれの場に応じて、どのようなやり取りが行われるか (= 貿易実務) を学びます。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

二学期から履修する人には、最初の二ヶ月ほどはとても難しく見えます。それは、貿易の場特有の英語表現が、これまで習ってきた英語とは異なるからです。習うより慣れるです。その部分に慣れれば、直ぐに楽になります。

キーワード /Keywords

外書講読【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発音の周波数域一つ取ってみても、英語と日本語は全く異なった言語と言えます。ですから、日本でだけ暮らしている人には、英語はたいへん聞き取りにくく感じられます。逆の経験として、私は、アメリカに住んでいたときに不意に日本語で話しかけられ、全然聞き取れなかったことがありました。

そんな英語の文章を、日本人が読めるようにするにはどうすればいいんでしょう？私は、カタカナ発音と学校文法からどれだけ脱却できるかだと思います。その過程で、辞書をできるだけ引かず、書いてある内容を漠然とでも理解しながら適度なスピードで読み進む練習がとても重要になります。

授業では、順番に経済に関する英文を音読をしながら、日本語で内容を解説します。また、アメリカ経済に関する必要な知識を説明して、随時確認してもらいます。

教科書 /Textbooks

The Economist の記事 (こちらで用意します。)

The Economist は1843年9月にロンドンで発行が開始された世界的な経済雑誌です。世界中に事務所を構え、多くのビジネスマンや学者をファンに持ちます。記事の内容も世界のあらゆる経済事情に渡りますが、アメリカの事情を中心に毎回最新号の記事を読み解いていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な書籍があれば授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The Economist を読む (1)
2. The Economist を読む (2)
3. The Economist を読む (3)
4. The Economist を読む (4)
5. The Economist を読む (5)
6. The Economist を読む (6)
7. The Economist を読む (7)
8. The Economist を読む (8)
9. The Economist を読む (9)
10. The Economist を読む (10)
11. The Economist を読む (11)
12. The Economist を読む (12)
13. The Economist を読む (13)
14. The Economist を読む (14)
15. The Economist を読む (15)

たとえば、日本のニュースでも株価、為替レートなどがよく出てきますが、あなたはそれらを英語で言えますか。正解はそれぞれ、stock price, foreign exchange rate です。日本のニュースでよく聞く経済用語も英語では意外と言えないものですよ。

授業ではアメリカ企業の現状やアメリカ人の余暇の過ごし方など、産業や企業、消費生活についてのタイムリーな記事を取り上げ、参加意識を持ちながら楽しく読解に取り組みます。知らず知らずのうちに英文読解力を身に付けることができます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度合で100%評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この授業では、英文読解のコツを伝授したいと思います。経済学者による英文講読の授業で、英語を読む勉強と経済知識の獲得と、一挙両得を目論みませんか？英語は得意だがもっと読解に強くなりたい人にも、昔から英語に苦手意識のある人にも、面白く、ためになる授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気楽な気持ちで受講してください。英語力とビジネス・センスがアップします。

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

The Economist アメリカ経済 消費生活 英語力 ビジネス・センス 発音 読解

金融論I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象だけでなく、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。
もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dixit, Skeath, and Reiley, Games of Strategy (Third Edition), W. W. Norton & Company, 2009.
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2回 戦略形【利得表と均衡概念】
- 3回 戦略形【支配戦略と均衡概念と応用】
- 4回 戦略形【逐次削除均衡と応用】
- 5回 戦略形【ナッシュ均衡と応用】
- 6回 戦略形【数量競争と価格競争】
- 7回 展開形【時間構造】
- 8回 展開形【後方帰納法】
- 9回 展開形【サブゲーム完全ナッシュ均衡と応用】
- 10回 展開形と戦略形の融合
- 11回 応用：【コミットメント】
- 12回 応用：【脅し・約束】
- 13回 応用：【戦略的投票】
- 14回 応用：【戦略的操作性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. 2000. Introduction to Industrial Organization. MIT Press.
Dixit, Skeath, and Reiley. 2009. Games of Strategy. W. W. Norton & Company.
Peter Davis and Eliana Garces. 2010. Quantitative Techniques for Competition and Antitrust Analysis. Princeton Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2回 取引ゲーム 【基本モデル】
- 3回 取引ゲーム 【余剰分析】
- 4回 取引ゲーム 【コア、余剰】
- 5回 独占【余剰分析】
- 6回 独占【自然独占】
- 7回 独占【価格差別】
- 8回 寡占【余剰分析】
- 9回 寡占【カルテルの不安定性】
- 10回 寡占【無限繰り返しゲームとカルテルの安定性】
- 11回 寡占【極限定理】と市場構造のまとめ
- 12回 独占禁止法教室 【公正取引委員会】
- 13回 入札
- 14回 入札談合
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

産業組織論・ミクロ経済学・統計学の知識を前提とする。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになるだろう。

<本講義の到達目標>

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基本理論」を身につける。
 2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
 3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。
- * 日本経済新聞を読めるようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支
外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放
対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際経済論は、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（趨勢）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、1学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）：世界経済の不均衡問題…… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）：資本輸出国日本…… 【経常収支の黒字】 【資本輸出】 【対外投資】
【資本収支の赤字】 【債権大国：日本】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」…… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷…… 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第7回 外国為替取引と為替レート…… 【円建て】 【ドル建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度…… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度…… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅰ）…… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅱ）…… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果…… 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】 【為替変動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析…… 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動…… 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 …… 80%
- (2) 日常の授業への取り組み…… 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)日本経済新聞を読むようになって下さい。

キーワード /Keywords

経常収支 資本収支 外貨準備高 総需要と総供給 マクロ均衡と不均衡 輸出超過 輸入超過 内需・外需
国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート 市場レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会
FB・政府短期証券 平価 為替介入 不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策
財政政策 金融政策 国際資本移動

ファイナンス論【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。到達目標は以下のようになります。①現在価値分析を理解して、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式などの金融資産の価値を計算できるようになる、②ポートフォリオ理論におけるリスクとリターンの概念を理解して計算ができるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 講義に関連する日本経済新聞の記事
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券【単利】【複利】
- 6回 株式【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 ポートフォリオ理論【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM(資本資産評価モデル)【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM(資本資産評価モデル)【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業に毎回出席して、内容を100%理解するように努めてください。
授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 公的部門 (政府、地方自治体、公的企業) の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社 (1998) ○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社 (2005) ○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』(第2版) 東洋経済新報社 (2005) ○
スティグリッツ『公共経済学』(上・下) (第2版) (2003) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習(1)【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習(2)【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学的視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・薮田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : 環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか?(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか?(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
 ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。
 経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、海外進出先に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先選択において偏りが見られることを紹介していきたい。その際、行動経済学を利用するので、行動経済学の紹介を行なう。

ゲーム理論も紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良くもしいが、算数に対して苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】【極小確率事象】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク【SARS】
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

直接投資の説明に、行動経済学を利用するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

専門用語が多く出てくるので、インターネットで用語検索する習慣を身につけることを奨励する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることとする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】【先物】【オプション】【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】【ブルーデンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索する習慣を身につけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウエーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域経済およびそれを取り巻く環境が大きく変化していることを理解するために、国と地域のあり方、それぞれの政策などについて解説する。この講義ではとくに基礎的な理論、考え方に焦点を当てていく。そしてそうした動きが我々の日常生活とどのように関係しているのかを考えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済の変化と地域(講義の概要)
- 2回 地域経済の構成【企業立地】、【家計】、【社会資本】
- 3回 地域問題の発生メカニズム【地域間格差】、【ナショナルミニマム】
- 4回 九州地域の産業構造と経済【食糧基地】、【分工場経済】
- 5回 北九州市の産業構造と経済【基礎素材産業】、【公害問題】、【環境政策】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 地方分権の動向(1)・・・権限委譲【地方自治】、【権限委譲】、【規制緩和】
- 8回 地方分権の動き(2)・・・大都市制度【政令指定都市】、【中核市】、【特例市】
- 9回 地方分権の動き(2)・・・税源委譲【三位一体の改革】、【地方交付税】、【補助金】
- 10回 地域再生計画【地域再生】、【特区】
- 11回 7～10回の復習とまとめ
- 12回 市町村合併(1)・・・歴史と背景【合併特例法】、【生活圏と行政圏】
- 13回 市町村合併(2)・・・効果と課題【行財政改革】、【合併特例債】
- 14回 道州制の動向【道州制】、【連邦制】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域問題、地方分権、市町村合併

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 都市計画【まちづくり3法】、【商業集積】
- 3回 中心市街地活性化【中心市街地】、【集客戦略】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マスツーリズム】、【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】、【グリーンツーリズム】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【公害問題】、【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】、【クラスター】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】、【知識と情報】
- 11回 7~10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響と地域経済(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響と地域経済(2)【中山間地域】、【限界集落】
- 14回 人口減少の影響と地域経済(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少

北九州経済分析I【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前半は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、都市としての北九州市の変容過程を説明する。また、北九州市で展開されている地域開発、具体的には響灘開発、北九州学術研究都市、東田開発を具体的に解説する。さらには、昨今の市民セクターの台頭を考慮しながらソーシャルビジネスの実態についても具体的に言及する。

後半は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業の仕組み、産業・業態・企業の盛衰やダイナミズムについて検討します。

よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』(2010年10月)
- 九州経済調査協会編『図説 九州経済2014』(2013年10月)
- 北村亘『政令指定都市』(2013年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 政令指定都市としての北九州市【人口動向】、【少子・高齢化】、【政令指定都市】
- 5回 成熟化する北九州市の今後【成熟化】、【NPO】、【協同】、【指定管理者制度】
- 6回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 7回 響灘開発とエコタウン事業【傾斜生産方式】、【地域産業】、【企業誘致】、【跡地利用】
- 8回 東田開発とICT産業・エネルギー産業【IT】、【クラウド】、【データセンター】、【スマートグリッド】
- 9回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 10回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 11回 地域企業の盛衰【老舗企業】、【企業の寿命】、【倒産】、【企業再生】
- 12回 FCビジネスと外食産業【店舗展開】、【FCビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 13回 地域における小売業I【デパート】、【スーパー】、【業態変化】
- 14回 地域における小売業II【コンビニ】、【通信販売】、【ドラッグストア】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、成熟社会、協働、地域企業、グループ経営、業態変化、ICT

北九州経済分析II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を卒業して、活躍している経営者や地域のキーパーソンをゲストスピーカーとして招いて、実践的に地域企業の経営戦略、マーケティング戦略、新規事業戦略、海外戦略、組織のマネジメント、ガバナンス、さらには地域振興等について学びます。各ゲストスピーカーの事例を考察し、グローバル化の進展やICTの進化など経済社会の変化への対応について検討します。とりわけ、グローバル化の動向については地域企業や地域の自治体の実態を踏まえて深く検討を加えます。よって、受講生には北九州地域と縁の深い企業や組織の存在をしっかりと認識するとともに、今後のグローバル化の進展が地域や地域の企業・組織にどのような影響を与えるかを自分なりに検討して欲しい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』西日本新聞社（2010年10月）
- P．F．ドラッカー『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社（2001年12月）
- 遠藤功『経営戦略の教科書』光文社新書（2011年7月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】、【地域振興】
 - 2回 北九州の鉄鋼業の変遷と企業集積【鉄鋼業】、【多角化】、【新規事業創出】
 - 3回 《事例研究1》鉄鋼業を支える中堅企業の経営戦略【中小企業】、【海外戦略】、【技術開発】
 - 4回 地域企業の海外進出の動向【海外進出】、【グローバル化】
 - 5回 《事例研究2》地域中堅企業のグローバル戦略【輸出】、【海外展開】、【グローバル化】、【技術開発】
 - 6回 地域中小・中堅企業のイノベーション戦略【鉄鋼業】、【多角化】、【新規事業創出】、【イノベーション】
 - 7回 《事例研究3》ベンチャー企業のビジネス・アイデア【ベンチャー】、【ビジネスアイデア】、【イノベーション】
 - 8回 地域のベンチャー企業の動向【ベンチャー】、【ビジネスアイデア】、【イノベーション】
 - 9回 《事例研究4》起業のために必要なことは？【起業】、【ベンチャー】、【ビジネスアイデア】
 - 10回 サービス化の進展とニッチ・ビジネス【サービス経済】、【ニッチ・ビジネス】、【起業】
 - 11回 《事例研究5》戦略的提携と起業【起業】、【戦略的提携】、【グローバル化】、【中国ビジネス】
 - 12回 地域における外資の動向【外資系企業】、【対内投資】、【企業買収】、【M&A】
 - 13回 《事例研究6》地域振興とグローバル化【グローバル化】、【地方自治体】、【プラットフォーム戦略】
 - 14回 地方自治体のグローバル戦略【グローバル化】、【地方自治体】、【外国人観光客】
 - 15回 まとめ～グローバル化の進展とマネジメント【グローバル化】、【マネジメント】、【リーダーシップ】
- *3回目、5回目、7回目、9回目、11回目、13回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 60 % 試験 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。また、P．F．ドラッカーの理論などに知見を持っていることを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）のOBの方をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップについて意識して聞いてください。

キーワード /Keywords

地域企業、新事業創出、ビジネスアイデア、グローバル戦略、経営戦略、リーダーシップ、マネジメント

都市財政I【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

飛田博史 『財政の自治』 公人社 2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著 『ローカルガバナンスと現代行財政』 ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.中間試験
- 8.地方財政計画
- 9.財政調整制度
- 10.三位一体改革
- 11.地域主権戦略
- 12.夕張市財政破綻の教訓
- 13.自治体財政分析
- 14.財政の自治を考える
- 15.都市財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、教科書、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政II【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、地方財政の構造と地方税のあり方を明らかにした上で、地方財政の主な歳出である公共事業、教育、社会保障について説明する。中でも、地方自治体における福祉財源の問題について解説します。地方自治体の財源問題は、住民にとって生涯にわたり日常生活で関わる福祉サービスのあり方に影響を与え、サービス内容やサービス負担額を理解することの重要性は高まっている。特にサービスの負担は、①税、②社会保険料、③自己負担により行われ、家計に対する影響も大きいといえる。第3に、福祉サービスと就労問題についても触れる。本講義での知識や考え方は、国および地方公務員の役割や地方で住民サービスに視点をおくビジネスを展開していく企業の役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

難波利光・田中裕美子『(仮)社会保障制度と労働 - 財政問題と将来の課題 -』2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂本忠次・住居広士編著『介護保険の経済と財政 - 新時代の介護保険のあり方』劉草書房 2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 地方財政の諸問題
2. 地方財政の構造
3. 地方財政と税制
4. 地方財政と地域経済
5. 地方財政と公共事業
6. 地方財政と教育
7. 地方財政と労働市場
8. 中間試験
9. 社会保障制度と地方財政
10. 介護保険制度と地方財政
11. 医療保険制度と地方財政
12. 児童・保育制度と地方財政
13. 障害者関連制度と地方財政
14. 生活保護制度と地方財政
15. 都市財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50% 期末試験 50%
試験は、教科書、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域であり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の国々の経済の概観し、その特徴を深く理解することである。二つにはこれから日本と東アジアの経済関係がどのようなものであるべきかを考える契機とすることである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジアの主要な国の経済の概要と特徴を探ることとする。個々の国の特徴についてより深い理解が得られるように、歴史的社会的事情や開発経済学の理論などの解説を適宜行う。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。最後に、日本と東アジアとの経済関係について取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文眞堂
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、世界の中の東アジア
- 2回 韓国経済
- 3回 台湾経済、韓国と台湾の比較
- 4回 開発独裁、アジアNIEsの工業化戦略
- 5回 香港、シンガポールの経済
- 6回 東アジアの物流事情
- 7回 タイ、マレーシアの経済
- 8回 国際人口移動、華人ネットワーク
- 9回 中国経済
- 10回 アジア通貨危機
- 11回 通貨危機後の対策と構造改革
- 12回 東アジアにおける地域協力
- 13回 地域協力に対する日本の対応
- 14回 日本と東アジアとの経済関係のあり方(1)
- 15回 日本と東アジアとの経済関係のあり方(2)、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するようにしてください。また、経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業化戦略、通貨危機、地域協力

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

金融危機以降雇用面で問題を抱えてきたアメリカですが、緩やかに回復の傾向が見られます。また、アメリカの中央銀行であるフェッドでは、イエレン議長へとその金融面での舵取りが引き継がれました。長く続いた金融緩和を縮小することが決まっているなか、今年のアメリカ経済は日本経済とともに目の離せないものになるでしょう。

他方、アメリカは貧富の格差や財政赤字などの構造的な問題も抱えています。こうした問題にオバマ大統領がどのように対処していけるかも重要な論点です。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

経済学の前提となる知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小野亮・安井明彦『やっぱりアメリカ経済を学びなさい - 世界経済はアメリカを中心に動く』東洋経済新報社、2013年6月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめ、自分の感想・見解と一緒に2000字程度で作成します。

レポートの提出期限・提出方法、試験範囲は随時授業で連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 QE3 オバマケア 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくこと。
- (2) 教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
- (3) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくこと。
- (2) 教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
- (3) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができるでしょう。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ』(有斐閣)の最新版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法とは、民法には何が書いてあるか、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】他、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100 % (詳細は6月中に掲示する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法(最新版)は必ず持参して下さい。有斐閣の『ポケット六法』が最も信頼でき、お勧め。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
 井上正仁・能見善久編『ポケット六法 平成26年版』(有斐閣・2013年)
 ※ 基本的にレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書:○)
 ※ このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か(1)【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か(2)【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か(3)【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法(1)【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法(2)【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法(3)【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法(1)【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法(2)【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法(1)【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法(2)【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況(進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある)(全体の30%)
 2. 講義全体の内容についての期末テスト(全体の70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
 ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
 ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
 - 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
 - 10回 問題解決のためのモデル(その4)【ディジョンテーブル】
 - 11回 モデル化の演習
 - 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
 - 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、「経営学入門」で学習した内容をさらに発展させ、会社(企業)の基本的な仕組みだけでなく、企業経営に関するトピックも取り上げることで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えたいと思っています。

教科書 /Textbooks

入山章栄, 『世界の経営学者はいま何を考えているのか』, 英治出版, 2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

荒井一博, 『ファンダメンタル ミクロ経済学』, 中央経済社, 2008年。
 伊藤秀史, 『ひたすら読むエコノミクス』, 有斐閣, 2012年。
 乙政正太, 『財務諸表分析』, 同文館出版, 2009年。
 掛谷英紀, 『学問とは何か』, 大学教育出版, 2005年。
 G.キング・R.O.コヘイン・S.ヴァーバ, 『社会科学のリサーチ・デザイン - 定性的研究における科学的推論』, 勁草書房, 2004年。
 榎原清則, 『経営学入門 [上]』(第2版), 日本経済新聞社, 2013年。
 榎原清則, 『経営学入門 [下]』(第2版), 日本経済新聞社, 2013年。
 竹内薫, 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』, 光文社新書, 2006年。
 角田康夫, 『新版行動ファイナンス』, 金融財政事情研究会, 2011年。
 戸田山和久, 『科学的思考のレッスン - 学校で教えてくれないサイエンス』, NHK出版, 2011年。
 古川浩一・蜂谷豊彦・中里宗敬・今井潤一, 『コーポレート・ファイナンスの考え方』, 中央経済社, 2013年。
 H.E.ブレイディ・D.コリアー, 『社会科学の方法論争 - 多様な分析道具と共通の基準』, 勁草書房, 2008年。
 森博嗣, 『科学的とはどういう意味か』, 幻冬舎, 2011年。
 (その他の参考書は講義で紹介します)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的と意義, 成績評価の方法】
- 第2回 経営学と企業論【学問・経営学・企業論・コーポレート・ガバナンス】
- 第3回 社会科学としての経営学【経営学・社会科学】
- 第4回 経営学の研究方法①【理論分析・実証分析】
- 第5回 経営学の研究方法②【経済学ディシプリン・認知心理学ディシプリン・社会学ディシプリン】
- 第6回 経営学の研究方法③【経営戦略論, 帰帰分析】
- 第7回 起業家とベンチャー・ビジネス①【アントレプレナー, 株式会社, 合同会社, 合名会社, 合資会社】
- 第8回 起業家とベンチャー・ビジネス②【シリコンバレー, ITベンチャー】
- 第9回 企業経営とM&A【株式会社, M&A, TOB, コーポレート・ガバナンス】
- 第10回 企業会計と財務諸表①【財務諸表, 粉飾決算, コーポレート・ガバナンス】
- 第11回 企業会計と財務諸表②【公認会計士, 会計監査, コーポレート・ガバナンス】
- 第12回 企業経営のトピック①【ダイバーシティ, CSR, コーポレート・ガバナンス】
- 第13回 企業経営のトピック②【ダイバーシティ, コーポレート・ガバナンス】
- 第14回 証券市場と行動ファイナンス【伝統的ファイナンス理論, 行動ファイナンス理論, 効率的市場仮説 (EMH)】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%, レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで、「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中(または履修済み)であることが望ましい。
 毎回、講義資料(「虫食いレジメ」とパワーポイント)を使用します。講義資料は学習支援フォルダにアップしているので、毎回ダウンロード & プリントアウトしていただくこと(経済学部→松本守→企業論基礎→講義資料)。また、テキスト(講義)で取り上げられている論文(英語論文)も学習支援フォルダにアップしていますが、これはプリントアウトしていただく必要はありません(あくまでも参考のためにアップしているだけです、興味のある人はダウンロードして読んでみてください)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドロッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

年金や医療について関心をもっておいってください。
私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

戦後の経済成長に伴い都市化が急速に進行し、大都市へ人口が流入してきた。それにより、都市の問題が生じてきている。本講義では、都市における問題による地方における問題を都市化の経緯と共に現代の問題を説明する。

講義の内容は、大きく2つに分かれる。前半は都市経済の理論的説明、後半は理論を基にして具体的な都市政策を説明した後に実践例を取り上げる。本講義は、都市における問題を捉えると共に地方都市と大都市との関係性についても述べるため、マクロ、ミクロ、メゾな目線から都市問題を説明する。

本講義を受講することにより、行政による都市政策を理解することができ、民間における不動産および住宅産業や観光産業の今後の在り方についても触れるため、公務員志望者やデベロッパ関連企業志望者には特に考える機会が与えられると考えている。

教科書 /Textbooks

中村良平『まちづくり構造改革 - 地域経済構造をデザインする』日本加除出版株式会社 2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金本良嗣『都市経済学』東邦経済新報社 1997年
林宜嗣『都市問題の経済学』日本経済新聞社 1993年
西山八重子編『分断社会と都市ガバナンス』日本経済評論社 2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 都市経済とは何か
3. まちづくりの経済原則
4. いま、まちの経済は？
5. まちの経済構造、どこが問題
6. まちの経済の成り立ちは？
7. まちの経済のどこを見る？
8. 中間試験
9. 実践例 観光資源による都市（函館市・いわき市）
10. 実践例 歴史活用による都市（高梁市・真庭市）
11. 実践例 再生エネルギー事業による都市（瀬戸内市・真庭市）
12. 実践例 福祉事業による都市（柏市）
13. 実践例 大型店進出による中心市街地への影響（岡山市）
14. 実践例 観光地と商店街による中心市街地（下関市）
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50% 期末試験 50%
試験は、テキスト、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義 (資料を使った説明、およびノート取り) で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料 (パワーポイント資料) は配布しません。どこまで細かくメモするかによりますが、ノートを取る量は多いです。それぞれの理解度にもよりますが、しっかりとした習得には日頃の予習、復習が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は少し高めです。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

データベース【昼】

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。そこでマーケティングI(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
林田実「サイコロを振って、統計学!」創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・・50% テスト・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングII(後期)では、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスベクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・ 50% テスト・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

前半：使用しない。

後半：清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座.『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版.

TAC簿記検定講座.『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L&CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」=「利益」+「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第3講、第9講～第14講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。
TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第 3 講 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 テキスト第 9 講 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算③【積数】
- 11回 テキスト第 13 講 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 テキスト第 13 講 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 テキスト第 13 講 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 テキスト第 14 講 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...67% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「原価計算論I」を履修済みであることが望ましい。

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし
『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計 【売上原価】
- 9回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定 【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産について【資産概念の変化について】
- 13回 負債について【負債概念の変化について】
- 14回 純資産について【企業会計原則】【企業会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科, 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに主眼をおきたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 有価証券取引【売買・評価】
- 2回 固定資産取引【減価償却】
- 3回 引当金取引【貸倒引当金】
- 4回 手形【裏書と割引】
- 5回 社債【満期償還と買入償還】
- 6回 本支店会計【内部取引】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）【日商簿記検定試験2級（第138回）】
- 8回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第138回）】
- 9回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第137回）】
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第137回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第136回）】
- 12回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第136回）】
- 13回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第135回）】
- 14回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第135回）】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業において用いられる簿記であり、商業簿記と対比して論じられます。すなわち、材料を購入して加工し、製品化するまでの製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記とは大きく異なっています。
工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していきます。したがって、工業簿記を理解するためには、原価計算の仕組みを理解するとともに、これと簿記システムとの関連を把握することが重要です。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、理解をより確実なものとすることができます。

教科書 /Textbooks

伊藤博 小林哲夫 『最新 工業簿記(三訂版)』 実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
11. 等級別総合原価計算
12. 組別総合原価計算
13. 工程別総合原価計算と減損
14. 標準原価計算
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常の授業への取り組み(20%)、課題の提出状況(30%)を目安として、到達目標に掲げた項目について、十分に理解しているかどうか評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

商業簿記の基礎を理解しておいてください。

電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

社会福祉原論 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①【措置制度と契約制度】
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②【介護保険法】
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③【障害者総合支援法】
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価【当事者参加】
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際開発援助の視点から途上国が抱える諸課題について学習します。まずは、政府開発援助の仕組みとその役割、国際開発援助レジームの発展についての専門的知識を学びます。次に、個別の 이슈ごとどのような取り組みが行われているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

○勝間靖編『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際開発援助の歴史的発展 1 (1960年代～1970年代)
- 第2回 国際開発援助の歴史的発展 2 (1980年代～現在)
- 第3回 国際開発援助レジームの発展と限界
- 第4回 日本のODAの仕組みと働き
- 第5回 日本のODAの理念と問題点
- 第6回 貧困問題を捉える視点
- 第7回 貧困の克服に向けた取り組み
- 第8回 飢餓と食糧安全保障
- 第9回 健康問題と感染症
- 第10回 途上国における教育問題
- 第11回 途上国におけるジェンダーの問題
- 第12回 国際開発における国連の役割
- 第13回 国際開発におけるNGOの役割
- 第14回 援助を超える議論 - BOP、CSR -
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際協力機構(JICA)や経済開発協力機構(OECD)のホームページを日頃から参照しておくこと、本講義の内容が理解しやすくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

篠田英朗『平和構築入門』ちくま新書、2013年。
○月村太郎『民族紛争』岩波新書、2013年。
○リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン - 紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
- 第3回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
- 第4回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
- 第5回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
- 第6回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第7回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
- 第8回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 P K Oの変容と限界
- 第10回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第11回 平和構築アプローチ
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①
- 第14回 Do No Harm原則②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。
JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』(2009年)をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』(東洋経済新報社、2012年)。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』(岩波書店、2008年)

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は?
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・解決策を考える
- 9回 循環型社会(1)・・・リサイクルは環境に優しいのか?
- 10回 循環型社会(2)・・・ペットボトルのリサイクル
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。

本年度は授業内容(循環型社会の回数等)を変更する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集团的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人々が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 労働契約関係の成立
- 3回 労働条件決定の法的仕組み
- 4回 労働時間規制
- 5回 休暇、休日、休業
- 6回 健康と安全
- 7回 懲戒処分
- 8回 人事異動
- 9回 労働条件の変更
- 10回 労働契約の終了
- 11回 期間の意義と定年制
- 12回 労働者派遣の法規制
- 13回 雇用差別禁止法
- 14回 企業組織の変動と労働関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書は必ず購入して下さい。労使関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して授業に持参するようにして下さい。労使関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集团的労働関係法に焦点を当てます。集团的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人々が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集团的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集团的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法の意義と目的
- 2回 労働組合の歴史と機能
- 3回 団体交渉の仕組みとその主体
- 4回 団体交渉の目的と態様
- 5回 争議行為
- 6回 組合活動
- 7回 労働協約
- 8回 不当労働行為制度（1）【不利益取扱いと支配介入】
- 9回 不当労働行為制度（2）【制度の趣旨とその主体】
- 10回 労働組合による労働者の統制
- 11回 労働組合の衰退と合同労組
- 12回 公共部門の労使関係法
- 13回 従業員代表制度
- 14回 労使関係法の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書は必ず購入して下さい。雇用関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して講義に持参するようにして下さい。雇用関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、①現代政治に至るまでの国家と社会の変化、②構築されてきた制度、③制度の設計・維持に関わる人々（議員や市民）、④地方・国・国際等の異なるレベルの政治の関係を扱います。本講義を通じて、受講生が政治学の基礎的な概念を理解し、政治に対する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2 - 3枚）を配布します。
テキストについては講義の初回に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	政治とは何か？	【権力】【権威】【正統性】
第3回	国家と社会①	【市民革命】【議会主義】【大衆社会】
第4回	国家と社会②	【行政国家】【福祉国家】
第5回	民主主義と自由主義	【民主主義】【自由主義】【自由民主主義】
第6回	政治制度①	【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第7回	政治制度②	【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】
第8回	政治制度③	【一院制】【二院制】
第9回	制度の視点	【集権】【分権】【制度補完性】
第10回	デモクラシーと代表①	【代表性】【政党】
第11回	デモクラシーと代表②	【政党システム】【二大政党制】【多党制】
第12回	デモクラシーと代表③	【政治参加】【政治的社会化】
第13回	地方自治	【団体自治】【住民自治】【ガバナンス】
第14回	国際政治	【グローバル化】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（70%）、講義への参加態度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われてはいますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・ エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * 中村尚司『人びとのアジア - 国際学の視座から』岩波新書、1994年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|---------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって | 【貧困概念】 |
| 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発 | 【アマルティア・セン】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】 |
| 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題 ～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴してしてください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りがないようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発（SD）

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

政治に関わる人々は、何を考え、どのように行動しているのだろうか。人々の行動を左右する制度や文化にはどのようなものがあるのだろうか。本講義では、政治制度、政治に参加する人々（有権者、マスメディア、政党、利益集団、官僚制、首相・大統領）への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2-3枚）を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参照した教科書、関連する内容を含んだ、より詳細な文献の案内を講義中に行います

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 - 』有斐閣、2009年。
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛児・真淵勝『政治学』有斐閣、2011年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 【政治システム】【権力】
- 第2回 民主政治の諸制度(1) 【デュベルジェの法則】【機械的效果】【心理的效果】
- 第3回 民主政治の諸制度(2) 【議会の機能】【変換型議会】【アリーナ型議会】
- 第4回 政治文化 【政治的社会化】【脱物質的価値観】
- 第5回 マスメディア 【疑似環境】【議題設定効果】【プライミング効果】
- 第6回 政治参加・投票行動(1) 【制度的参加】【非制度的参加】
- 第7回 政治参加・投票行動(2) 【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第8回 政治家・政党(1) 【大衆政党】【包括政党】【カルテル政党】
- 第9回 政治家・政党(2) 【ダウンズモデル】【連合理論】
- 第10回 利益集団(1) 【利益集団】【集合行為論】
- 第11回 利益集団(2) 【権力構造論】
- 第12回 官僚制 【政治行政二分論】【政治行政融合論】【逆機能】
- 第13回 政治システム 【利益表出機能】【利益集約機能】
- 第14回 首相・大統領 【リーダーシップ】【PM理論】
- 第15回 地方政治・ガバナンス 【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。そのため、日本政治への適用や日本の特徴については、「日本政治論」で詳しく講義します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題(課題)をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心を持ち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです(毎回、必ず持参してください)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度・順番が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう! 民法との関連を見よう! 条文に立ち返ろう!
- 第2回 民法に対する商法の特徴は?【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 企業活動と消費者(1)【普通取引約款の利用】
- 第4回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第5回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1)【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1)【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2)【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3)【表見支配人】【その他の商業使用人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関する科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといつてよい。本講義では、まず、こうした課題を①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティといった視点から分析・検討し、これから地方自治体が直面する(あるいは直面している)政策課題について、先進的取り組みを含め議論することにした。

次に、現代日本で進行中の地方分権改革の中で、地方自治体が「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているのか(あるいは担うことができるのか)といった問題について触れることにしたい。そして、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関としての位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうかといった問題を、政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材(レジュメおよびリーディング・テキスト)を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』(学芸出版社、2001年)
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』(学陽書房、2007年)
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』(農村漁村文化協会、2005年)
- 大野晃『限界集落と地域再生』(高知新聞社、2008年)
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』(エルダーサービス、2010年)
- 大西隆ほか『集落再生 - 「限界集落」のゆくえ』(ぎょうせい、2011年)
- 山下祐介『限界集落の真実 - 過疎の村は消えるのか?』(ちくま書房、2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想(青森市、富山市など)
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」条例
- 7回 限界集落(3)-限界集落の再生、「集落支援員制度」等の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化
- 10回 限界コミュニティとコミュニティ再生
- 11回 北九州市における超高齢コミュニティと対策
- 12回 北海道伊達市の移住政策
- 13回 フードデザート、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 14回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり(1)-市民参加と協働
- 15回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり(2)-コミュニティ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業には毎回必ず参加してください。授業に参加しなければはじまりません。

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民(買い物弱者)

地方行政改革論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

教科書 /Textbooks

真山達志編著『ローカルガバメント論—地方行政のルネサンス』ミネルヴァ書房、2012年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革：総論】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革：フラット化、人事評価】
- 6回 職員改革①【人材育成】【政策形成】
- 7回 職員改革②【ネットワークのマネジメント】
- 8回 公共サービスの質と民間化①【グレーゾーン】
- 9回 公共サービスの質と民間化②【民間移管】【サービスの質】
- 10回 行政と住民の関係改革①【地域自治組織】【自治体内分権】
- 11回 行政と住民の関係改革②【コミュニティ運営協議会】【行政の支援】
- 12回 府県関係改革①【都道府県と市町村】
- 13回 府県関係改革②【市町村と市町村】
- 14回 議会と行政【議会改革】
- 15回 議会と行政【議会の政策形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います(もちろん、2年生でも受講は可能です)。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。

キーワード /Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者自立支援法の改正（障害者総合支援法）や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめくっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。
ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 イントロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総論」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学特殊講義 A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）N T T 出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回イントロダクション：経済学の視点から見た労働 【労働】
- 第2回社会的分業と生産性 【分業の利益】 【規模の経済】
- 第3回労働市場という概念と機能（1） 【労働の取引】 【市場】
- 第4回労働市場という概念と機能（2） 【労働需要】 【労働供給】
- 第5回労働市場という概念と機能（3） 【市場メカニズム】
- 第6回労働市場という概念と機能（4） 【市場賃金】
- 第7回労働市場への介入の是非 【市場介入】
- 第8回失業問題（1） 【失業の定義】
- 第9回失業問題（2） 【最低賃金制】 【労働組合】
- 第10回失業問題（3） 【情報の非対称性】 【ミスマッチ】
- 第11回労働市場の内部化 【内部労働市場】
- 第12回日本の雇用システム（1） 【いろいろな雇用形態】
- 第13回日本の雇用システム（2） 【正社員と非正社員】
- 第14回日本の雇用システム（3） 【解雇法制】
- 第15回これまでの復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

復習を欠かさないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学特殊講義B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 情報と組織構造(1) 【情報伝達】【意思決定】
- 第2回 情報と組織構造(2) 【インセンティブ】【ストックオプション】
- 第3回 情報と組織構造(3) 【フォーティズム】【事業部制】
- 第4回 情報と組織構造(4) 【ジャストインタイム方式】
- 第5回 報酬とインセンティブ(1) 【管理職】
- 第6回 報酬とインセンティブ(2) 【チームインセンティブ】
- 第7回 教育・訓練(1) 【賃金格差】【人的資本】【シグナリング】
- 第8回 教育・訓練(2) 【教育需要】
- 第9回 教育・訓練(3) 【OJT】【Off-JT】
- 第10回 公的部門の労働市場(1) 【公共財】【官民給与】
- 第11回 公的部門の労働市場(2) 【ラスバイレス比較】
- 第12回 グローバル化と労働市場(1) 【外国人労働者】
- 第13回 グローバル化と労働市場(2) 【要素価格均等化】
- 第14回 データを活用した分析方法の紹介 【回帰分析】
- 第15回 若年労働者の労働事情 【若年労働市場】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

復習を欠かさないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie ，『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス(改訂版)』, 創成社(2009年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸, 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経済新聞社(2004年)
石野雄一, 『ざっくり分かるファイナンス』, 光文社(2007年)
大津広一, 『ファイナンスと事業数値化力』, 日本経済新聞社(2010年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回~3回 現在価値計算【現在価値(PV), 将来価値(FV), 安全利子率, リスクプレミアム, 投資信託】
- 4回~6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品, 利付債, 割引債, クーポン, 配当割引モデル(DDM), 企業価値, 株式価値, 負債価値】
- 7回~9回 資本コスト【資本コスト, 最低要求収益率, 安全資産, 加重平均資本コスト, ポートフォリオ, マーケット・ポートフォリオ, 資本資産評価モデル(CAPM), β (ベータ)】
- 10回~11回 投資決定の基礎理論【投資決定, 割引キャッシュフロー(DCF)法, 正味現在価値(NPV), 内部収益率(IRR), 回収期間法】
- 12回~14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果, MM理論, 裁定取引, 法人税, 倒産コスト, トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート(課題)・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

証券市場は、①、国・企業による長期安定資金の調達、②、金融資産運用の場、③、国民経済の適切な運営、という役割を期待されている。しかし、近年、刹那的なデイトレイド、ホリエモン騒動そしてグローバルに荒れ狂う投機マネーの台頭によってややもすれば一攫千金を夢見る場であるかのような傾向がある。しかし、証券市場は、上記三つの機能を担う重要な役割を期待されている。

講義では、次の文脈で展開していく。まず、証券市場(資本市場ともいわれる)の基本的存立構造を、公開株式会社と証券市場の関係から説明していく。公開株式会社とは、証券市場を使用する株式会社である。公開株式会社は、何故、証券市場を利用するのか。また、証券市場は、どのようにして、公開株式会の資金調達の要請に対応していくのか。こうした、公開株式会社と証券市場の関係というメダルの両面から展開していく。

1、ア、株式会社の基本的性格、イ、公開株式会社(と非公開株式会社)および会社法上の公開会社と非公開会社

2、証券市場(資本市場ともいわれる)の基本的存立構造

ア、引受業務・売買委託業務・自己売買、イ、商業銀行・証券会社・投資銀行

3、機関投資家と証券市場

ア、機関投資家の台頭

イ、機関投資家とコーポレートガバナンス

証券市場における機関投資家の台頭とともに、コーポレートガバナンス論議が盛んである。このコーポレートガバナンス論議に関わる機関投資家の行動について検討する。

3、M & Aと証券市場

1980年代以降のM & Aに関わっての証券市場の役割について検討していく。

教科書 /Textbooks

鈴木芳徳『わかりやすい証券市場論入門(新訂版)』白桃書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

会社四季報・新聞を用意したい。

参考文献として、鈴木芳徳『グローバル金融資本主義』白桃書房、2008年。

金子勝『閉塞経済～金融資本主義のゆくえ～』ちくま新書、2008年。

山田晴信『企業財務を学ぶ』金融財政事情研究会、2012年。

布井千博『会社法』新世社、2011年。

EDINET

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 証券市場のあらし。 【日本の証券市場】【上場銘柄】【証券会社】
- 2回 景気と株価。 【株式会社と証券市場】【株価形成】
- 3回 株式会社制度 【証券資本主義】【日本の会社】
- 4回 公開株式会社 【コーポレートガバナンス】【株主権】
- 5回 株式と社債 【株券の種類】【社債】【種類株式】
- 6回 コーポレートファイナンス 【自己資本と他人資本】【内部資金と外部資金】
- 7回 証券の流通 【発行市場と流通市場】【社会的資本】
- 8回 証券価格 【擬制資本】【資本還元】【貨幣の時間価値】【ケインズの美人投票】
- 9回 株価の決定要因と投資尺度 【投資尺度】【配当政策】
- 10回 株式指標 【日経平均株価】【東証株価指数】
- 11回 債権価格と債権投資 【債権の種類】【新株予約権付社債】
- 12回 証券会社と証券取引所 【証券業務】【証券取引所】
- 13回 投資家の変貌 【機関投資家】【貯蓄から投資?】
- 14回 グローバル金融資本主義 【投機】【金融不安定性】【恐慌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、小テスト...20%(この割合を、100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

証券市場論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

①、テキストを用意すること。②、レジюмеだけにしがみつかない。③、新聞を読むこと。④、会社四季報と友達になること。また、参考文献の鈴木芳徳（信用論研究者）と金子勝（異端の経済学者）の2冊は、金融資本主義という命名のもとにサブプライムローンを扱っている。こうした問題にも関心をもてるように講義を受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

株式会社と証券市場・株式会社における資本の二重性・証券価格・投資尺度・ガバナンスと証券市場・台頭する外国人株主・金融不安定性

国際経営 A 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際経営に関する基礎知識の取得と理解促進にウエイトを置く

以下3部分に分けて講義を進めていく

- ①基礎概念、ビジネス手法の紹介
- ②統計や財務資料の配布・解説
- ③多国籍企業の投資戦略に関するユニークな事例の紹介

受講生の理解度を確認しながら、難易度を調節できるように工夫していく
質疑は随時受付する

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯沢威他著 『国際競争力の経営史』有斐閣
吉原英樹編著 『国際経営論への招待』有斐閣ブックス
ジエトロ編 『世界貿易投資報告』(各年版)日本貿易振興機構(JETRO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の狙い、概要、段取りの説明
- 第2回 基礎概念の説明I: 「多国籍企業」、「経営国際化」【企業の国籍】【操作的定義】
- 第3回 基礎概念の説明II: 「直接投資」【対外・対内投資】、【間接投資】【国際収支ベース】
- 第4回 対外進出の主要手法 【単独投資】【合併】【M&A】【技術供与契約】
- 第5回 企業の多国籍化の誘因I【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【規制回避】II【PLC説】【資本余剰説】
- 第6回 多国籍企業誕生・成長の歴史【株式会社誕生起源説】【保護貿易】【FORTUNE誌】
- 第7回 多国籍企業の国際事業本部の機能と立地【RHQ】【地域統合】【外資政策】
- 第8回 多国籍企業の所有戦略I 【持ち分型】【完全所有】【共同所有】【非持ち分型】
- 第9回 多国籍企業の所有戦略II 【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第10回 事例紹介I: 日系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第11回 事例紹介II: 東アジア系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第12回 多国籍企業の租税戦略I【法人所得税率】【節税と脱税】
- 第13回 多国籍企業の租税戦略II【タックスヘイブン】
- 第14回 多国籍企業の租税戦略III【移転価格】【関連取引】
- 第15回 総合質疑

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 40%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

紹介資料、配布資料を熟読すること
積極的な発言や討論参加に対して部分点を与える。質疑応答時間中だけでなく、いつでも気軽に挙手して発言してください。

私語を慎んで下さい
遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営B 【昼】

担当者名
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国同士の企業経営システムの比較を中心に講義を進めていく。現地企業調査で得た一次資料を活用し、具体的な企業事例を織り交ぜながら、日本と中華地域との企業経営様式の異同を学ぶ。

教科書 /Textbooks

未定（改めて通知する予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会、2009年改訂版
末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会、2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 2回 比較アプローチの意義と課題
- 3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 4回 企業制度比較【企業統治】、【経営権市場】、【同族企業】
- 5回 経営システムの比較【内部特性】
- 6回 内部特性I：経営目標 【成長重視】、【利益重視】
- 7回 内部特性II：経営戦略 【多角化】、【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】
- 8回 内部特性III：経営組織 【公式化】、【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 9回 内部特性IV：管理特性 【業績評価】、【人材養成】、【情報伝達】
- 10回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 11回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】、【エクセレントカンパニー】
- 12回 事例紹介I【日本のケース】
- 13回 事例紹介II【中華圏のケースA】
- 14回 事例紹介III【中華圏のケースB】
- 15回 グローバル化と東アジア型企業経営

成績評価の方法 /Assessment Method

期中小テスト40%
期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストでよく予習・復習すること
配布資料を熟読すること

私語を慎んで下さい
遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質疑は随時受け付けるが、教員から質問された場合、自分の考えを述べられるように心構えをしてもらいたい。

キーワード /Keywords

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 3回 【AHP】の実習
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ
- 5回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ
- 6回 【PERT】の実習
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ
- 8回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ
- 9回 【経済性工学】の実習
- 10回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 11回 【線形計画法】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ
- 13回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ
- 14回 【待ち行列理論】の実習
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%，レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、企業によるイノベーションのマネジメントに関する基礎知識を取得することである。成熟化し、停滞する国内の経済環境において、企業が成長する上ではイノベーションを持続的に生み出すことができるシステム作りが重要となる。それゆえに、今日の企業経営者には、イノベーションの本質について深い理解が求められる。本講義では、企業経営者がイノベーションをマネジメントする上で必要な基礎的な概念と理論について学習し、それらを理解し応用できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一橋大学イノベーション研究センター[編]『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イノベーション・マネジメントとは何か?
- 第3回 イノベーションのプロセス
- 第4回 イノベーションのパターン(1)
- 第5回 イノベーションのパターン(2)
- 第6回 イノベーションと企業のパフォーマンス(1)
- 第7回 イノベーションと企業のパフォーマンス(2)
- 第8回 研究・技術開発のマネジメント(1)
- 第9回 研究・技術開発のマネジメント(2)
- 第10回 新製品開発のマネジメント(1)
- 第11回 新製品開発のマネジメント(2)
- 第12回 新製品開発のマネジメント(3)
- 第13回 イノベーションと企業間システム(1)
- 第14回 イノベーションと企業間システム(2)
- 第15回 まとめ

なお、受講生の興味、理解度に応じて、授業内容は変更される。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・60%、授業中のエクササイズ・小テスト(レポート)・発言・・・40%
詳細は、オリエンテーション時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営組織論、経営戦略論、マーケティングなどを履修していることが望ましい。
授業に関する準備や復習に十分な時間が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

企業が厳しい経営環境の中で競争に打ち勝っていくためには、絶えず「新事業」を企画していかなければなりません。また我々の働き方も変化し、これまでの会社という組織に属する、いわゆる会社員になるものから、自ら「ベンチャー企業」を興す人が増えてきました。そこで本講義では、これまで学習してきた経営学の基礎的科目（例：経営戦略、マーケティング、会計など）をもとに、事業計画「ビジネスプラン」の作成方法について学習します。実際にビジネスプランを作成し、優秀なビジネスプランについては、九州ニュービジネス協議会が主催する「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に応募したいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメやプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『MBA事業開発マネジメント』（グロービス経営大学院編著）ダイヤモンド社 2,940円
- 『MBAビジネスプラン』（グロービス経営大学院著）ダイヤモンド社 2,940円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネスプランの意義及び構成
- 3回 アイデアの抽出
- 4回 ビジョン・ミッション・経営理念
- 5回 ビジネスモデルと戦略【ビジネスモデル】
- 6回 ビジネスモデルと戦略【事業戦略】
- 7回 ビジネスモデルと戦略【マーケティング・オペレーション】
- 8回 ファイナンス【財務計画】
- 9回 ファイナンス【資金調達】
- 10回 マネジメントチームとリーダーシップ
- 11回 ビジネスプラン作成【演習①】
- 12回 ビジネスプラン作成【演習②】
- 13回 ビジネスプラン作成【演習③】
- 14回 ビジネスプラン発表①
- 15回 ビジネスプラン発表②、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネスプランの出来栄え…50%、 授業への取組み姿勢…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営戦略やマーケティング、会計など、経営学の基礎的科目を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスプランは一人もしくは二人で作成し、講義では意見交換を活発に行います。少数精鋭で行いたいと思いますので、やる気のある人を歓迎します。

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスは企業の在り方や経営者の正当性にかかわっているだけではなく、企業の活力や国際競争力を規定する戦略的要因になっている。この授業は日本企業のガバナンスの現状と課題を明らかにし、今後の改革の方向を検討することを目的としている。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コーポレート・ガバナンスとは何か
- 2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 3回 企業主権論
- 4回 ガバナンス方法論
- 5回 アメリカの内部監督システム
- 6回 ドイツの内部監督システム
- 7回 日本の内部監督システム
- 8回 内部コントロールの国際比較
- 9回 外部コントロールの方法
- 10回 ステークホルダー・アプローチ
- 11回 経営者の育成と適切な選択
- 12回 日本のガバナンス不在の事例研究
- 13回 日本の監査役設置会社の事例研究
- 14回 日本の委員会設置会社の事例研究
- 15回 まとめー日本のガバナンス改革の方向

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポート等)30%、 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自学自習に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2013年版中小企業白書」佐伯印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・・50% 期末レポート・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は、住民の権利義務、住民と地方自治体との関係、地方自治体の議会と執行機関の組織と権限などに関する地方自治法上の法制度の理論と現実の姿を学び、地方自治体においては、国の政治の仕組みと違って、より住民の意見や要望が地方自治体の政策の決定に生かされ得る民主主義的なプロセスが保障されていることが理解できるようになることです。したがって、この授業は、地方自治制度に関する基本的知識の修得を中心としつつ、各テーマに関する具体的な事例や裁判例を素材に、地方自治の現実の姿(制度の運用実態と問題点)に対する理解を深め、地方自治法上の法制度に関する基本的知識を修得するだけでなく、地方分権時代における地方自治はいかにあるべきか、現実の地方自治が抱える諸問題をどのように解決していくべきかを、学生諸君(=これからの地方自治の主人公である住民)が考えて、自分自身の意見を主張することができるようになることまで目指したいと思います。なお、公務員試験や国家資格試験の受験を考えている諸君も多く、それらの試験には地方自治法関係の問題の出題頻度が高いことから、授業内容の復習を兼ねて、それらの試験で出題された過去問の解説も行う予定です。2コマ連続の授業ですので、前半はテキストに基く基本的知識の修得を、後半は事例や判例の解説・検討による基本的知識の応用並びに過去問の解答・解説による復習を行うこととします(事例・判例資料および公務員試験等の過去問のプリントを授業開始時に配布します)。

教科書 /Textbooks

中川義朗(編)『これからの地方自治を考える』(2010年、法律文化社、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○磯部力他(編)『地方自治判例百選(第4版)』(2013年、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 【地方自治】の基本的考え方と歴史的展開(【地方自治の本旨】、【地方分権】)
- 第3回～第4回 【住民の権利】(1)(住民の意義、【選挙権】)
- 第5回～第6回 【住民の権利】(2)(【直接請求権】、【公の施設】)
- 第7回～第8回 【住民監査制度】、【住民訴訟】
- 第9回～第10回 【情報公開制度】
- 第11回～第12回 【個人情報保護制度】
- 第13回～第14回 【住民投票制度】
- 第15回～第16回 地方自治体の意義と種類、大都市制度
- 第17回～第18回 【地方議会】の組織と権限
- 第19回～第20回 執行機関の組織と権限
- 第21回～第22回 地方議会と長との関係(【再議制度】、【専決処分】、【不信任議決】)
- 第23回～第24回 【条例制定権】の限界
- 第25回～第26回 地方自治体の事務(【自治事務】、【法定受託事務】)、地方自治体と国との関係
- 第27回～第28回 【地方公務員制度】
- 第29回～第30回 【地方分権】時代における地方自治の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30%、学期末試験...70%(レポートの課題については授業中に説明します。なお、レポート未提出者は、学期末試験を受けることができないものとします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバスで指定された各回のテーマに関するテキストの該当箇所を授業前に一読しておいて下さい。また、地方自治法の該当条文も事前にチェックしておく、授業に際して、より効果的な学習ができると思います。授業では地方自治法を中心とした法律の条文が数多く出てきますので、必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

諸君たちは学生であると同時に生活者住民でもあります。この授業を通じて自分が住んでいる自治体のことに従来よりも関心をもつようになってもらえれば幸いです。

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【地方分権時代における地方自治の現状と課題】です。【地方分権】、【住民自治】、【団体自治】、【地方議会】、【条例】、【住民】、【住民訴訟】、【住民投票】

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 正剛 /Ikuno Masakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

環境法は、良好な環境の保全を図ることを目的とする法律群の総称である。環境問題の深刻化、拡大、多様化によって、環境悪化の事前の防止・低減を目指すことを中心としつつ、加えて環境破壊による被害の事後的救済も目的とする環境法の重要性は増大しているとともに、環境法のカバーする範囲も広がっている。したがって、環境法に属する法律も多様で、広範囲にわたることとなる。

本講義では、そのように多様で広範囲にわたる現行環境法体系の全体像、それらに共通する理念・原則、環境保全のための政策手法、環境権、環境法の中での主要な法律（環境基本法、環境影響評価法、循環型社会形成基本法、リサイクル関連諸法、環境汚染防止関連諸法〈大気汚染防止法・水質汚濁防止法・土壌汚染防止法等〉、廃棄物処理法など）の内容を概観する。そのことを通じて、受講生は、環境問題の現代的課題、環境法の基本的考え方、環境法および環境政策の流れ、各法律での環境保全のための基本的仕組み、環境問題に関する法的整備の現状と残された課題、環境法の今後進むべき方向性を理解できることとなる。

教科書 /Textbooks

坂口洋一著、『環境法ガイド』（新版）、上智大学出版刊、2012年、2450円（税込）
なお、講義の際には、ある程度詳細なレジュメも配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大塚直著、『環境法 第3版』、有斐閣刊、2010年、4410円（税込）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 環境法とは何か、環境法の目的と現行環境法体系 【環境負荷の背景】【環境権】【環境基本法】、
- 第2回 環境権 【憲法上での環境権】【私権としての環境権】【立法・行政への参加権としての環境権】
- 第3回 環境法の基本原則（1）【持続可能な発展】【汚染者負担の原則】
- 第4回 環境法の基本原則（2）【未然防止の原則】【予防原則】【拡大生産者責任】
- 第5回 環境政策の手法 【規制的手法】【非規制的手法】【経済的手法】【情報的手法】
- 第6回 環境基本法の前史【公害法から環境法へ】【公害対策基本法体系】【調和条項】
- 第7回 環境基本法の内容【基本理念】【持続可能な社会の構築】【公害対策と自然保護の一元化】【環境基本計画】
- 第8回 循環型社会形成基本法【循環型社会の定義】【廃棄物政策の優先順位】【拡大生産者責任】【排出者責任】
- 第9回 リサイクル関係法（1）【容器包装リサイクル法】【家電リサイクル法】【資源有効利用促進法】
【拡大生産者責任】
- 第10回 リサイクル関係法（2）【自動車リサイクル法】【建設資材リサイクル法】【食品リサイクル法】
【パソコンのリサイクル】）【グリーン購入法】
- 第11回 環境影響評価法（1）【環境アセスメントの意義・目的】【評価手続の流れ】【方法書】【準備書】
【評価書】【横断条項】
- 第12回 環境影響評価法（2）【環境影響評価手続への住民参加】【環境影響評価法の残された課題】
- 第13回 環境汚染の防止（1）【環境汚染防止のための行政的規制の概要】【環境基準】【排出基準】【総量規制】
- 第14回 環境汚染の防止（2）【大気汚染防止法】【自動車NOx・PM法】【被害者の民事的救済】
- 第15回 環境汚染の防止（3）【水質汚濁防止法】【土壌汚染汚染対策法】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験により、環境法の基本概念、環境法の基本的原則、環境法の基本的考え方、環境政策達成のための手法、環境法・環境政策の流れ、環境保全のための基本的仕組み等を理解しているかを評価します。
定期試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

行政法と民法における不法行為法を既に履修していれば、本講義の理解がより深まります。
また、講義内容が多いので、テキストおよび事前に配布するレジュメを事前に読んで来て下さい。その事前配布したレジュメは講義の際には必ず持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義時間の割に講義内容が多くなりますが、環境法の基本的概念、基本的考え方、基本的仕組み、環境法の主要な法律の概要を理解するつもりで、講義に臨んで下さい

環境法【昼】

キーワード /Keywords

持続可能な発展、未然防止と予防原則、環境権、環境基本法、循環型社会、規制的手法と経済的手法、外部費用の内部化、拡大生産者責任、環境基準、排出基準

独占禁止法【昼】

担当者名 /Instructor 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我が国の経済システムは、市場主義の経済である。そこでは、自由・公正な「競争」により経済効率の向上が図られるのである。ところが現実には、高度寡占化、政府規制、カルテル（談合）、不正な取引方法等により「競争」が制限され、市場機能が十分発揮されない状況にあり、いかにして「競争」を維持・促進するかがますます重要な課題となってきた。そのような状況を背景として、「競争理念」の実現を法目的とし、経済憲法ともいわれている独占禁止法について学ぶ。この法律は、自由を促進するといいつつ、他方、過度の自由を規制するものである。したがってこの授業では、自由と規制の線引きをどのような切り口で考えればよいかを多数の事例を通して学ぶこととなる。「競争」の意義・メリットを理解すれば、この法律が大企業、中小企業、一般消費者というプレイヤーの全てに強く支持されている理由がわかってくる。学生諸君には、この法律を学ぶことによって、「競争」の意義・メリットをよく理解し、実社会において、カルテルなどで競争を回避することなく、自信を持って自由闊達に経済活動ができるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤一雄他『テキスト 独占禁止法(再訂二版)』 青林書院 2010年 ¥4,935)
- 川濱 昇他『ベーシック経済法 独占禁止法入門(第3版)』(有斐閣アルマ)有斐閣 2010年 ¥1,995)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】
- 6回 私的独占 【排除・支配】
- 7回 不正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続 【排除措置】【課徴金納付命令】
- 15回 " 【不服審査手続】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。日常の授業への取り組み... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。
1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、現実の経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力(市場支配力) 私的独占 カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度
再販売価格維持制度 優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 排除措置命令 課徴金納付命令

アジア地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与える地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN-新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡-ASEAN Wayの効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦-「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議(EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

小テストを3回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主の権利】【株主総会の決議事項】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会の手続】
- 7回 株式会社の機関(3)【取締役会】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(10)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1) 【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2) 【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3) 【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4) 【株式の譲渡】 【自己株式】
- 6回 株式会社の資金調達(5) 【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6) 【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7) 【社債】
- 9回 株式会社の計算(1) 【貸借対照表】 【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2) 【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3) 【資本金の減少】 【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1) 【概要】 【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2) 【会社分割】 【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3) 【株式交換】 【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。

この講義では、多様な人材・施設・機能が集積する都市において、地方自治体が、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地方都市における各種の政策課題や、その解決のために取り組まれている政策を理解する。
- ② 地方自治体の産業政策の重要性を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
- 吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
- 小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
- 中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄沙現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境社会学』（船橋晴俊著 成文堂 ￥2,700）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ￥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ￥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ￥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ￥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ￥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 ￥840）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 2回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 6回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 - 30%、レポート - 20%、期末試験 - 50%
（レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志に見える政治参加システム」について意味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない（原発なくても）と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～！！
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当！！
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの？

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力、
グローバルな要素、ローカル要素。

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報公開および個人情報保護の法制は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開は、国民・住民が国および地方レベルで政治に参画するための手段である。他方で、情報化社会の進展により、情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。それらの仕組みがどのようになっており、具体的にどのように運用され、どのような法律問題が生じているのかということについて概要を把握することがねらいである。

授業では、情報公開法制および個人情報保護法制について基本的知識を体系的に理解すること、問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法の逐条解説[第5版]』（有斐閣、2012年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第3版]』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（有斐閣、1999年）
行政情報システム研究所編『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 情報の収集、管理、利用
第 2回 情報公開の憲法上の基礎	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求と非開示情報、訂正等請求
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 開示情報（個人情報）	第15回 まとめ
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報、意思形成過程情報	
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安、情報、外交等情報	
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会	
第 9回 個人情報保護の意義	
第10回 個人情報保護の憲法上の基礎	
第11回 個人情報保護法。個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor マーク・ドルトン・フェニック / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to improve the conversation and debating skills of students by reading and discussing law cases related to human rights.

Each week, students will be given an edited version of decision of a court. Most of the cases will be from English law, although some US cases will also be used.

The court decisions will focus on human rights. The first half of the class will focus on human rights cases related to medical law and the second half of the class will focus on some more general human rights issues.

Human rights are both important and controversial. Finding the right answer to a particular problem is not always easy and very often there is no right answer. Moreover, although human rights issues are legal problems they often raise difficult moral and political questions.

Each week, we will read the court decision together. The class instructor will explain the legal issues that the case raises. Please note that no prior knowledge of law is required for this course.

Students will then discuss whether they agree with the decision of the court or not.

By the end of the class students will have improved their analytic and debating skills in English, and will have improved their vocabulary not only in law, but also in other related areas, such as medicine.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class.

Each week students will be given copies of the reading materials for the following week's class.

The reading materials will consist of an edited version of a court decision.

Students will be expected to read the materials before the class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

n/a

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Course orientation - This class will introduce students to the organization and rules of the class.

Week 2. Freedom of Speech on Twitter

Week 3. Surrogacy contracts

Week 4. Medically assisted reproduction and in vitro fertilization

Week 5. Euthanasia

Week 6. Assisted suicide

Week 7. The right to refuse life saving medical treatment

Week 8. Sterilization of mentally ill patients

Week 9. The right of Muslim girls living in the UK to wear Muslim clothes at school

Week 10. The right of Hindus living in the UK to an open air funeral pyre

Week 11. The right to change your child's name

Week 12. The right to swear in public

Week 13. The right of a hotel owner to refuse gay people

Week 14. Child abduction

Week 15. Guidance on Final Report

Advanced Reading and Discussion 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be graded based on class participation and a final report.

30% of the final grade will be based on class participation and 70% on the final report.

The final report will be a “case report”. Students must choose one case studied in class and write a case report.

The case report should (i) describe the main facts of the case, (ii) describe the legal question that the case raises, (iii) describe the decision of the judge, and (iv) give an opinion on the decision of the court (do you agree with the judge or not?).

Further information on the case report – such as length of the report, deadline, and format – will be provided in Week 1 orientation class.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

No knowledge of law is necessary.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Law has an image of being boring or difficult. In fact, law is a very interesting subject that raises a lot of important political and moral questions. Please do not be put off taking this class because it is about the law.

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

このクラスは英語で行います。

教科書 /Textbooks

Essentials of Economics 5th edition N. Gregory Mankiw South-Western cenage learning

ただし、書き込みしない場合は貸し出しまたはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー入門経済学
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書
池上彰のやさしい経済学

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics
week2 Thinking like a economist
week3 Interdependence and the gains from trade
week4 Supply and Demand
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets
week6 Measuring a nation's income
week7 Measuring the cost of living
week8 Production and growth
week9 Saving, Investment, and the financial system
week10 Mid-term examination
week11 International Trade
week12 Basic tool of finance
week13 Foreign Exchange rates
week14 Derivative
week15 Making up for missing classes

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation	20%
(2)Homework papers	20%
(3)Mid-quizzes	30%
(3)Final test	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容は易いので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, oppotunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Sholes, derivative, purchasing power parity, intrest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

上級英語I 【昼】

担当者名 /Instructor スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course uses the award-winning film *Forrest Gump* to explore in detail a variety of cultural and literary topics significant in America during the 60s and 70s, such as racism, gender issues, changing family relations, war and violence, drugs, popular culture, capitalist enterprise, and the rewriting of history. In addition, the class will offer a general introduction to film analysis to enable the investigation of the representation these topics in detail.

教科書 /Textbooks

Forrest Gump (DVD); handouts provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be provided by the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction to Film Studies
- 第2回 Introduction to American Cultural Studies (the 60s and 70s)
- 第3回 Part 1 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第4回 Part 2 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第5回 Part 3 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第6回 Part 4 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第7回 Part 5 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第8回 Part 6 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第9回 Part 7 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第10回 Part 8 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第11回 Part 9 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第12回 Part 10 of *Forrest Gump* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第13回 In-class writing exercise on the film
- 第14回 Term Report Workshop(1)
- 第15回 Term Report Workshop(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be determined based on class participation (30%), writing exercises (30%), and a term report (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

担当者名 /Instructor スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course uses the classic film *A Streetcar Named Desire* to explore in detail a variety of cultural and literary topics significant in post-WWII America, such as gender issues, changing family relations, violence, ethnic and social class divisions, and emotional illness. In addition, the class will offer a general introduction to film analysis to enable the investigation of the representation these topics in detail.

教科書 /Textbooks

A Streetcar Named Desire (DVD and Screenplay); handouts provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be provided by the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction to American Cultural Studies (early post-WWII)
- 第2回 Introduction to Film Studies and the Drama of Tennessee Williams
- 第3回 Part 1 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第4回 Part 2 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第5回 Part 3 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第6回 Part 4 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第7回 Part 5 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第8回 Part 6 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第9回 Part 7 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第10回 Part 8 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第11回 Part 9 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第12回 Part 10 of *A Streetcar Named Desire* (Viewing, Analysis, Discussion)
- 第13回 In-class writing exercise on the film
- 第14回 Term Report Workshop(1)
- 第15回 Term Report Workshop(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be determined based on class participation (30%), writing exercises (30%), and a term report (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし（授業中に適宜紹介する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 家庭教育の課題：社会化
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋教育史
- 9回 教育史②：日本教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：教材・方法
- 13回 職業と教育：進路形成
- 14回 国際化と教育：言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10% 課題 30% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原理解 教育制度とは、教育関係法規、
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育,中等教育
- 4回 教員に関する制度(1) 教員免許法制
- 5回 教員に関する制度(2) 公務員としての教師、教員の指導力と研修
- 6回 教育行政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校
- 7回 生涯学習の制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 8回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 9回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材
- 10回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 11回 学校における教育課程編成
- 12回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 13回 教育課程の開発・評価
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

商業科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

2学期に開講される「商業科教育法B」と合わせ、高等学校における商業（ビジネス）教育について、その理念、指導内容及び指導方法、歴史の変遷、現状及び課題等について学ぶとともに、商業教育を担当する教師としての実践的な指導力の基礎を養成することを目標として行われる。

本講義は、我が国における教育改革の動向及び学習指導要領の改訂の経緯と趣旨について学び、その上で高等学校における商業（ビジネス）教育について、教科「商業」及び商業に関する学科の枠組みの理解を図り、商業に関する各科目の目標、内容、指導方法及び教材研究について各分野別に学ぶ。

なお、指導方法等について実践的に学ぶ意味及び教育実習への配慮から、途中において「学習指導案」作成の要点について学ぶこととする。

教科書 /Textbooks

日本商業教育学会編「教職必修最新商業科教育法 新訂版」実教出版
「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉野弘一著 「商業科教育法」実教出版
雲英道夫他編著「商業科教育論」多賀出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入講義及び我が国における教育改革の動向
- 第2回 学習指導要領（平成21年3月告示）改訂の経緯と趣旨
- 第3回 教科「商業」の目標と教科の組織
- 第4回 教科「商業」の各分野等の目指す学力観
- 第5回 学習指導案作成の要点
- 第6回 基礎的科目及びマーケティング分野（1）【ビジネス基礎】、【マーケティング】
- 第7回 マーケティング分野（2）【商品開発】、【広告と販売促進】
- 第8回 ビジネス経済分野（1）【ビジネス経済】、【ビジネス経済応用】
- 第9回 ビジネス経済分野（2）及び会計分野（1）【経済活動と法】、【簿記】
- 第10回 会計分野（2）【財務会計I】、【財務会計II】
- 第11回 会計分野（3）【原価計算】、【管理会計】
- 第12回 ビジネス情報分野（1）【情報処理】、【【ビジネス情報】、【電子商取引】
- 第13回 ビジネス情報分野（2）【プログラミング】、【ビジネス情報管理】、
- 第14回 総合的科目（1）【課題研究】、【総合実践】
- 第15回 総合的科目（2）及びまとめ 【ビジネス実務】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% , 平素の学習状況(課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義の受講が高等学校教員免許（商業）取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。商業教育の指導内容である専門的知識・技術（複式簿記、マーケティング、情報処理など）については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育への転換が図られていますが、高い志と使命感をもって、商業（ビジネス）教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の意義、教科商業の目標及び組織、教科商業の各分野の目指す学力観、高等学校学習指導要領

商業科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1学期に開講される「商業科教育法A」と合わせ、高等学校における商業（ビジネス）教育について、その理念、指導内容及び指導方法、歴史の変遷、現状と課題等について学ぶとともに、商業教育を担当する教師としての実践的な指導力の基礎を養成することを目標として行われる。

本講座は、我が国の商業教育の歴史の変遷について理解を深め、改めて商業教育の現状と課題について考察する。また、学力観の転換及び評価について学び、その上で評価基準の設定について演習を行う。さらに、教育課程の編成について理解を深めるとともに、各自、学習指導案を作成し、発表、協議を行い実践的指導力の基礎を身に付ける。

教科書 /Textbooks

日本商業教育学会編「教職必修最新商業科教育法新訂版」実教出版
高等学校学「習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

及川達男著「商業科教育論」多賀出版
三好信浩著「日本商業教育成立史の研究」風間書房
吉野弘一著「商業科教育法」実教出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 商業教育の生成（明治期以前）
- 第2回 商業教育の生成（明治期）
- 第3回 商業教育の発展（大正、昭和（戦前））
- 第4回 商業教育の試練（戦中、戦後）
- 第5回 戦後の商業における教育課程基準の変遷（商業教育の拡充、商業教育の多様化）
- 第6回 戦後の商業における教育課程基準の変遷（商業教育の集約化）
- 第7回 商業教育の現状と課題（商業に関する学科の生徒数、卒業生の進路）
- 第8回 商業教育の現状と課題（生涯学習社会・知識経済社会への対応）
- 第9回 指導と評価の一体化
- 第10回 学習指導案の作成（講義及び演習）
- 第11回 模擬授業（ビジネス基礎）
- 第12回 模擬授業（マーケティング分野）
- 第13回 模擬授業（簿記会計分野）
- 第14回 模擬授業（ビジネス経済分野）
- 第15回 まとめ - 商業教育の根底にあるもの -

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% , 平素の学習状況（模擬授業等） ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義の受講が高等学校教員免許（商業）取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。商業教育の指導内容である専門的知識・技術（複式簿記、マーケティング、情報処理など）については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育へと転換が図られているが、高い志と使命感をもって、商業（ビジネス）教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の変遷（明治期～戦前）、森有礼、福澤諭吉、渋沢栄一、商業倫理、戦後の教育課程基準（商業）の変遷、学習指導案、模擬授業

特別活動の研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)
高等学校学習指導要領 「特別活動」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
8回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【学習指導案】 【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】 【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】 【導入】 【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】 【説明】 【指示・助言】 【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 学期末の提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第II章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第III章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第III章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第IV章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第V章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第VII章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 進路指導、キャリア教育における職場体験学習の意義を考える
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章2節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育法規に関わる基礎的な知識を習得し、教育法規における諸課題について学ぶ。

目標

- ①教育法規に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育法規をめぐる課題について整理し、具体的な対応策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% 最終課題(試験) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：教育社会学の対象と方法
第3回：子どもの社会化と家族・学校
第4回：学校という組織
第5回：学校社会と生徒文化
第6回：学校社会と教師文化
第7回：文化的再生産論にみる学校社会
第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の理念と道徳の指導法、及び学習指導案の作成について学習する。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1回 「学校教育」における道徳教育の構造 | 【学校教育の全領域】 |
| 2回 「各教科」と道徳教育 | 【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】 |
| 3回 「特別活動」と道徳教育 | 【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】 |
| 4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 | 【横断的・総合的な学習】【活動】 |
| 5回 道徳教育の目標と内容 | 【道徳の時間の指導内容】【全体計画】 |
| 6回 「道徳の時間」の計画と指導 | 【指導方法】 |
| 7回 学習指導案の内容と作成と指導 | 【学習指導案】【指導技術】 |
| 8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」 | 【ジレンマ教材】【対立・葛藤】 |
| 9回 「道徳の時間」と「役割演技」 | 【動作化】【ロール・プレイ】 |
| 10回 「道徳の時間」と「アサーション」 | 【主張】 |
| 11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」 | 【出会い】【構成的グループエンカウンター】 |
| 12回 「道徳の時間」と「作文」 | 【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】 |
| 13回 「道徳の時間」と「体験」 | 【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】 |
| 14回 「道徳の時間」の「模擬授業」 | 【道徳教育の評価】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国统一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正義『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。

本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

- 第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間試験の講評 / 政教分離
- 第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回：「地域研究における総合的認識」【総合化の意味】
- 第5回：「地域研究における総合的認識」【全体像の把握の意味】
- 第6回：「地域研究における総合的認識」【全体像把握の方法】
- 第7回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第8回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズムとは】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義的アプローチとは】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【基本的視点】
- 第14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【人間関係】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
 - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
 - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
 - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
 - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
 - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
 - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
 - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめと今後の課題について【環境と健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーリーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフト理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。
ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【夜】

履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、(財)日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。
(選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。)

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

最大でも12人を予定しています。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボールカ』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

現代人のこころ【夜】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるのかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験50%
中間試験(抜き打ち)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。
前年度単位取得率: 57%
S:7% A: 23% B: 13% C: 21% D: 21% -: 15%

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は【絶対に受講しない方が良い】」
「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
「心理学が生活に関連していることがわかる」
「心理学が役に立つものだとわかる」
「就活に使えるネタが集まる」
「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけなくなるので覚悟すべし」
「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回到現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 国境を越える制度と文化 - 国際人権レジューム、国際NGO、エスニックメディア
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、国際人権レジューム、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】 【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】 【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】 【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】 【金融市場】 【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】 【新産業】 【地域振興】
- 11回 人と情報のポータルレス化 【多国籍組織】 【ダイバーシティ】 【世界同時情報共有】 【ネットワーキング】
- 12回 グローバル化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】 【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】 【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】 【乗数】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方と関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	教科書の紹介、授業のガイダンス
2~3回	なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
4回	第ⅠV部の総論 姜尚中論文
5回	第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
6回	第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
7回	第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
8回	第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
9回	第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
10回	第ⅠⅠ部の「国家」 巒田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
11回	第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
12回	第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
13回	第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
14回	第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本~3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未満の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養う事を旨とする。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのようなかかわりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみにとどまる事なく、東アジアという包括的な視座に置き、北アジア・西アジア・東南アジアの諸地域をも含みつつ、各時代の政治・経済・外交・文化・思想等の多角的な方面から理解する事を掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 隋唐と朝鮮・日本 - 中国の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...30%・定期試験...70%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
平常の受講態度を見るため、授業中に予告なく小テストを実施する事も有り得る。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。
出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修している事が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与える事が確実な中国の歴史について学ぶ事は、必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 北アジア 西アジア 東南アジア 中国 朝鮮 日本 政治 経済 外交 文化 思想

社会学 【夜】

担当者名 /Instructor 堤 圭史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、国内外の地域社会で生きる人々が抱える諸問題を社会的に解読していく力を身につけることにある。社会学とは、我々が生活している世界の中から、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2)その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3)なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4)その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえて、よりよいシステムを構想してゆく科学である。この授業では、まず、社会学に特徴的な社会現象の捉え方について社会学の古典的著作を例にとりあげながら紹介していく。ついで、「組織」、「家族」、「農山村」、「都市」、「階層」、「逸脱」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会学がわかる事典』(森下伸也、日本実業出版社)
- 『社会学をつかむ』(西澤晃彦・渋谷望著、有斐閣)
- 『畏怖する近代』(左古輝人著、法政大学出版局)
- 『社会学』(長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志著、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のテーマ、内容、構成の紹介
- 第2回：社会と個人、個人と社会(1)【E. デュルケム】
- 第3回：社会と個人、個人と社会(2)【M. ウェーバー】
- 第4回：集団と組織(1)【集団の諸類型、社会集団の構造と機能】
- 第5回：集団と組織(2)【官僚制】
- 第6回：家族(1)【社会変動と家族】
- 第7回：家族(2)【家族問題と社会問題】
- 第8回：階層と社会移動(1)【階級・階層の捉え方】
- 第9回：階層と社会移動(2)【社会移動と教育】
- 第10回：都市と農村(1)【都市化とコミュニティ】
- 第11回：都市と農村(2)【社会変動と都市問題】
- 第12回：逸脱と統制(1)【正常と異常 / 同調と逸脱】
- 第13回：逸脱と統制(2)【逸脱の捉え方】
- 第14回：グローバル化とエスニシティ
- 第15回：まとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小レポート30%。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を中心に学びます。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法を学ぶとともに、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 海岸砂丘の環境と土地利用を読む
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 歴史景観を読む
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける地誌の諸相をテーマとする。世界地誌、日本地誌、身近な地域の地誌を通じて、それぞれの地域の知識を得るとともに、地誌学に様々な表現方法があることを習得してもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 世界地誌(1) 世界の自然・人文環境
- 第3回 世界地誌(2) 東アジア
- 第4回 世界地誌(3) 東南アジア
- 第5回 世界地誌(4) 南アジア・西アジア
- 第6回 世界地誌(5) アフリカ
- 第7回 世界地誌(6) ヨーロッパ
- 第8回 世界地誌(7) アングロアメリカ
- 第9回 世界地誌(8) ラテンアメリカ
- 第10回 世界地誌(9) オセアニア
- 第11回 日本地誌(1) 日本の自然環境
- 第12回 日本地誌(2) 日本の人文環境
- 第13回 身近な地域の地誌(1) 北九州地域の地誌
- 第14回 身近な地域の地誌(2) 筑豊地域の地誌
- 第15回 身近な地域の地誌(3) 下関地域の地誌

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
- 長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権保障と人権制約】
- 第4回 人権論② 【裁判所による権利保障】
- 第5回 統治機構論① 【国民主権】
- 第6回 統治機構論② 【権力分立】
- 第7回 統治機構論③ 【日本の政治制度】
- 第8回 統治機構論④ 【日本の選挙制度】
- 第9回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第10回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第11回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第12回 地方自治 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第13回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学部1年生は昼間開講「日本国憲法原論」の受講を勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履・夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履・夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

英語I (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレテスト
- 2回 リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
- 3回 リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット 11
- 13回 リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット 12
- 14回 ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 生協の教科書リストを確認されたい。
 その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット1~5、リーディング ユニット1
3回	リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
4回	リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
5回	リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
6回	リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
7回	リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
8回	リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
9回	リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
10回	リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
11回	リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
12回	リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
13回	リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80%
 課題 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heros
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V (済営夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (済営夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済営夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 1単位 1単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 済営夜 2 年 済営夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済営夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 済営夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Talking about apartments and houses
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートーキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートーキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートーキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は「朝鮮語I」の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業にて指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 3回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 4回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 5回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】
- 6回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 8回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 9回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 10回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 11回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 12回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Iと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日韓の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【昨日何をしましたか】【前置き表現】
- 14回 過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅱと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks
 「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
 - 2回 一学期に習ったことの復習(2)
 - 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
 - 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
 - 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
 - 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
 - 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
 - 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
 - 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
 - 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
 - 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
 - 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
 - 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
 - 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロップへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロップへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1) : 自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2) : お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3) : 人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。
自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。
自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞serを用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(1) 基本的表現
- 8回 規則動詞(2) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar,hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。スペイン語圏に旅行に行っても、簡単な日常会話ができるレベルに到達することを目指します。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(～が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にむけ、文献を読み、資料を収集する。

教科書 /Textbooks

各自で研究内容にあった文献を収集する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 既存文献についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究内容を報告する準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

各自で卒業論文作成に必要な文献を収集しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業論文の報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業論文の報告を出来るように準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題 1
- 15 推定と検定に関する標準問題 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

本講義は、2014年度入学生は受講できない。2013年度以前の入学生が対象である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実 (2013) 『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔 (2011) 『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義 『大学演習数理統計』裳華房 (本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。
本講義は2014年度入学生は対象としない。2013年度以前の入学生が対象である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDP】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長のメカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1) 【45度線モデルの復習】
- 3回 財政政策の有効性について(2) 【均衡予算乗数】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 財政政策の有効性について(3) 【消費・貯蓄決定の合理的選択理論】
- 5回 財政政策の有効性について(4) 【リカードの中立命題】
- 6回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 7回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率の決定】
- 8回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 9回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 12回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長の基礎理論(2) 【新古典派成長理論】
- 14回 経済成長の基礎理論(3) 【収束】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。

この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

マクロ経済学の基礎理論を修得する。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)

2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】

3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】

4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】

5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】

6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】

7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】

8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】

9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】

10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】

11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】

12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】

13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】

14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】

15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

後期は、前期に修得した簿記Iの基本的知識を応用するものとし、会社会計を講義する。

教科書 /Textbooks

「新検定 簿記講義 2級商業簿記」 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 帳簿組織(1) 転記の合理化と事務分掌
- 第2回 帳簿組織(2) 補助簿の仕訳帳化および補助元帳
- 第3回 帳簿組織(3) 総合練習問題
- 第4回 特殊商品売買(1) 委託販売と受託販売
- 第5回 特殊商品売買(2) 未着品販売
- 第6回 特殊商品売買(3) 割賦販売
- 第7回 長期請負工事(1) 工事進行基準と工事完成基準
- 第8回 長期請負工事(2) 練習問題
- 第9回 本支店会計(1) 本支店間の取引の処理
- 第10回 本支店会計(2) 本支店財務諸表の合併
- 第11回 社債(1) 社債の発行と利払いの会計処理
- 第12回 社債(2) 社債償還の会計処理
- 第13回 資本金(1) 株式会社の設立会計
- 第14回 資本金(2) 増資及び減資の会計
- 第15回 資本金(3) 合併の会計

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

後期の講義内容は、簿記論Iの理解を前提に、株式会社会計を主題にしている。
受講者は、簿記論Iの内容を復習しつつ、株式会社会計を勉強してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Excel 2010 VBA でプログラミングの学習をします。ワードやエクセルやパワーポイントは各々のソフトを使いこなすための利用技術の学習ですが、プログラミングはある課題解決のための制作技術の学習です。多くのプログラム言語 (Java, COBOL など) がありますが、VBA はわかりやすく、プログラミングも容易です。授業の概要は基礎的な画面の描き方 (コントロールのボタン、テキストボックス、画面スクロールバー、コンボボックスなど)、画面から入力される数値での四則演算、グラフィックス描画、エクセルデータとVBAとの連携など、基本的なプログラミング作成法から応用まで、一通りのプログラミング命令を学習します。最後に簡単な成績管理システム (または顧客管理システム) をモデルに実践的なシステムの作成を行います。

教科書 /Textbooks

特に使いません。都度プリントを配布します。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

実教出版編集部『Excel 2007 VBA』 実教出版 2010年 ¥1,200

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBAの概要【VBAの特徴およびほかの言語との違い、マクロなど】
- 2回 各種コントロールの学習と練習【コマンドボタン、スピンボタン、ラベル、テキストボックス、チェックボックスなど】
- 3回 変数の学習と練習【変数とは、変数のデータ型 (単精度、長精度、浮動小数点など)】
- 4回 変数の四則演算の練習【演算子、加減乗除、複雑な計算、四捨五入など】
- 5回 if文の学習と練習【if・・・・ then, if・・・・ then・・・・ else】
- 6回 if文の応用と練習【if・・・・ then・・・・ elseif, if文の入れ子式、select Case文など】
- 7回 forステート文の学習と練習【1次元のfor~nextなど】
- 8回 forステート文の応用と練習【2次元のfor~nextなど】
- 9回 繰り返し命令の学習と練習【Do while・・・・ Loop, Do Until・・・・ Loopなど】
- 10回 配列の学習と練習【一元の配列、二次元の配列など】
- 11回 サブプロシージャの学習と練習【構造化プログラミング、各部分の独立、引数など】
- 12回 ファンクションプロシージャの学習と練習【内容、使い方など】
- 13回 グラフィックスとグラフィックス応用の学習と練習【円、線、四角など】
- 14回 実践システム構築 (成績管理システムまたは顧客管理システム) の練習
- 15回 本講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の授業への取り組み・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Excelをしっかりと操作できること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングは継続して学習することが重要である。また理解できなかったことは次週までに理解してくること。

キーワード /Keywords

VBA マクロ コントロール 変数 繰り返し処理 プロシージャ 配列 シートへのアクセス

ビジネス英語A 【夜】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。その第一歩としては、ビジネスレターの書き方から始める。
ねらいとしては、基礎的なビジネスレターを理解でき、声を出して読めることを目指します。また、基礎的な英語力の底上げをするために、資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル」】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、海外貿易とはなじみがないものです。最初に二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語が特殊に見えるからです。習うより慣れるで、慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【夜】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が急速に進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を維持し、高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。
まず最初は、ビジネスレターの構成を理解して、次に貿易のそれぞれの場に応じて、どのようなやり取りが行われるか (= 貿易実務) を学びます。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」 (CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

二学期から履修する人には、最初の二ヶ月ほどはとても難しく見えます。それは、貿易の場特有の英語表現が、これまで習ってきた英語とは異なるからです。習うより慣れるです。その部分に慣れれば、直ぐに楽になります。

キーワード /Keywords

国際比較経済史I【夜】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日は、失業問題が深刻な時代である。大学を出てもなぜ職がないのか。そもそもなぜ私たちは就職しなければならないのか。他方で、バブル経済で潤っている人々が存在している。なぜ格差社会が生じたのか。こういった問題を解明するために、1980年代の世界各国の政治家を取り上げて比較検討する。

特に、サッチャー（イギリス）、を取り上げてサッチャリズムの本質を解明できるようにする。

- 1・ 講義の目的
- 2・ イギリスとはどんな国か一日英交流史を中心にー
- 3・ 「蛍の光」とスコットランド人ー雇われ外国人が作った明治維新ー
- 4・ サッチャー登場と「イギリス病」
- 5・ スタグフレーションとは何か
- 6・ スタグフレーションの発生の要因」とケインズ政策一、
- 7・ ケインズとはどんな人物かー悲劇の経済学者の実態ー
- 8・ 戦後労働党政権と基幹産業の国有化
- 9・ 「ゆりかごから墓場まで」とはどんな政策のことが
- 10・ サッチャーのイギリス病対処方法
- 11・ サッチャーの前に立ちはだかる英国炭鉱労働組合
- 12・ サッチャーと1年にわたる炭鉱スト
- 13・ スト当事者とのインタビューから見た炭鉱スト（1）
- 14・ スト当事者とのインタビューから見た炭鉱スト（2）
- 15・ サッチャーとビッグバンの展開

教科書 /Textbooks

毎回レジュメと資料を配布して講義を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国ー産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年6月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・ 講義の目的
- 2・ イギリスとはどんな国か一日英交流史を中心にー
- 3・ 「蛍の光」とスコットランド人ー雇われ外国人が作った明治維新ー
- 4・ サッチャー登場と「イギリス病」
- 5・ スタグフレーションとは何か
- 6・ スタグフレーションの発生の要因」とケインズ政策一、
- 7・ ケインズとはどんな人物かー悲劇の経済学者の実態ー
- 8・ 戦後労働党政権と基幹産業の国有化
- 9・ 「ゆりかごから墓場まで」とはどんな政策のことが
- 10・ サッチャーのイギリス病対処方法
- 11・ サッチャーの前に立ちはだかる英国炭鉱労働組合
- 12・ サッチャーと1年にわたる炭鉱スト
- 13・ スト当事者とのインタビューから見た炭鉱スト（1）
- 14・ スト当事者とのインタビューから見た炭鉱スト（2）
- 15・ サッチャーとビッグバンの展開

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（80%）
授業貢献度（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義中に指示する参考書は必ず読み、レポートを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際比較経済史II 【夜】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

イギリス産業革命の歴史的意義は今日の南北問題の原型をイギリスが作ったと言える。
そこで、第1にイギリス産業革命を取り巻く紅茶帝国主義と、自由貿易帝国主義を中心に考察する。
第2にドイツや日本がイギリス自由貿易主義の呪縛からなぜ逃れて独自の産業革命を達成できたのかについて考察する。
第3に、インド、中国、アフリカなどがなぜ経済的貧困に陥ってしまったのかについて考察する。それらの事柄を通じていまもって苦しんでいる南の国のテイク・オフについて考える。

教科書 /Textbooks

ノート講義を中心の講義、教科書なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 紅茶帝国主義と南北問題の歴史的意義
- 1・ オランダ東インド会社と香料独占
 - 2・ イギリス東インド会社とインド経営
 - 3・ 東インド会社とアヘン戦争
 - 4・ 砂糖栽培と西インド砂糖プランテーション経営
 - 5・ 奴隷貿易とキャラコ
 - 6・ 英国人の紅茶嗜好と紅茶帝国主義
 - 7・ キャラコ輸入禁止とキャラコ論争
 - 8・ ハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンとイギリス綿工業
 - 9・ 綿工業大量生産イギリス資本主義確立【商品生産】【景気循環】【賃労働と資本】
 - 10・ 自由貿易帝国主義とインド【インド省】【イギリス綿製品】【相殺消費税】
 - 11・ ドイツ荘園経済の特徴【ゲルマン民族】【グルントヘルシャフト】【】
 - 12・ グーツヘルシャフトとイギリス【エルベ川東】【資本主義的農業経営】【奴隷】
 - 13・ ドイツ産業革命と金融資本【株式会社】【鉄道業】【国家主導】
 - 14・ 過剰資本処理困難と植民地再分割要求【大不況期】【持たざる国】【第1次世界大戦】
 - 15・ イギリス産業革命の世界史的意義

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、期末試験50%、授業貢献度20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞を毎日読んで、今日の経済問題について、興味を持って講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気対策として行う財政政策とその有効性について学びます。マクロ経済学の講義ですすでに学習したかもしれませんが、ケインズの45度線分析やIS-LMモデルでは、財政政策は経済全体の有効需要を生み出し、それが失業の解消とGDPの増加をもたらす有効な景気対策であると教えてくれます。しかし、財政政策が有効ではないと主張する経済学の考え方も存在します。それは新古典派経済学の主張です。この授業の前半では、この財政政策の有効性に関する異なる考え方：ケインズ的な財政理論と新古典派のマクロ財政理論を学び財政政策は本当に有効なのかどうかについて議論したいと思います。講義の後半では世代間の財政問題をテーマに扱います。国債の償還問題や公的年金制度の問題は世代間の利害にかかわる重要な財政問題です。ヨーロッパや日本、アメリカなどの先進国では、政府の国債残高（政府の借金）が膨大でありそれを解消するためにはどのように財政再建を進めればよいかが議論されています。高齢化の進むこれらの国では、それと並行して公的年金制度をどう持続していくのかという問題にも直面しています。これらの問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

現代経済学入門『財政』井堀利宏 著 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー マクロ経済学 (第3版) I 入門編 と II 応用編
N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回財政思想と財政制度
- 2 回財政政策の理論1-1 45度線分析 乗数の計算
- 3 回財政政策の理論1-2 IS-LMモデル
- 4 回財政政策の理論1-3 IS-LMモデルにおける財政政策の効果
- 5 回財政政策の理論2-1 新古典派経済学；恒常所得仮説
- 6 回財政政策の理論2-2 新古典派経済学；恒常所得仮説と財政政策の有効性
- 7 回中間試験 (日程は第1回目の授業でアナウンスします。必ず受験してください)
- 8 回公債1 政府の予算制約と公債残高の変化
- 9 回公債2 公債負担の転嫁1 世代間対立の問題
- 10 回公債3 公債負担の相殺とリカード(バロー)の中立性命題
- 11 回財政運営 財政破綻・財政の持続可能性
- 12 回財政再建 財政再建の方向性・方法・議論
- 13 回公的年金1 公的年金の存在理由
- 14 回公的年金2 積み立て方式年金の経済効果
- 15 回公的年金3 賦課方式年金の経済効果

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学の知識を使います。図や簡単な数式(中学・高等学校程度)を入門のマクロ経済学の講義よりもよく用います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は連続ドラマのように話の内容が途切れることなく連続しています。ですからできるかぎりきちんと毎回、講義に参加するようにしてください。

キーワード /Keywords

財政、財政政策

財政学II【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではミクロ経済学の分野で財政の問題を扱います。前半では望ましい課税制度の在り方や所得の再分配政策の議論を説明します。税には所得税や消費税、相続税など様々な税金制度があります。その種類と制度の在り方を学びます。そしてその税の中でも所得税などは累進性といって高所得者ほど税率が高く課されます。その税収は低所得者や高齢者などへの社会保障や教育投資などに使われます。これらを再分配政策といいます。この再分配政策に関して経済学ではどのような価値基準から正当化されるのかもしくは正当化されないのかを次に勉強します。後半では、公共財の概念を説明しその供給の仕方に関して効率性と様々な問題点を議論します。公共財とは警察や消防などの公共サービス、浄水下水、高速道路や空港などの公共インフラをさします。これらは政府によって供給される財です。このような財が政府によって供給される必要性とその最適な供給手段について学びます。

教科書 /Textbooks

現代経済学入門『財政』井堀利宏 著 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スティグリッツ公共経済学 第2版(上) [単行本]
ジョセフ・E・スティグリッツ (著) 藪下 史郎 (翻訳)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回望ましい課税ベース1 家計の最適化行動
- 2 回望ましい課税ベース2 課税制度の導入
- 3 回望ましい課税ベース3 税の種類とその効果
- 4 回租税改革の基本ルール
- 5 回所得再分配政策1 社会厚生関数-ベンサム的な価値判断とロールズの価値判断
- 6 回所得再分配政策2 累進所得税 最適税率-ロールズの基準
- 7 回所得再分配政策3 累進所得税 最適税率-ベンサム的な基準
- 8 回中間試験 (日程は第1回目の講義でアナウンスします。必ず受験してください。)
- 9 回公共財1 公共財の性質と種類
- 10 回公共財2 自由経済と公共財の必要性
- 11 回公共財3 公共財の最適供給① サムエルソンのルール
- 12 回公共財4 公共財の最適供給② 公共財の自発的供給とその過少性
- 13 回公共財5 公共財の最適供給③ 政府による供給 リンダール均衡
- 14 回公共財6 フリーライド問題
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の知識を使います。ミクロ経済学に関する講義を履修済みか履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済主体の最適化問題をベースにクラシックな理論を扱いますが、できる限り数式を少なくし直感的に説明したいと思います。できる限り毎回講義に参加してください。

キーワード /Keywords

財政、公共財供給、課税効果

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、数々の困難を乗り越えながら貿易立国として発展繁栄してきたが、近年少子高齢化などの影響で、国内の需要が伸び悩み、需要を広く海外に求めざるを得ない状況になっている。
従い、このようなボーダレス社会に対応し、活躍できる人財の育成が急務である。
この講義では①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考え、②日本経済の変化に応じて貿易の最新動向を学ぶ。③国際貿易の基礎知識を踏まえて、貿易を巡る歴史や現状を解説し、その対応について学生諸君が各自の考えを持ち、交渉や議論が出来る力を養っていく。また、④アジアに近い九州の特性を生かした、貿易のあり方についても考える。
担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験と智慧を駆使した現場感覚のある講義が実践されるので、学生諸君にはしっかりとした知的好奇心を持って受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か、現代の貿易と経済。貿易の基礎知識。
- 2回 日本の国際貿易の現状
- 3回 貿易と国際収支、金融と外国為替
- 4回 戦後の貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAなどの国際自由貿易の動き
- 7回 東アジア共同体構想の歩みと現状
- 8回 経済と貿易の発展
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 '90年代以降のアジアとの生産分業と貿易の進展
- 11回 TPP環太平洋経済連携協定を巡る動き
- 12回 貿易のグローバル化のMeritとDemerit
- 13回 直接投資の増大とそれによる貿易の拡大
- 14回 国際貿易の流れ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・40%
課題・・・20%
期末レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プリントを配布するので、良く読み、咀嚼すること。
講義の中で自身も考え、積極的に質問すること。
マスメディアやインターネットなどの貿易に関する情報に常に興味を持ち、それらの情報を検証し、考え、活用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三井物産株式会社での国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国・カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務を通して学んだ智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、活躍の仕方について、当事者意識を持って学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性、信用・信頼、互助共生、現場主義、経営理念

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、数々の困難を乗り越えながら貿易立国として発展繁栄してきたが、近年少子高齢化などの影響で、国内の需要が伸び悩み、需要を広く海外に求めざるを得ない状況になっている。
従い、このようなボーダレス社会に対応し、活躍できる人財の育成が急務である。
この講義では①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考え、②日本経済の変化に応じて貿易の最新動向を学ぶ。③国際貿易の基礎知識を踏まえて、貿易を巡る歴史や現状を解説し、その対応について学生諸君が各自の考えを持ち、交渉や議論が出来る力を養っていく。また、④アジアに近い九州の特性を生かした、貿易のあり方についても考える。
担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験と智慧を駆使した現場感覚のある講義が実践されるので、学生諸君にはしっかりとした知的好奇心を持って受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期のおさらい(国際貿易の目指すもの)
- 2回 貿易決済(貿易基礎用語の学習)
- 3回 日本の金融政策の現状と日本銀行の役割
- 4回 東アジアを中心とするFTA、EPAの進展
- 5回 TPP(環太平洋経済連携協定)交渉のあり方
- 6回 九州地域と国際自由貿易協定
- 7回 日米中韓の二国間FTA交渉
- 8回 多国間FTAの選択(東アジア共同体・TPP等)
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 国際貿易に対する外交政策の影響
- 11回 東北アジアの発展とLogistics
- 12回 日本のエネルギー政策と国際貿易(特に対米・中・露)
- 13回 環境・水事業・交通システムの輸出
- 14回 その他今後の国際貿易における輸出有望製品・サービス
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・40%
課題・・・20%
期末レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プリントを配布するので、良く読み、咀嚼すること。
講義の中で自身も考え、積極的に質問すること。
マスメディアやインターネットなどの貿易に関する情報に常に興味を持ち、それらの情報を検証し、考え、活用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三井物産株式会社での国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国・カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務を通して学んだ智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、国際舞台での活躍の仕方について、当事者意識を持って学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性、信用・信頼、互助共生、現場主義、経営理念

国際マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「日本経済の動き」及び「世界経済の動き」を国際マクロ経済の視点から理解することができ、また日本経済を世界経済の動向と結び付けて理解できる。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN: 経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状 (I): 世界の余剰資金とアメリカ経済 【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状 (II): 世界経済の動向と新興経済大国 (BRICs) 【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点 (I) - マクロ経済学の基本的枠組み (基礎概念) - 【総供給・総需要】 【マクロ均衡・不均衡】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点 (II) - 国際マクロ経済の分析枠組み (基礎理論) - 【輸出・輸入】 【輸入超過】 【輸出超過】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点 (III) - 国際マクロ経済の分析枠組み (応用理論) - 【内需・外需】 【経常収支の黒字・赤字】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念 (I) 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念 (II) 【経常収支黒字と資本収支赤字】 【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係 (I) 【経常赤字】 【財政赤字】 【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係 (II) 【資本の輸出】 【対外投資】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析: 経常収支と貯蓄・投資バランス (I) 【貯蓄・投資】 【財政収支】 【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析: 経常収支と貯蓄・投資バランス (II) 【過剰貯蓄】 【資本輸出】 【金融資産】
- 第13回 日本経済現状: 経常収支の黒字と外貨準備高 【円高】
- 第14回 世界経済の不均衡問題 【経常収支の黒字・赤字】 【債権大国: 日本・中国】 【債務大国: アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおくとよいでしょう。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本 円高・円安 ユーロ

国際マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結び付けて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】 【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】 【固定レート】 【市場レート】
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズム 【ドル買い】 【円売り】
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】 【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】 【為替介入】 【外貨取引の規制】 【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】 【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】 【金融政策】 【資本移動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策効果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF 体制 円建レート ドル建レート
円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入
不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済地理学とは 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 地域構造論 【産業構造】、【産業配置】、【地域構造】
- 3回 産業構造の変化と地域構造 【産業構造】、【主導産業】、【地域構造】
- 4回 立地論の考え方、農業立地論 【立地論】、【チューネン】
- 5回 1～4回の復習とまとめ
- 6回 工業立地論 【輸送費】、【労働費】、【産業集積】
- 7回 工業立地の実際(1)・・・基礎素材型産業 【規模の経済】、【市場分割型立地】
- 8回 工業立地の実際(2)・・・加工組立型産業 【集積の経済】、【工程分業型立地】
- 9回 日本工業の地域的構成 【工場配置】、【産業政策】、【立地政策】
- 10回 5～9回の復習とまとめ
- 11回 地域間人口移動 【人口減少】、【人口移動】
- 12回 日本の経済地理(1)・・・中心地域 【三大都市圏】、【中枢管理機能】
- 13回 日本の経済地理(2)・・・周辺地域 【過疎問題】、【農林水産業】
- 14回 日本の経済地理(3)・・・中間地域 【高速交通体系】、【インフラ】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン 【経済地理学】、【都市】、【地域】、【地域政策】
- 2回 商業立地論 【商業集積】、【モータリゼーション】、【ライフスタイル】
- 3回 中心地論 【クリスタラー】、【中心地】
- 4回 都市システム論 【都市】、【プレッド】、【情報】
- 5回 世界都市論とプロダクトサイクル論 【世界都市】、【中心と周辺】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 戦後の日本経済 【高度経済成長】、【円高】、【産業空洞化】
- 8回 日本の国土計画(1)・・・一全総・二全総 【全総】、【拠点開発方式】
- 9回 日本の国土計画(2)・・・三全総 【定住圏構想】、【テクノポリス】
- 10回 日本の国土計画(3)・・・四全総 【中枢管理機能】、【東京一極集中】
- 11回 日本の国土計画(4)・・・最近の国土計画 【グランドデザイン】、【国土形成計画】
- 12回 6～11回の復習とまとめ
- 13回 先進国の地域構造(1)・・・アメリカ、イギリス、ドイツ 【集中と分散】、【南北問題】、【地域開発】
- 14回 先進国の地域構造(2)・・・フランス、イタリア、韓国 【集中と分散】、【南北問題】、【地域開発】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域政策【夜】

担当者名 /Instructor 永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの（ワークショップ）
- 10回 新産業育成と地域政策（環境産業を事例に）
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 地域づくりと地域政策（観光振興を事例に）
- 13回 地域づくりと地域政策（ソーシャルビジネスを事例に）
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 20% 期末テスト... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、新たな公共、地域経営

中国経済【夜】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは「中国経済をみる眼」を養うことを通じて、私たちの生活の場にはどのような影響があるかについて理解できるようになることです。
授業では、まず、1949年の中華人民共和国建国以降の中国経済の動向について概説し、なぜ「改革開放」政策が導入されたのかを見ていきます。そして、年代を追ってどのような「改革」や「開放」政策が実施され、その成果がどのようなものであったのかをテキストを参照しながら、理解を深めていきます。また、現在の中国経済をイメージできるように、今の中国で何が起きているのかを知るために新聞、雑誌記事について解説していきます。

教科書 /Textbooks

丸山知雄『現代中国経済』（有斐閣アルマ）有斐閣、2013年、2200円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

三菱総合研究所編『中国情報ハンドブック(2013年版)』、蒼蒼社、2013年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目：中華人民共和国の経済成長の歩み(その1)【1949年～1978年】
- 第2回目：中華人民共和国の経済成長の歩み(その2)【1979年～現在】
- 第3回目：計画経済と市場経済(その1)【計画経済の形成と機能】【中国の計画経済の特徴】
- 第4回目：計画経済と市場経済(その2)【集団農業の解体】【市場経済への転換】
- 第5回目：市場経済の中の国有企業(その1)【国有企業改革の構想と限界】
- 第6回目：市場経済の中の国有企業(その2)【会社制度の導入】
- 第7回目：市場経済の中の国有企業(その3)【国有企業を管理する制度】
- 第8回目：市場経済の中の国有企業(その4)【産業政策の担い手としての国有企業】
- 第9回目：外資系企業と対外開放政策(その1)【対外開放の発端】
- 第10回目：外資系企業と対外開放政策(その2)【外資獲得への模索】
- 第11回目：外資系企業と対外開放政策(その3)【二重貿易体制の意義】
- 第12回目：外資系企業と対外開放政策(その4)【外資に期待される役割】
- 第13回目：外資系企業と対外開放政策(その5)【WTO体制のもとでの外資導入】
- 第14回目：中国の前途に待ち構える罅(その1)【国内需要の不足】
- 第15回目：中国の前途に待ち構える罅(その2)【所得格差】

以上、中国経済の発展過程を時系列に沿って、当時どのようなことがなされ、その成果がどのようなものであったのかについて概説していく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：50%
学習レポート：50%
定期試験では中国経済の動向を理解するために必要な基礎知識が習得できているかを評価とする。
学習レポートは日々の中国経済に関する情報を収集し、分からない術語について調べ、理解を深めようとしたかを評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習レポートを作成するにあたって、新聞を眺めることが必要になってきます。
なお、学習レポート作成については初回の授業時間に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容をより興味深いものにしていくために、日々、新聞を眺めてください。

キーワード /Keywords

改革開放政策、国有企業改革、外資導入政策、社会主義市場経済

経営学入門【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせて企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくこと。また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【ディジョンテーブル】
- 11回 モデル化の演習
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
 本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。
 本講義の具体的な到達目標は次の通りです。
 ① 企業とはどういうものか、ということについてイメージすることができる。
 ② 企業の種類やその特徴について説明できる。
 ③ 株式会社の制度的特徴について説明できる。
 ④ 株式会社の所有と支配について説明できる。
 ⑤ 日本の株式会社の実態について説明できる。
 ⑥ CSR (企業の社会的責任) の概念と基本的な考え方について説明できる。
 ⑦ 企業の目的や存在意義について自分の意見を述べるができる。
 ⑧ CSRの意義について自分の意見を述べるができる。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』(佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(講義の概要や目的、評価方法等の説明)
- 2回 企業とは何か(1) 【企業の定義】【企業の目的】
- 3回 企業とは何か(2) 【企業の役割】【企業の存在意義】
- 4回 企業とは何か(3) 【企業は誰のものか】
- 5回 企業形態(1) 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態(2) 【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 7回 企業形態(3) 【非営利組織】
- 8回 株式会社の制度的特徴(1) 【会社機関】
- 9回 株式会社の制度的特徴(2) 【資本の証券化】
- 10回 株式会社の制度的特徴(3) 【株式会社と証券市場】
- 11回 株式会社における所有と支配 【専門経営者】【所有と支配の分離】
- 12回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(1) 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 13回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(2) 【取締役会改革と委員会設置会社】
- 14回 企業に求められる21世紀型CSR 【CSR(企業の社会的責任)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学や会社法関連の科目を受講しておく、本講義の理解が一層深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態(企業の種類) 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マネジメントをめぐる様々な側面を取り上げ、解説します。企業の中で人間らしく働くことの問題点を明確にして、働くことにとって何が重要であるか、そのためにはどのようなマネジメントが必要であるのか、考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業の概要、勉強することの意義について考える
- 2 私たちのくらしと企業、マネジメント
- 3 企業とマネジメントと社会
- 4 誰が企業を動かし、マネジメントしているのか
- 5 社長と経営者はどのようにマネジメントしているのか
- 6 日本の誇りにしたい企業と良いマネジメント
- 7 日本のブラック企業、失敗したマネジメント
- 8 企業の理念とそれを実現するマネジメント
- 9 マネジメントの仕組みと組織
- 10 企業はどのように製品をつくるのか
- 11 マネジメントと人間らしい働き方
- 12 社員の賃金と労働時間
- 13 人の採用から定年まで
- 14 マネジメントによる社員の人材育成
- 15 企業に入るためには何をすればよいのか

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞を読み、ニュースを見聞すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント、誇りにしたい企業、ブラック企業、人間らしい働き方

データ構造【夜】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 /Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義 (資料を使った説明、およびノート取り) で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料 (パワーポイント資料) は配布しません。どこまで細かくメモするかによりますが、ノートを取る量は多いです。それぞれの理解度にもよりますが、しっかりとした習得には日頃の予習、復習が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は少し高めです。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

データベース【夜】

キーワード /Keywords

マーケティングI【夜】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。そこでマーケティングI(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
林田実「サイコロを振って、統計学!」創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・・・50% テスト・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【夜】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①専門分野の知識・理解およびスキル: 原価計算の知識を理解したうえで、その計算方法を習得する。
- ②課題発見・分析・解決力: 原価計算の視点から、企業の製造活動の問題点を分析できるようになる。
- ③生涯学習力: 現実の企業経営における原価計算の有用性を知る。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

前半：使用しない。

後半：清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会計学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価】
- 9回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産について【資産概念の変化について】
- 13回 負債について【負債概念の変化について】
- 14回 純資産について【企業会計原則】【企業会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...10% 課題...10% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉原論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会・編集『新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉』中央法規出版
※最新版を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2013』中央法規出版
- ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 3回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 4回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 5回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 6回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 7回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 8回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 9回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 10回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 11回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法、地域福祉への展開】
- 12回 福祉政策の国際比較①【欧米の福祉政策】
- 13回 福祉政策の国際比較②【東アジア諸国の福祉政策】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出 (20点) + 中間テスト (30点) + 期末テスト (50点) = 100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1学期開講の「現代社会と福祉1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ教科書の前半部分を自分で学んでおくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学ばせて学びます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。
本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)
伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)
ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』(東洋経済新報社、2012年)。
阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』(岩波書店、2008年)
阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は?
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・解決策を考える
- 9回 循環型社会(1)・・・リサイクルは環境に優しいのか?
- 10回 循環型社会(2)・・・ペットボトルのリサイクル
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。
本年度は授業内容(循環型社会の回数等)を変更する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

国際法I【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱うとともに、国際法上の国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書・参考文献は、初回講義時に、また適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス，国際法の法源

第I部「条約の締結，留保，国内実施，履行確保 - 女子差別撤廃条約を題材に」

第2回 女子差別撤廃条約が結ばれるまで

第3回 女子差別撤廃条約の条約上の義務の履行

第4回 女子差別撤廃条約委員会による締約国の履行状況の監視

第II部「主権国家，平等権，不干渉義務」

第5回 国際法上の国家とは

第6回 国家は法的に平等って言うけれど・・・

第7回 外国は他国の国内問題にどこまで関与できるのか

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「領域と国際法」

第9回 領域制度

第10回 日本と領土問題

第11回 領域国による海・空の実効的支配

第IV部「国際社会における秩序の維持，法の支配の確立への挑戦」

第12回 戦争の違法化と平和的解決の義務化の流れ

第13回 国際司法裁判所(ICJ)と法の支配

第14回 国際刑事裁判所(ICC)と法の支配

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題および学期末試験で評価します。
課題...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

国際法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【紛争解決】【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】

国際法II【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
地球規模の課題とされる「安全保障、核兵器、軍縮・軍備管理」「人権、人道」「開発」「環境」「貿易」などの国際問題をとりあげ、その問題解決のために「国家」「国際機構」「個人」がどのように国際的に協力・協働してきているのかについて、「国益」「共通利益」「国際社会の公益」という3つの異なるレベルの視点に留意しながら、考察していきます。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「安全保障、軍縮・軍備管理、国際人道法」

- 第2回 国連の集団安全保障体制とその実効性
- 第3回 兵器の国際的管理と規制
- 第4回 国際人道法

第II部「人権・人道支援」

- 第5回 人権の普遍性と国籍 - 外国人との共生を考える
- 第6回 難民の国際的保護
- 第7回 難民問題の恒久的解決

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「開発」

- 第9回 開発と国際法
- 第10回 開発援助と人権
- 第11回 国連開発計画（UNDP）の人間開発指数（HDI）が提起した問題

第IV部「環境・貿易」

- 第12回 地球環境を保護する責任 - 共通だが差異のある責任の議論と世代間倫理の観点から
- 第13回 貿易自由化の推進と国内生産の保護とのほざまで
- 第14回 環境と貿易 2つの価値の衝突と調整

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

国際法II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。
国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。
国際社会における，主権国家の機能・役割や，国際機構の機能・役割，個人（NGO等）の機能・役割を正しく理解してほしい。
そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【地球的規模の課題】 【国際協力】 【国家】 【国際機構】 【個人】 【国益】 【共通利益】 【国際社会の公益】

情報ネットワーク【夜】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

職業指導A【夜】

担当者名 /Instructor 綾部 真道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

職業指導・進路指導は、「人間としての在り方・生き方」にかかわる指導であり、学校から社会への接続に伴う極めて重要な指導分野である。
 本講座では、職業と産業および経済社会の発展との関係についての理解を深め、次いで、職業指導・進路指導に係る基礎理論を習得する。さらに、高卒者の職業生活移行への課題を明らかにし、適切な職業指導を行うための資質・能力の育成を目指す。
 講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

梅澤 正著 『職業とキャリア』学文社
 文部科学省編 『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
 日本進路協会編 『高校生のキャリアプラン』実業之日本社
 仙崎 武他著 『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 本講座のガイダンス及び職業の概念
- 第 2 回 産業構造の変化と職業
- 第 3 回 望ましい職業観
- 第 4 回 能力・適性の解釈
- 第 5 回 自己概念と自己変革
- 第 6 回 進路指導(職業指導)の法的規定
- 第 7 回 進路指導(職業指導)の諸活動【個人理解】、【進路情報】、【啓発的経験】
- 第 8 回 進路指導(職業指導)の諸活動【進路相談】、【進路選択・決定の指導】、【追指導】
- 第 9 回 職業適性検査(GATB)・・・(講義及び演習)
- 第 10 回 職業レジネステスト(VRT)・・・(講義及び演習)
- 第 11 回 商業高校卒業生の進路および就職状況の推移。
- 第 12 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職環境の変化】、【就職の仕組み】
- 第 13 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職慣行の見直し等】
- 第 14 回 企業が求める人材について。
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

商業高校生の進路の多様化、就職・職業をめぐる環境の変化及び生徒の資質の課題等についての理解を深め、生徒自らの職業観・勤労観に基づいて、主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図るために、適切な指導・援助を行うことができる教員を目指して真摯に励みましょう。

キーワード /Keywords

職業の概念、能力・適性の解釈、自己概念、職業指導、職業教育

職業指導B【夜】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講座では、「職業指導A」の学修に引き続いて、高等学校における職業指導・進路指導の具体的展開について学び、その上で、インターンシップの推進やキャリア教育への展開等について修得し、適切な職業指導を行うための基礎的な実践的指導能力の育成を目指す。講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』(株)ぎょうせい
『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』(財)日本進路指導協会
文部省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』(財)日本進路指導協会
仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 職業指導(進路指導)の全体計画の立案。
- 第 2 回 ホームルーム活動における職業指導(進路指導)計画。
- 第 3 回 ホームルーム活動における指導の展開(例1-仕事と生きがい-)
- 第 4 回 ホームルーム活動における指導の展開(例2-職業レジネステストの活用-)
- 第 5 回 進路相談の具体的展開(例1-進路適性の理解を深める就職相談-)
- 第 6 回 進路相談の具体的展開(例1-進路計画の立案を助ける進学相談-)
- 第 7 回 インターンシップの意義
- 第 8 回 インターンシップの具体的事例
- 第 9 回 インターンシップの評価と課題
- 第 10 回 キャリア教育が求められる背景
- 第 11 回 キャリア教育の定義及び意義
- 第 12 回 キャリア教育の範囲と内容
- 第 13 回 キャリア教育の基本方向
- 第 14 回 キャリア教育推進のための方策
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

商業高校生の進路の多様化、就職・職業をめぐる環境の変化及び生徒の資質の課題等についての理解を深め、生徒自らの職業観・勤労観に基づいて、主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図るために、適切な指導・援助を行うことができる教員を目指して真摯に励みましょう。

キーワード /Keywords

職業指導(進路指導)、進路相談、インターンシップ、キャリア、キャリア発達、キャリア教育

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし（授業中に適宜紹介する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係:教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 家庭教育の課題:社会化
- 6回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②:日本の教育思想
- 8回 教育史①:西洋教育史
- 9回 教育史②:日本教育史
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:教材・方法
- 13回 職業と教育:進路形成
- 14回 国際化と教育:言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10% 課題 30% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原理解 教育制度とは、教育関係法規、
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育、中等教育
- 4回 教員に関する制度(1) 教員免許法制
- 5回 教員に関する制度(2) 公務員としての教師、教員の指導力と研修
- 6回 教育行政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校
- 7回 生涯学習の制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 8回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 9回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材
- 10回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 11回 学校における教育課程編成
- 12回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 13回 教育課程の開発・評価
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジюме・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の到達目標及びテーマ

- ①学習指導要領を読み、その内容（公民科の目的、改訂の意図など）を理解する。
- ②公民科の授業構成に関する知識・視点を習得し、それを活用しつつ生徒・内容・教材・授業実践のあり方について論じることができる。
- ③公民科の学習指導案を作成することができる。

授業の概要

本授業は、公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。
学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成20年9月・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編『中等社会科の理論と実践』学文社 2007
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり フィールドワークについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
- ミニレポート（毎授業後に提出）・・・ 40%
- 学習指導案・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

グループワークやペアワークを行います。そのため積極的な授業参加が望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公民科科目を指導するために、どのような力が必要か、さまざまな視点を持って考えていきましょう。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

- (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
- (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
- (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
- (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。

上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『高等学校 改訂版 現代社会』（第一学習社）
- 『高校現代社会 新訂版』（実教出版）
- 『高等学校 改訂版 政治経済』（第一学習社）
- 『高校 政治・経済 新訂版』（実教出版）
- 『高等学校 改訂版 倫理』（第一学習社）
- 『高校倫理』（実教出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 学習指導案作成上の留意点
- 第 6回 学習指導案の作成
- 第 7回 生徒の実態を踏まえた教材研究
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（現代社会の諸問題）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済・法）
- 第 12回 模擬授業（現代の諸課題と倫理）
- 第 13回 模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
- 第 14回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度 80%、模擬授業の際に提出する指導案 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)
高等学校学習指導要領 「特別活動」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数全体が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 人権と教育	【人権】【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
8回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動；授業展開)	【学習指導案】【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動；指導技術)	【授業構成】【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科；授業展開)	【授業展開】【導入】【展開】
15回 模擬授業④(各教科；指導技術)	【発問】【説明】【指示・助言】【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 学期末の提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第II章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第III章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第III章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第IV章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第V章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第VII章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 進路指導、キャリア教育における職場体験学習の意義を考える
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章2節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 2回 これからの教師に求められる資質とは(外部講師による講演)
- 3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 4回 教員に求められる対人関係能力について
- 5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の作成
- 7回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 8回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 9回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 10回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 11回 保護者との信頼関係づくりの課題(グループ討論)
- 12回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育を中心に)
- 15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 50%、期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の指導についての基本的な知識を獲得し、理解し、道徳教育についての基本的なスキルを獲得し、課題を発見し、思考し、学習指導案の作成について学習する。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords